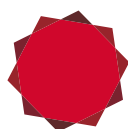


千葉大学

大学院看護学研究院 年報 2021

[2021. 4～2022. 3]

Annual Report 2021
Graduate School of Nursing / School of Nursing
Chiba University



CHIBA
UNIVERSITY



目 次

I. 組織	1
1. 教員組織と構成員（2021年4月1日～2022年3月31日までの在職者）	1
2. 学部生数および大学院生数	2
1) 学部生数.....	2
2) 大学院生数.....	2
II. 教育	3
1. カリキュラム	3
1) 看護学部看護学科.....	3
2) 大学院看護学研究科.....	6
2. 令和3年度教育の取り組み	11
1) 看護学部令和5年度新カリキュラムの検討状況.....	11
2) 大学院看護学研究科.....	13
3. 研究科学位論文一覧	15
III. 研究	19
1. 教員の研究業績（講座別）	19
2. 科研費・競争的資金取得一覧.....	54
1) 文科科研・厚労科研.....	54
2) その他研究助成金.....	57
3. 共同研究	58
1) 国際共同研究	58
2) 民間共同研究	60
IV. 社会貢献活動	61
1. 学協会等への貢献.....	61
2. 国及び地方公共団体等への貢献.....	61
3. メディア・報道等を通じた貢献.....	62
4. 公開講座	62
V. 国際交流	64
1. 海外への渡航者数.....	64
2. 海外からの来訪者数	64
3. 海外の大学との協定	64
1) 大学間協定.....	64
2) 部局間協定	65

I. 組織

1. 教員組織と構成員（2021年4月1日～2022年3月31日までの在職者）

研究部門	講座	教授	准教授	講師	助教・助手	特任／技術	
先端実践看護学	高度実践看護学	岡田 忍		小川 俊子		(技術専門職員) 西尾 淳子	
		中村 伸枝	佐藤 奈保		仲井 あや 中水流 彩		
		眞嶋 朋子			楠 潤子	(特任研究員) 國武由香里	
		増島麻里子			佐野 元洋	(特任専門職員) 佐藤 睦	
		酒井 郁子			佐伯 昌俊	(特命助教) 西宮 岳	
						(特任研究員) 尾上 望	
高齢社会実践看護学		正木 治恵	石橋みゆき		佐々木ちひろ	(特任助教) 山崎由利亜	
						(特任研究員) 坂口 葵	
			黒田久美子				
生活創成看護学	健康増進看護学	小宮山政敏	田中 裕二		雨宮 歩		
		森 恵美	前原 邦江		木村佳代子	(特任准教授) 岩田 裕子	
					遠山 房絵	(特任助教) 棧 あさな	
						(特任研究員) 中島 莉奈	
		北池 正 池崎 澄江					
		田上美千佳 宮崎美砂子		野崎 章子	鈴木 美央		
	地域創成看護学		石丸 美奈		岩瀬 靖子	鈴木 悟子	(技術補佐員) 佐藤 太一
						坂井 文乃	
			諏訪さゆり			湯本 晶代	(特任講師) 飯田貴映子
							(特任助教) 犬山 彩乃
							(特任研究員) 川上 奈々
					今村恵美子		(特任研究員) 芥田 ゆみ
文化創成看護学	文化看護学	山本 利江	斉藤しのぶ		飛世真理子	(特任助教) 小坂 直子	
					宇田川友佳	(特任助教) 菅原 久純	
	専門職育成学		井出 成美		カズノブ ダビッド		
		中山登志子			植田満美子	(技術補佐員) 田代 実香	
	看護政策・管理学	和住 淑子	錢 淑君	高木 夏恵			
		野地 有子				(特任教授) 藤田比左子	
						(特任研究員) 炭谷 大輔	
						(技術補佐員) 米田 礼	
	手島 恵	杉田由加里	飯野 理恵				
附属看護 実践・教育・ 研究共創センター		センター長 (和住 淑子)					
附属専門職連携 教育研究センター		センター長 (酒井 郁子)	(井出 成美)			(特任講師) 臼井いづみ (特任講師) 孫 佳茹 (特命助手) 馬場由美子	
計		19	9	6	17	24	

2. 学部生数および大学院生数

(2021年4月現在)

1) 学部生数

学 部 (入学定員)		在校生 (留学生再掲)	卒業生累計 (2020年度迄)
看護学部看護学科 総数 (80名+若干名)		332 (3)	3570
在校生内訳	1年	84	
	2年	84 (3)	
	3年	82	
	4年	82	

2) 大学院生数

カリキュラム	専 攻	課 程 (入学定員)	在校生 (留学生再掲)	修了生累計 (2020年度迄)
大学院生 総数			158 (14)	1245
旧カリキュラム	看護学	博士前期課程 (25名)	26 (1)	848
		国際プログラム 博士前期課程 (若干名)	0	(内数) 5
		博士後期課程 (12名)	48 (3)	226
		国際プログラム 博士後期課程 (若干名)	5 (5)	(内数) 2
	看護システム 管理学	修士課程 (12名)	22 (0)	162
	共同災害 看護学	5年一貫制博士課程 (2名)	7 (0)	2
新カリキュラム	看護学	博士前期課程 (40名)	34 (3)	0
		国際プログラム 博士前期課程 (若干名)	0 (0)	0
		博士後期課程 (15名)	16 (2)	0
		国際プログラム 博士後期課程 (若干名)	0 (0)	0

II. 教育

1. カリキュラム

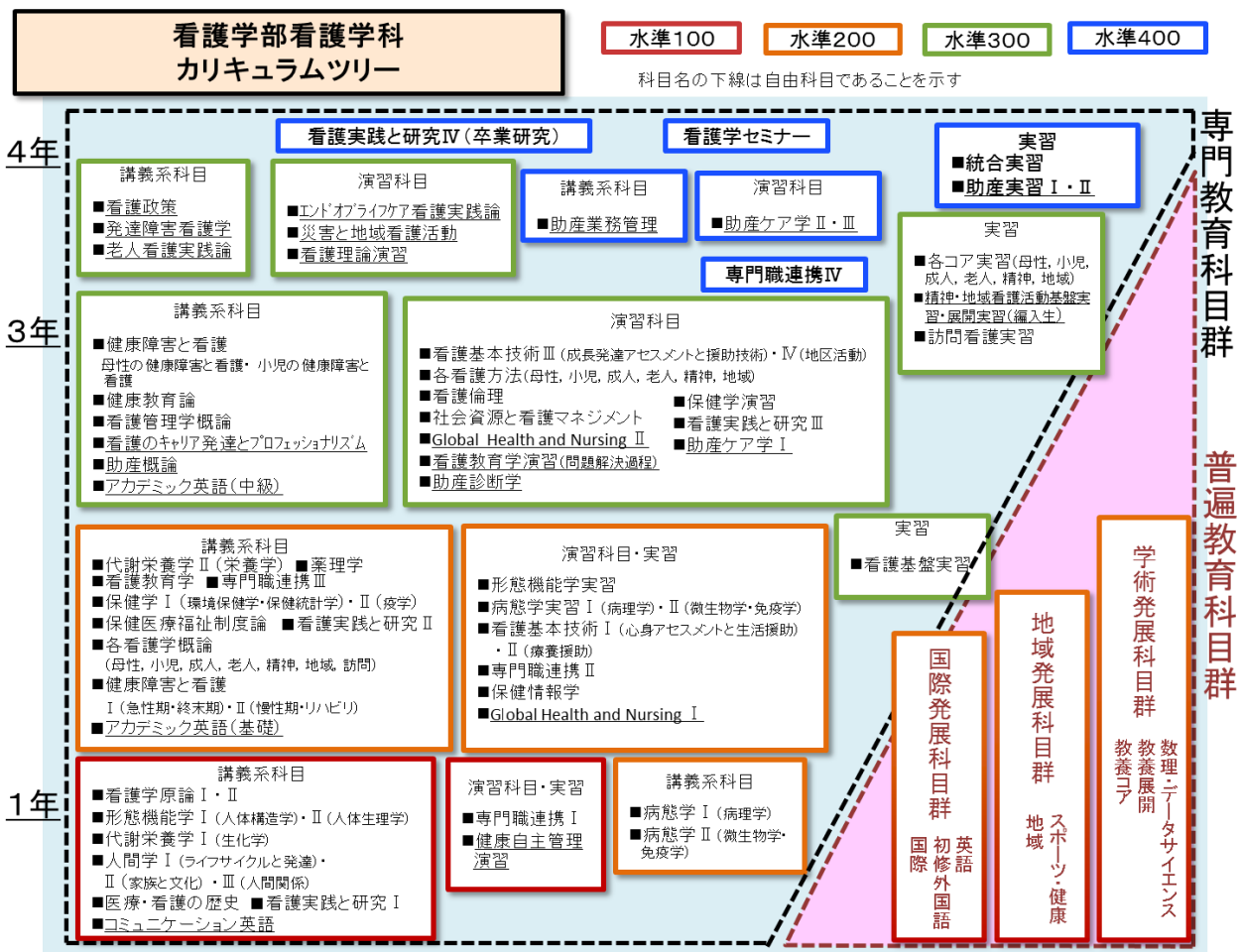
1) 看護学部看護学科

(1) 看護学科の教育課程の構成と特徴

本学科の4年間の教育課程は、看護学の基礎を教授するという観点から、次のように授業科目を体系的に整えている。すなわち、看護学の専門分野を紹介・導入し、博士課程への準備を整えるための専門科目とこれらの基礎となる専門基礎科目から構成される「専門教育科目」をおく。更に、看護専門職に不可欠な、深い人間理解につながる能力、広い視野を持つ判断能力、科学的問題解決能力ならびにこれらの学習を支える基礎学力の育成のために「普遍教育科目」をおく。

卒業時には、「学士（看護学）」の学位が授与され、保健師、看護師の国家試験受験資格が、また一部所定の科目を履修した場合、助産師の国家試験受験資格が与えられる。

なお、本学科は、社会人入試入学生、私費外国人留学生、3年次編入学生、科目等履修生などを受け入れている。このように様々な経験を有する者とともに学習する機会を多くしている。



(2) 臨地実習協力施設一覧

<病院>

- ・千葉大学医学部附属病院
- ・千葉県こども病院
- ・千葉県精神科医療センター
- ・千葉県千葉リハビリテーションセンター
- ・千葉メディカルセンター
- ・千葉中央メディカルセンター
- ・船橋中央病院
- ・成田赤十字病院
- ・船橋市立医療センター
- ・千葉県救急医療センター
- ・東京歯科大学市川総合病院
- ・山王病院
- ・東京かつしか赤十字母子医療センター
- ・木村病院

<高齢者施設>

- ・JCHO 千葉病院附属介護老人保健施設

<助産院>

- ・おおた助産院
- ・若草助産院

<診療所>

- ・有秋台医院
- ・東京ほくと医療生活協同組合【浮間診療所】
- ・ファミリー産院ちば
- ・医療法人 愛和会 愛和病院
- ・医療法人 成和会 山口病院

<市町村>

- ・市原市保健センター
- ・白井市
- ・鎌ヶ谷市
- ・千葉市中央保健福祉センター
- ・千葉市花見川保健福祉センター
- ・千葉市緑保健福祉センター
- ・千葉市美浜保健福祉センター
- ・千葉市若葉保健福祉センター
- ・千葉市稲毛健康福祉センター

<県>

- ・安房健康福祉センター
- ・君津健康福祉センター
- ・印旛健康福祉センター
- ・夷隅健康福祉センター

<訪問看護ステーション>

- ・なごみの陽訪問看護ステーション
- ・緑が丘訪問看護ステーション
- ・花見川訪問看護ステーション
- ・みやのぎ訪問看護ステーション
- ・土気訪問看護ステーション
- ・訪問看護ステーションかがやき
- ・訪問看護ステーションゆうこう
- ・白十字訪問看護ステーション
- ・いちかわ訪問看護ステーション
- ・てんだい訪問看護ステーション
- ・ふたわ訪問看護ステーション
- ・さわやか訪問看護ステーション
- ・みなみはま訪問看護ステーション
- ・しらはた訪問看護ステーション
- ・生活クラブ風の村訪問看護ステーション稲毛
- ・看護協会ちば訪問看護ステーション
- ・訪問看護ステーションあすか
- ・まくはり訪問看護ステーション
- ・訪問看護サボテン
- ・訪問看護ステーションコスモス

<地域包括支援センター>

- ・十条高齢者あんしんセンター
- ・医療法人社団 慶勝会 館山市地域包括支援センター いちご

<小中学校>

- ・千葉市立畑小学校
- ・千葉市立高洲小学校
- ・千葉市立高浜第一小学校
- ・千葉市立幕張東小学校
- ・千葉市立草野小学校
- ・千葉市立轟町中学校
- ・千葉市立稲丘小学校
- ・千葉市立さつきが丘東小学校
- ・千葉市立稲毛第二小学校
- ・千葉市立本町小学校
- ・千葉市立小中台小学校
- ・千葉市立検見川小学校
- ・千葉市立稲浜中学校
- ・千葉市立小倉小学校
- ・千葉市立大森小学校
- ・千葉市立幕張本郷中学校

<保育園>

- ・みつわ台保育園
- ・旭ヶ丘保育園
- ・若竹保育園
- ・今井保育園
- ・作草部保育園
- ・稲毛保育園
- ・幕張海浜こども園

<その他>

- ・NPO 法人けやきと仲間
- ・NPO 法人山友会
- ・あやめ台住宅管理組合
- ・スペースびあ茂原
- ・森永エンゼル 110 番
- ・千葉市子育て支援館
- ・モーハウス
- ・公益財団法人 ちば県民保健予防財団

(敬称略、順不同)

2) 大学院看護学研究科

本研究科のミッションは、看護学の新領域の研究及び先進的教育プログラムの開発により、我が国の看護学の発展をグローバルに牽引する人材を育成すること、看護系大学の教育を担う教育研究者養成の日本における最大規模の拠点としての役割を果たすことである。このミッションを確実に果たすためにカリキュラムを全面的に見直し、2021年度より教員組織体制を改革すると同時に、博士前期・後期課程の新カリキュラムを稼働した。

(1) 看護学専攻：博士前期課程・国際プログラム

① 教育目的および特徴

博士前期課程は、2年間の教育課程であり、教育・研究者の育成を主眼とした「看護学コース」、および、卓越した能力を備えた高度実践者・看護管理者を育成する「看護実践学コース」に大別され、さらに「看護実践学コース」には『看護管理学プログラム』『高度実践看護学プログラム』『特定看護学プログラム』が含まれる。

「看護学コース」においては、社会の要請にこたえる新領域の研究を理論開発の面から推進すると共に、看護学と看護実践の往還を具現化する研究力を有する教育・研究者を育成することを旨とする。

「看護実践学コース」においては、課題やニーズの分析及び看護理論やモデルの実践的検証に必要な研究力、看護実践の質向上や組織変革に必要となるリーダーシップを発揮する能力を備えた高度実践者・看護管理者を育成することを旨とし、以下3つのプログラムごとに特徴を記す。『看護管理学プログラム』では、組織変革のためのリーダーシップが発揮できる人材を育成する。修了者は認定看護管理者の受験資格を得ることができる。『高度実践看護学プログラム』では、科学的根拠に基づくケア改善のリーダーシップが発揮できる人材、研究能力のある専門看護師を育成する。本プログラムはがん看護専門看護師ならびに小児看護専門看護師の教育課程として、日本看護系大学協議会から認定を受けている。『特定看護学プログラム』では、根拠に基づいた特定行為を含むケア提供のためのクリニカルリーダーシップが発揮できる人材を育成する。本プログラムは、2021年度に新設され、厚生労働省が定める特定行為研修と連動している。

2021年度からの新カリキュラムでは、共通基盤科目として、研究方法や研究倫理等に関わる科目を含む「研究学術モジュール」、看護学革新力の基礎や看護管理学等に関わる科目を含む「実装モジュール」、臨床推論や臨床病態学、地域包括ケア論等を含む「実践モジュール」の3つの科目群を設置し、大学院生は各プログラムの特性に応じて指定された必須・選択科目を履修し、その後の専門関連科目や研究科目を学修する。特に、共通基盤科目においては、看護学コース等、他コースや他プログラムの大学院生も履修することから、背景の異なる大学院生が共に会し、意見交換をすることによる学修を促すことも意図している。

国際プログラムは「看護学コース」のみであり、英語による独立したカリキュラムである。

〔看護学コース〕 修了要件：30単位以上

<p>研究：12単位 必修</p> <p>看護実践に必要な諸理論、知識、方法を修得し、問題を解決する能力を涵養する</p> <ul style="list-style-type: none"> ●理論開発特別研究 (12) 	<p>演習：6単位 必修</p> <p>専門分野の深い学識を、問題解決に活用するための実践的考察</p> <ul style="list-style-type: none"> ●看護研究演習 (6) 	<p>専門科目：主専攻の2単位 選択必修</p> <p>社会や人々を多層な視座からとらえ、自己の専門分野における研究開発の必要性を検討する</p> <ul style="list-style-type: none"> ●先端実践看護学Ⅰ (1) ●先端実践看護学Ⅱ (1) ●文化創成看護学Ⅰ (1) ●文化創成看護学Ⅱ (1) ●生活創成看護学Ⅰ (1) ●生活創成看護学Ⅱ (1)
<p>共通基盤科目：研究学術モジュール5単位、実装モジュール1単位、実践モジュール4単位を含む10単位以上</p>		
<p>研究学術モジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ●看護学研究Ⅰ (必修1) ●看護学研究Ⅱ (必修1) ●看護学研究Ⅲ (必修1) ●看護学研究Ⅳ (1) ●アカデミックコミュニケーションⅠ (1) ●アカデミックコミュニケーションⅡ (1) ●アカデミックコミュニケーションⅢ (1) 		<p>実装モジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ●看護革新力の基礎 (必修1) ●EBP実装 (1) ●プロジェクト・マネジメント (1) ●看護管理学 (2) ●看護教育学 (2) ●専門職連携教育論 (1) ●専門職連携実践論 (1)
<p>実践モジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ●看護理論 (1) ●看護倫理 (1) ●e-learning演習臨床推論 (1) ●コンサルティング (1) ●看護専門職論 (1) ●ナーシングフィジカルアセスメント (2) ●臨床病態学 (2) ●臨床薬理学 (2) ●e-learning演習フィジカルアセスメント (1) ●e-learning演習臨床病態生理学 (1) ●e-learning演習疾病臨床病態学 (1) ●e-learning演習臨床薬理学 (1) ●組織マネジメント論 (1) ●e-learning医療安全学 (1) ●災害看護活動論(復旧・復興) (1) ●災害マネジメント論 (1) ●災害時専門職連携演習 (1) ●地域包括ケア論 (1) ●看護政策 (1) 		

〔看護実践学コース看護管理学プログラム〕 修了要件：30単位以上

<p>研究：12単位 必修</p> <p>自組織の課題を解決するためのプロジェクト型研究を行うことで高度な探究能力を涵養する</p> <ul style="list-style-type: none"> ●看護管理課題研究 (12) 	<p>演習：6単位 必修</p> <p>職場の課題解決のための情報活用や解決能力を修得する</p> <ul style="list-style-type: none"> ●看護管理学演習 (6) 	<p>専門科目：主専攻の2単位 選択必修</p> <p>保健医療システムの変化や、医療の高度化、多様化、国際化した看護について深い学識を修得する</p> <ul style="list-style-type: none"> ●先端実践看護管理学Ⅰ (1) ●先端実践看護管理学Ⅱ (1) ●文化創成看護管理学Ⅰ (1) ●文化創成看護管理学Ⅱ (1) ●生活創成看護管理学Ⅰ (1) ●生活創成看護管理学Ⅱ (1)
<p>共通基盤科目：研究学術モジュール4単位、実装モジュール4単位、実践モジュール2単位を含む10単位以上</p>		
<p>研究学術モジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ●看護学研究Ⅰ (必修1) ●看護学研究Ⅱ (必修1) ●看護学研究Ⅲ (必修1) ●看護学研究Ⅳ (1) ●アカデミックコミュニケーションⅠ (1) ●アカデミックコミュニケーションⅡ (1) ●アカデミックコミュニケーションⅢ (1) 		<p>実装モジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ●看護革新力の基礎 (必修1) ●EBP実装 (1) ●プロジェクト・マネジメント (必修1) ●看護管理学 (2) ●看護教育学 (2) ●専門職連携教育論 (1) ●専門職連携実践論 (1)
<p>実践モジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ●看護理論 (1) ●看護倫理 (1) ●e-learning演習臨床推論 (1) ●コンサルティング (1) ●看護専門職論 (1) ●ナーシングフィジカルアセスメント (2) ●臨床病態学 (2) ●臨床薬理学 (2) ●e-learning演習フィジカルアセスメント (1) ●e-learning演習臨床病態生理学 (1) ●e-learning演習疾病臨床病態学 (1) ●e-learning演習臨床薬理学 (1) ●組織マネジメント論 (1) ●e-learning医療安全学 (1) ●災害看護活動論(復旧・復興) (1) ●災害マネジメント論 (1) ●災害時専門職連携演習 (1) ●地域包括ケア論 (1) ●看護政策 (1) 		

〔看護実践学コース高度実践看護学プログラム〕 修了要件：54単位以上

<p>研究：12単位 必修</p> <p>高度実践を行う際にエビデンスを活用するだけでなく、自らエビデンスを生み出す問題解決能力を涵養する</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 専門看護特別研究 (12) 	<p>演習・実習：14単位 必修</p> <p>複雑な健康問題をもつ対象にケアとキュアを統合し役割を担う能力を修得する</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 看護学実習I-III (10) ● 看護学演習 (4) 	<p>専門科目：主専攻の10単位 選択必修</p> <p>保健医療福祉のシステムの変化や高度実践に必要な役割を学び、ケアシステムの改善に向けた幅広く深い学識を修得する</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>小児看護専門看護師 10単位</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 小児看護学A・B ● 小児と環境の査定 ● 小児の病態 ● 小児の保健・医療制度 </div> <div style="width: 45%;"> <p>がん看護専門看護師 10単位</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 成人看護学A・B ● 臨床腫瘍学概論 ● 腫瘍医療ケアコーディネーション ● エンドオブライフケア看護学 </div> </div>
<p>共通基盤科目：研究学術モジュール3単位、実装モジュール5単位、実践モジュール10単位を含む18単位以上</p>		
<p>研究学術モジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 看護学研究Ⅰ (必修1) ● 看護学研究Ⅱ (必修1) ● 看護学研究Ⅲ (必修1) ● 看護学研究Ⅳ (1) 	<p>実装モジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 看護革新力の基礎 (必修1) ● EBP実装 (1) ● プロジェクト・マネジメント (1) ● 看護管理学 (必修2) ● 看護教育学 (必修2) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 専門職連携教育論 (1) ● 専門職連携実践論 (1)
<p>実践モジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 看護理論 (必修1) ● 看護倫理 (必修1) ● e-learning演習臨床推論 (1) ● コンサルテーション (必修1) ● 看護専門職論 (1) ● ナーシングフィジカルアセスメント (必修2) ● 臨床病態学 (必修2) ● 臨床薬理学 (必修2) ● e-learning演習フィジカルアセスメント (1) ● e-learning演習臨床病態生理学 (1) ● e-learning演習疾病臨床病態学 (1) ● e-learning演習臨床薬理学 (1) ● 組織マネジメント論 (1) ● e-learning医療安全学 (1) ● 災害看護活動論(復旧・復興) (1) ● 災害マネジメント論 (1) ● 災害時専門職連携演習 (1) ● 地域包括ケア論 (1) ● 看護政策 (必修1) 		

〔看護実践学コース特定看護学プログラム〕 修了要件：41単位以上

<p>研究：6単位 必修</p> <p>自組織の課題や専門職連携の障壁の分析、特定行為の効果・検証を行う能力を涵養する</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 特定看護課題研究 (6) 	<p>演習・実習：10単位 必修</p> <p>特定行為を看護と統合して提供するため専門職連携・問題解決能力を涵養する</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 特定看護実習 (6) ● 特定看護演習 (4) 	<p>専門科目：7単位～29単位 選択必修</p> <p>特定行為を患者・利用者の価値を尊重して実践し、地域包括ケアシステムを推進するために必要となる深い学識と確かな技術を修得する</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 特定看護実践論Ⅰ (1) ● 特定看護実践論Ⅱ (1) ● 特定行為研修区別科目 (5～27) <p>コンフォートケア科目群(5) リハビリケア科目群(8) ロングタームケア科目群(6) クリティカルケア科目群(8)</p>
<p>共通基盤科目：研究学術モジュール3単位、実装モジュール5単位、実践モジュール10単位を含む18単位以上</p>		
<p>研究学術モジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 看護学研究Ⅰ (必修1) ● 看護学研究Ⅱ (必修1) ● 看護学研究Ⅲ (必修1) ● 看護学研究Ⅳ (1) 	<p>実装モジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 看護革新力の基礎 (必修1) ● EBP実装 (必修1) ● プロジェクト・マネジメント (1) ● 看護管理学 (2) ● 看護教育学 (2) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 専門職連携教育論 (1) ● 専門職連携実践論 (1)
<p>実践モジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 看護理論 (1) ● 看護倫理 (1) ● e-learning演習臨床推論 (必修1) ● コンサルテーション (1) ● 看護専門職論 (1) ● ナーシングフィジカルアセスメント (2) ● 臨床病態学 (2) ● 臨床薬理学 (2) ● e-learning演習フィジカルアセスメント (必修1) ● e-learning演習臨床病態生理学 (必修1) ● e-learning演習疾病臨床病態学 (必修1) ● e-learning演習臨床薬理学 (必修1) ● 組織マネジメント論 (1) ● e-learning医療安全学 (必修1) ● 災害看護活動論(復旧・復興) (1) ● 災害マネジメント論 (1) ● 災害時専門職連携演習 (1) ● 地域包括ケア論 (必修1) ● 看護政策 (1) 		

② 臨地実習協力施設一覧

<病院・診療所>

- ・千葉大学医学部附属病院
- ・千葉県こども病院
- ・千葉徳洲会病院
- ・千葉中央メディカルセンター
- ・成田赤十字病院
- ・おおた小児科
- ・東京女子医科大学附属八千代医療センター

<その他>

- ・訪問看護ステーションフレンド
 - ・ひびき金港町保育園
- (敬称略、順不同)

(2) 看護学専攻：博士後期課程・国際プログラム

① 教育目的および特徴

博士前期課程は、3年間の教育課程であり、社会の要請に応える新領域の研究を理論開発の面から推進すると共に、看護学と看護実践の往還を具現化する研究力を有する教育・研究者、及び学際的な視点をもつ理論やモデルを創出・検証する研究者を育成する。

2021年度からの新カリキュラムでは、共通基盤科目として学際研究や看護革新力の展開等に関わる科目、専門科目として研究テーマに応じた看護特論、コンソーシアム科目として災害マネジメント論等の科目が開講される。

国際プログラムは、英語による独立したカリキュラムである。

〔博士後期課程〕 修了要件：12単位以上

研究：5単位 必修 研究の進捗管理について、研究倫理に則り学生が主体的に取り組む能力を涵養する ●特別研究(5)	演習：2単位 必修 研究課題の設定、研究計画の策定について、研究倫理に則り学生が主体的に取り組む能力を涵養する ●特別演習(2)	専門科目：主専攻の2単位 選択必修 専門性の高い研究領域における新しい知見や価値の創造に向けた考察 ●先端実践看護学特論(2) ●生活創成看護学特論(2) ●文化創成看護学特論(2)
共通基盤科目：3単位以上 選択必修 ●学際研究Ⅰ(導入)(必修1) ●看護革新力の展開(必修1) ●Academic Writing(必修1) ●学際研究Ⅱ(発展)(1) ●看護イノベーション特論(1) ●Systematic Review(1) ●グローバル演習(1)		

2. 令和3年度教育の取り組み

1) 看護学部令和5年度新カリキュラムの検討状況

(1) カリキュラム改訂に至る経緯

予測不可能な時代において看護学の価値を理解し、研究・教育・実践の場で活躍する人材を育成し続けるためには、持続可能な教育組織となるよう組織改編を行う必要があることから、2021年に教育組織と教員組織を分離した「教-教分離」体制への改組がなされた。

併せて、実習の内容や方法についても話し合い、臨地実習においては学内の教員のみならず、実習施設に所属する臨床講師等を積極的に導入し、再検討する必要性が明確になった。さらに、実習単位の実質化に向けて、内容と方法、開講時期の変更は必至であり、カリキュラム全体を改訂する必要が生じた。このため、令和5年度入学者より新たなカリキュラムで教育を開始することとし、令和3年(2021)度より新カリキュラムの検討を開始することとなった。

なお、改組に伴う学部教育における今後の教員組織の検討結果は、令和2年9月及び令和3年3月の教授会にて報告した。

(2) 新カリキュラム検討組織

新カリキュラム検討は、学部教務委員会を中心とした組織で実施された。

令和3年度の学部教務委員会は以下の通りである。

◎石橋みゆき、○齊藤しのぶ、○飯野理恵、岡田忍、中山登志子、石丸美奈、池崎澄江、前原邦江、井出成美、野崎章子

(◎は委員長、○は副委員長、下線は新カリキュラムの目標検討ワーキンググループメンバー)

また、学部教務委員会の元に、科目等検討グループがおかれ、学部教務委員会委員は、グループ長として、課題に関する意見のとりまとめ等の役割を果たした。

科目検討グループ	課題
①専門基礎・専門科目	<ul style="list-style-type: none">・専門基礎科目の運営体制・専門基礎科目と専門科目の連動・科目の整理・追加・統合
②看護技術演習・実習科目	<ul style="list-style-type: none">・社会の変化を見据えた臨地実習施設の確保・全教員がかかわる演習、臨地実習指導体制・臨地指導者との連携体制
③専門職連携科目	<ul style="list-style-type: none">・持続可能な科目運営体制・TAの活用方略
④国際グローバル科目 ・ENGINE・留学	<ul style="list-style-type: none">・持続可能な科目運営体制・留学支援体制の構築

(3) 令和3年度の取組

○定例カリキュラム検討および教員懇談会における全教員での検討

1) カリキュラム検討(定例)

①新カリキュラムの教育目標②カリキュラム軸③内容の諸要素について検討を進めた。

2) 教員懇談会での検討

①教員全員での検討の必要があることから、①②③の内容について案を提示し、教員全員の意見を収集。

②収集した意見をカリキュラム検討時間等にて再検討。
教員懇談会の日程とテーマは以下の通りである。

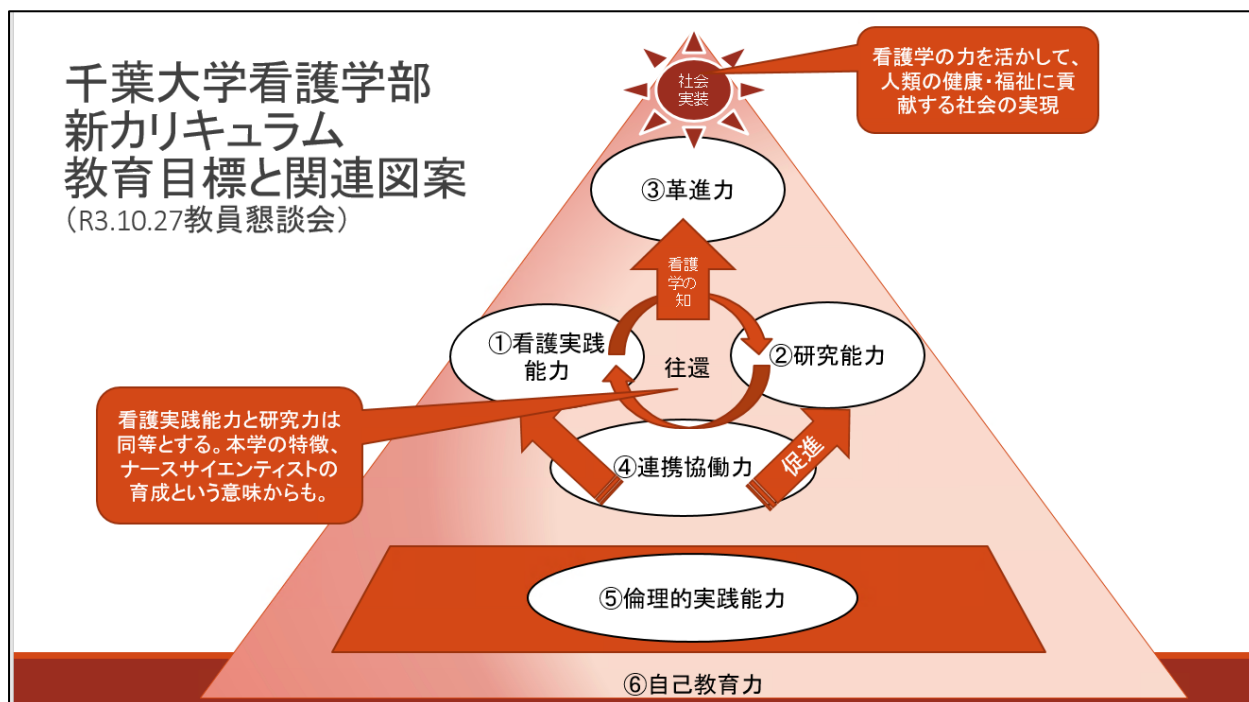
○令和3年度教員懇談会における学部教務委員会提案課題と討議事項

- 4月28日 令和5年度開始 学部新カリキュラム検討に向けて
(キックオフ：30年後の社会と卒業生の活躍を想定し、今後10年で達成すべき目標について)
- 6月23日 令和5年度開始学部新カリキュラム検討の報告(新目標の提案と意見交換)
- 10月27日 新たな目標とカリキュラムの枠組について
(新目標の合意とカリキュラム軸の考え方)
- 11月24日 看護学部新カリキュラムにおけるスマートDXの活用可能性について
(自由討議：スマートDXの教育の手段としての活用可能性の検討)

○学部教務委員会における令和3年度カリキュラム検討の経緯と成果

①新カリキュラムの教育目標の設定

- 4月28日 教員懇談会にて宿題「30年後の社会と卒業生の活躍(養成する人材像、将来の看護学のビジョン)を描き、描いたビジョンをふまえ、今後10年で達成すべき目標を明文化する」の依頼
- 6月2日 教務委員会にて目標と関連図作成を検討
- 6月23日 教員懇談会での意見をうけ修正(目標検討WG編成)
- 7月～8月 目標検討WGにて複数回、目標と関連図を検討
- 9月 執行部会に修正版教育目標提示
- 10月27日 教員懇談会において新カリキュラム目標合意



令和5年度新カリキュラム6つの目標とその関連説明

- ①根拠に基づく看護実践能力
- ②人類の健康と福祉に寄与する看護学の知を産出する研究能力
- ③問題の解決や変化への対応に向け、地球規模的な視点を持って看護学の知を社会に実装することを通して看護の立場から社会を革進する力(革進力)
- ④看護実践、研究活動、社会実装といったあらゆる活動に関わる人々と連携協働する能力(連

携働力)

- ⑤看護実践能力、研究能力、革進力、連携協働力を支える看護専門職としての倫理的実践能力
- ⑥生涯にわたってより高き者を目ざすために必要な自己教育力
看護実践力、研究能力、革進力、連携協働力、倫理的実践能力のすべてに関連する

②カリキュラムの水平軸と垂直軸及び内容の諸要素の検討

- ・目標検討WGで、令和3年11月～令和4年1月にかけて、4回の教員懇談会における討議の経過で得られた「内容の諸要素」のすべての内容を分析し、カリキュラムの軸となる要素を導き、水平軸と垂直軸のどちらに位置付けられるかを検討した。
- ・2月9日の教務委員会にて、以下の水平軸と垂直軸を合意した。

○8つの垂直軸：各学年を通して積み上げていく

- A.看護の対象、B.看護の対象を取り巻く環境、C.人々の生活と健康、
 - D.看護実践のための技術、E.看護実践と研究、F.人々の健康と福祉に資する課題解決策の考案、
 - G.専門職としての倫理的実践、H チーム・組織で活動できる連携協働実践
- ※それぞれについて、内容の諸要素を検討し、レベルⅠ～Ⅳに内容を分類

○水平軸の要素：方法論的の側面で、どの学年にも共通して強調される

- ・自己教育力・統一体としての人間理解・多様性と包摂・連携・協働・関係構築
- ・専門職としての責務・問題解決力・生命、人権の尊重と擁護

2) 大学院看護学研究科

1. 大学院リーディングプログラム（災害看護グローバルリーダー養成プログラム）の設置

① 担当教員

◎宮崎美砂子、佐藤奈保

② 概要

大学院リーディングプログラムとして、博士前期・後期あるいは博士後期課程にて災害看護学分野を学修・研究することを目的として入学した学生で、同分野に係る博士論文を執筆し、災害看護コンソーシアム科目※を10単位以上履修したうえで博士後期課程を修了した者に対し、災害看護グローバルリーダーとして認め、博士（看護学）の学位の授与と共に、学位記に **Disaster Nursing Global Leader** を付記する。

看護学研究科では、災害看護副専攻プログラムを設置し、博士前期・後期あるいは博士後期課程にて災害看護学以外の分野を学修・研究する学生で、災害看護コンソーシアム科目※を10単位以上履修したうえで博士後期課程を修了した者に対し、博士（看護学）の学位の授与と共に、災害看護副専攻プログラム認定証の発行を行う。

*災害看護コンソーシアム科目について

千葉大学、高知県立大学、兵庫県立大学、東京医科歯科大学、日本赤十字看護大学（以下、5大学とする）が、大学院リーディングプログラムとして設置していた共同災害看護学専攻(DNGL)を発展させた後継プログラムとして、5大学のそれぞれの強みを生かした科目を互いに提供し、各大学院の人材育成を強化・補完するものとして、2021年度より開講するもの。

③ 本年度の取り組み

千葉大学では、災害看護コンソーシアム科目として「災害マネジメント論」「災害看護活動論（復旧・復興）」「災害時専門職連携演習」を開講した。5大学の大学院生が、コンソーシアム科目の受講を希望する場合、各大学にて「特別聴講学生」の身分を取得する必要がある。2021年度は、5名の特別聴講学生が千葉大学のコンソーシアム科目を受講した。

④ 資金

なし

2. 2020年度からの全員留学ENGINEのための教育基盤の整備

① 担当教員

大学院教務委員会 ◎増島麻里子委員長 手島恵副委員長

② 概要

千葉大学として全員留学を開始した2020年度博士前期課程入学者が、2021年度の修了にあたり、全員が留学に資する学修が進むよう看護学研究科における教育基盤を整備した。

③ 本年度の取り組み

2020・2021年度は、COVID-19感染症の拡大により、実際の留学は困難であった。看護学研究科では、博士前期課程在学中の2年間、海外に行くことが難しい状況にあった大学院生の状況に鑑み、国際学会等への参画の学びを体感できる機会として、香港大学主催の国際学会やICNを初めとする最新のオンライン国際学会に関わるインフォメーションを適時周知した。また、ENGINE（緊急）代替プログラムとして、Nightingale Challengesを引き続き提供するとともに、部局独自プログラムにおけるENGINEサポートの対象条件として、国際学会等へのオンライン参加について、当該学生については筆頭研究発表者としてだけでなく、共同研究発表者または発表なしの一般参加であっても、1.当該学生にとって留学の代替として教育的効果があると指導教員が判断した場合、2.ENGINE計画書に記載した代替プログラムの履修に加えて実施した場合のいずれの条件をも満たした場合は、留学に資する活動とみなすこととした。

④ 資金

なし

3. 研究科学位論文一覧

令和3年度千葉大学大学院看護学研究科学位論文一覧

[博士論文(甲号)]

専門領域	論文名	氏名	指導教員
成人看護学	Development of care program by ward nurses on improving positive emotional experience for Chinese postoperative breast cancer patients undergoing radiotherapy	JIANG TONG TONG	眞嶋 朋子
老人看護学	Development of a nurse-led supportive care program for Chinese women with newly diagnosed breast cancer undergoing chemotherapy	CAI YINGJIE	正木 治恵
訪問看護学	認知症高齢者の文書読解の特徴	犬山 彩乃	諏訪さゆり
看護管理学	介護老人保健施設入所者に対する誤嚥性肺炎の包括的ケアを促す看護モデルの開発と評価	小熊亜希子	岡田 忍
成人看護学	集中治療室における家族のケア参加の支援に関する看護の質指標の開発と実現可能性の検討	松戸 麻華	眞嶋 朋子
老人看護学	集中治療室における終末期高齢患者の comfort に着目した意思決定支援ガイドの開発	楊 恵晴	正木 治恵
老人看護学	一般病棟の看護師の感情を手がかりとした認知症ケア困難場面ワークシートの開発	石井 優香	正木 治恵
老人看護学	高齢者の過去の背景を活かした看護に関する情報共有ツールの開発—個別性のある看護の展開に向けて—	伊東 真理	正木 治恵
地域看護学	ボランティア活動における高齢者グループの学習の構造と支援—高齢者の Well-being の向上と地域の発展を目指す支援ガイドの開発に向けて—	堀田かおり	石丸 美奈
訪問看護学	高齢者の不動による痛みの概念開発とケアガイドの作成	山下 由香	諏訪さゆり
看護教育学	学習ニードアセスメントツールと学習ガイドの開発—手術看護に携わる看護師の学習ニード充足に向けて—	須藤 栞	中山登志子

[博士論文(乙号)]

専門領域	論文名	氏名	指導教員
	地域包括支援センターにおける独居認知症高齢者のコミュニティでの生活継続を目指した支援指針の開発	鈴木久美子	石丸 美奈

〔修士論文〕

専門領域	論文名	氏名	指導教員
小児看護学	長期フォローアップ受診における小児がん経験者の判断と行動化の過程	佐野 唯	中村 伸枝
小児看護学	白血病を経験した小中学生とその保護者の学校生活に向けた準備と退院後の調整	鈴木 佳澄	中村 伸枝
小児看護学	造血幹細胞移植を受けた学童期から青年期にある小児がん経験者における退院後の身体調整と健康管理	長橋由実香	中村 伸枝
成人看護学	終末期がん患者の自律を尊重する緩和ケア病棟看護師の倫理的ジレンマへの対処を背景としたカンファレンスの意義	松井美佐保	増島麻里子
成人看護学	浅い鎮静で人工呼吸器管理を受ける患者の Discomfort に対する ICU 看護師の認識	藤澤沙耶香	眞嶋 朋子
成人看護学	がんに罹患した母親がソーシャルサポートを得て母親役割を再構築していく体験	細羽 祐依	増島麻里子
成人看護学	短期間で看取りを迎えた患者と家族に対する救急医療機関の一般病棟の熟練看護師の看護援助	臼井 智子	眞嶋 朋子
成人看護学	食道がん術後患者の全人的苦痛に対する看護実践	飛田 洋輔	眞嶋 朋子
老人看護学	インスリン療法を継続する高齢糖尿病患者への外来看護援助ー認知機能低下の疑いを契機とした支援の展開ー	石井 彩	石橋みゆき
老人看護学	在日外国人ケアスタッフが語る日本の高齢者ケア施設で働き続ける上での支え	全 美玲	石橋みゆき
生体看護学	気管切開を持つ重症心身障害児（者）の気道の加湿状況と加湿方法の検討～呼吸の湿度に影響を及ぼす要因について考える～	中川 恵子	小宮山政敏
生体看護学	履物と床材の違いによる足底外力の比較	中島由紀子	雨宮 歩
生体看護学	経鼻経管栄養胃チューブ接触センサシート構造の検討と自己抜去想定動作の定量化	松村 彩	雨宮 歩
リプロダクティブヘルス看護学	生後4か月までの双子の親の子育てにおけるソーシャル・サポート体験	北村 美紀	森 恵美
健康管理看護学	大学病院の看護師における拡大代替コミュニケーションに着目した神経難病患者との意思疎通に関連する要因	榊原のぞみ	池崎 澄江
地域看護学	第一子を育てる母親のエンパワメントに影響した地域子育て支援活動参加の経験	長山莉久里	石丸 美奈
地域看護学	在宅で生活する青年期にある医療的ケア者の日常生活における自立に向けた意思決定の経験	松浦めぐみ	石丸 美奈
訪問看護学	認知症をもつ独居の高齢女性が日記に綴った生活の様相ー混合研究法を用いてー	平野紗央里	諏訪さゆり
訪問看護学	認知症高齢者の家族介護者経験を有する看護師の急性期病院における認知症看護の認識	吉田 愛子	諏訪さゆり

専門領域	論文名	氏名	指導教員
理論看護学	長期入院統合失調症患者を退院へ導いた看護過程の特徴	小林 雅美	斉藤しのぶ
理論看護学	看護過程における健康観活用の効果－科学的看護論を理論的前提とした分析－	池田 結	山本 利江
理論看護学	繁忙感のなかで患者の生活機能の発揮を目指す看護実践の特徴	篠塚さゆり	山本 利江
理論看護学	病棟看護師の事例検討会における経験	齊藤 可紗	山本 利江
看護教育学	院内教育の講師を担当する看護職者が直面する困難とその克服法の解明	村井 佳美	中山登志子

〔修士研究報告書〕

領域	研究題目	氏名	指導教員
病院看護システム管理学	患者中心の看護の実現－日常倫理に基づく看護の定着を目指して－	長妻 純子	手島 恵
病院看護システム管理学	高度急性期の中で患者も看護師も安心して過ごせる環境を再構築する取り組み	辻 千芽	手島 恵
病院看護システム管理学	特定感染症指定医療機関の看護師が働きやすい職場環境の再構築－新型コロナウイルス感染症対応の経験に基づく看護師が安心して看護を提供するための職場づくり－	早川 祥子	手島 恵
地域看護システム管理学	A 社における訪問看護ステーション所長の経営管理能力開発のしくみづくり	佐藤 十美	杉田由加里
ケア施設看護システム管理学	回復期リハビリテーション病棟における看護部 ICT の構築と活用	藤岡 乙美	酒井 郁子
ケア施設看護システム管理学	回復期リハビリテーション病棟における専門職連携実践の展開	櫻庭 智子	酒井 郁子
実践看護評価学	外国人患者受入れ医療機関認証病院の外国人患者対応記録の改訂	別府佳代子	野地 有子
実践看護評価学	家族の代理意思決定をともに考え、意思決定プロセスを支援する ICU 看護師の育成	元田 敦子	野地 有子
実践看護評価学	公立病院新設入院センターにおける周術期術前看護の創出－看護の移行理論を用いての患者のヘルスリテラシーに応じた周術期術前看護ツール－	高橋 貴子	野地 有子
継続教育・政策管理学	コロナ禍の中におけるジョブ・クラフティングの職場風土作り－中間管理職の健康管理の自己認識発展に関連して－	渡辺 真貴	錢 淑君

Ⅲ. 研究

1. 教員の研究業績（講座別）

※本研究院に所属している研究者の業績については下線を引いてあります。

（教員：実線、大学院生：点線、学部生：波線）

高度実践看護学

〔原著〕

1. Kang, L., Okada, S., Ogawa, T., & Zhang, Y. (2021). Evaluation of effectiveness of comprehensive oral hygiene management in mechanical ventilation patients in Chinese intensive care unit. *International Journal of Nursing & Clinical Practices*, 8, 346-352. <https://doi.org/10.15344/2394-4978/2021/346>
2. 佐藤真奈美, 佐藤奈保, 宮崎美砂子 (2021). 平成 28 年熊本地震で被災した女性が体験した生活上の困難への対応. *日本災害看護学会誌*, 22(3), 16-28.
3. Suzuki, S., Sato, N., & Miyazaki, M. (2021). Resilience of pregnant and postpartum women affected by the 2016 Kumamoto earthquake: A qualitative study. *Health Emergency and Disaster Nursing*. <https://doi.org/10.24298/hedn.2020-0012>
4. Hiratsuka, K., Nakamura, N., Sato, N., & Saito, T. (2021). How parents of adolescents and young adults with biliary atresia surviving with native livers transfer the responsibility of medical treatment to their children in Japan. *Journal of Pediatric Nursing*, 61, 115-121. <https://doi.org/10.1016/j.pedn.2021.05.004s>
5. 沼口知恵子, 西垣佳織, 涌水理恵, 藤岡寛, 佐藤奈保 (2021). 重症心身障害児と共に生活するきょうだいの思い. *日本重症心身障害学会誌*, 46(3), 315-322.
6. 酒井佳織 (2021). NICU を退院した早産児をもつ親の子どもの成長発達の捉えー出生から幼児期前期までに焦点を当ててー. *千葉看護学会会誌*, 27(1), 23-32.
7. Sano, M., & Majima, T. (2021). Development of a home-based nursing intervention model for patients with heart failure: A qualitative feasibility study. *INQUIRY: The Journal of Health Care Organization, Provision, and Financing*, 58, 1-12. <https://doi.org/10.1177/00469580211067448>
8. Sano, M., Okada, S., Majima, T. & Kobayashi, Y. (2022). Patient Perspectives of a Non-Invasive Telemonitoring Tool for Patients with Heart Failure. *SAGE Open Nursing*, 8, 1-9. <https://doi.org/10.1177/23779608221082025>
9. Yamakawa, M., Kanamori, T., Fukahori, H., & Sakai, I. (2021). Sustainable nurse - led care for people with dementia including mild cognitive impairment and their family in an ambulatory care setting: A scoping review. *International journal of nursing practice*, <https://doi.org/10.1111/ijn.13008>.
10. 佐野元洋, 岡田将, 眞嶋朋子, 小林欣夫 (2021). 訪問看護における心不全管理の質向上に向けた現状調査. *心臓リハビリテーション*, 27(1), 45-49.
11. 田邊亜純, 佐藤さやか, 増島麻里子 (2021). がん患者の在宅療養移行期を支える就労中の家族員の体験. *千葉看護学会会誌*, 27(1), 33-42.
12. 高須清子, 眞嶋朋子 (2021). 外来化学療法を受けるがん患者の脱水での緊急入院を予防する看護実践. *千葉看護学会会誌*, 26(2), 1-9.
13. Yamamoto, T., Yamamoto, M., Abe, H., & Sakai, I. (2021). Exploring barriers and benefits of implementing interprofessional education at higher education institutions in Japan. *Journal of Allied Health*, 50(2), 97-103.
14. Kang, L., Okada, S., & Ogawa, T. (2022). Investigation and analysis of the current situation of VAE preventive measures in ICU in Beijing-Tianjin-Hebei Urban Agglomeration of China. *International Journal of Nursing & Clinical Practices*, 9, 353-359.

<https://doi.org/10.15344/2394-4978/2022/353>

15. Sato, N., & Araki, A. (2022). Fathers' involvement in rearing children with profound intellectual and multiple disabilities. *Journal of Family Nursing*, 28(1), 57-68.
<https://doi.org/10.1177/10748407211037345>
16. Kobayashi, M., Sezai, I., Ishikawa, T., & Masujima, M. (2022). Psychological and educational support for cancer patients who return to work: A scoping review. *WORK: A Journal of Prevention, Assessment & Rehabilitation*, (in press).
17. 松戸麻華, 國武由香里, 眞嶋朋子 (2022). 集中治療室で看護師が行う家族のケア参加に対する支援. 千葉看護学会会誌, 27(2), 11-19.
18. 田代理沙, 土井英子, 増島麻里子 (2022). 倦怠感のある終末期がん患者に関わる家族の体験. 千葉看護学会会誌, 27(2), 39-47.
19. 土井英子, 眞嶋朋子 (2022). 放射線療法を受ける頭頸部がん患者の口腔粘膜炎症重症化を予防するための自己管理援助プログラムの開発. 千葉看護学会会誌, 27(2), 59-68.
20. 佐伯昌俊, 武村雪絵, 國江慶子 (2022). 看護職者と看護補助者が共に看護補助者役割の認識を共有する介入プログラムの開発と評価. 日本看護科学学会誌, 41, 638-646.
21. 印田宏子, 岡田忍 (2022). 訪問看護ステーションを利用する高齢尿道留置カテーテル留置者に関する実態調査. 日本感染看護学会誌, 16(1), 1-12.
22. 中村伸枝, 雨宮歩, 中島由紀子, 仲井あや, 下屋聡平 (2022). 持続皮下インスリン注入療法を行う1型糖尿病のある小児・青年の皮膚トラブルとスキンケア. 千葉看護学会会誌, 27(2), 21-29.
23. Hasegawa, T., Seo, T., Kubota, Y., Sudo, T., Yokota, K., Miyazaki, N., Muranaka, A., Hirano, S., Yamauchi, A., Nagashima, K., Iyo, M., & Sakai, I. (2022). Reliability and validity of the Japanese version of the 4A's Test for delirium screening in the elderly patient. *Asian Journal of Psychiatry*, 67, 102918.

[論文等(査読あり)]

24. Wakiguchi, Y., Kiyohara, H., Kako, J., Kajiwara, K., & Kobayashi, M. (2021). Response to Brungardt et al.: Virtual Reality-Based Music Therapy in Palliative Care: A Pilot Implementation Trial (DOI: 10.1089/jpm.2020.0403). *Journal of palliative medicine*, 24(5), 653-653.
25. Kobayashi, M., & Kako, J. (2021). Improvement in quality of life through oral care for difficulty in speaking in a terminally ill cancer patient: Case report. *Journal of the National Defense Medical College*, 46(2), 68-71.
26. Kobayashi, M., Kako, J., Kajiwara, K., & Ogata, A. (2021). The effects of curative-intent cancer therapy on employment, work ability, and work limitations. *Cancer*, 127(16), 3031-3032.
27. Kobayashi, M., Kako, J., Kajiwara, K., & Ogata, A. (2021). Response to "Occupational rehabilitation of male breast cancer patients: Return patterns, motives, experiences, and implications—A qualitative study". *European Journal of Cancer Care*, 30(4), e13445.
28. Kako, J., Kajiwara, K., Kobayashi, M., Noto, H., & Ogata, A. (2021). Measuring positive caregiving experiences in family caregivers of nursing home residents. *Geriatrics & gerontology international*, 21(9), 875-876.
29. Kobayashi, M., Kako, J., Kajiwara, K., & Ogata, A. (2021). Regarding: Humayra Rashid et al. (2020) Returning to work in lung cancer survivors—a multi-center cross-sectional study in Germany. *Supp Care Cancer*; Published 19 November 2020. *Supportive Care in Cancer*, 29(8), 4183-4184.
30. Kako, J., Ito, Y., Kajiwara, K., Kimura, Y., Kakeda, T., Hamanishi, S., Sasaki, S., Yamanaka, M., Kiyohara, H., Wakiguchi, Y., Endo, Y., Harada, K., Koga, Y., Ishida, M., Nishida, Y., Kobayashi, M., & Tsubaki, M. (2021). Impact of the COVID-19 pandemic on mental health of nursing students in Japan: protocol for a cross-sectional study. *BMJ Open*, 11(12), 1-6.
31. Jiang, TT., Majima, T., & Shi, TY. (2021). Visualization analysis of research "hot spots": self-

management in breast cancer patients. *Frontiers of Nursing*, 8(4), 375-380.

32. 小森直美,伴佳子,小林成光(2021).機能強化型訪問看護事業所と機能強化型への移行を検討している事業所に勤務する看護師の教育ニーズ.日本看護科学学会,41,98-105.
33. 井出成美,臼井いづみ,孫佳茹,馬場由美子,飯野理恵,朝比奈真由美,関根祐子,中口俊哉,酒井郁子(2021).COVID-19 感染拡大下の大規模オンライン IPE の実際:【特集】「ICT を活用した IPE」について. Online interprofessional education during the COVID-19 pandemic of our large foundational IPE program. 日本保健医療福祉連携教育学会学術誌・保健医療福祉連携,日本保健医療福祉連携教育学会,14(2),126-132.
34. 水流添秀行,増島麻里子(2022).直腸がん術後排便障害を抱えながらの社会復帰—就労者に焦点を当てて—,東邦大学健康科学ジャーナル,(in press).

〔論文等(査読なし)〕

35. 中村伸枝(2021).小児・思春期における糖尿病セルフケアの看護指針・評価指標.小児看護,44(10),1206-1272.
36. 石丸美奈,増島麻里子,辻村真由子,岩田裕子,田代理沙,森恵美,宮崎美砂子,酒井郁子(2021).EBP に向けたシステマティックレビューの重要性 3 大学の取り組みから考える千葉大学の取り組み.看護研究,54(3),207-212.
37. 小林成光,増島麻里子,石丸美奈(2021).特集 エビデンスを臨床実践に活かす挑戦 2-4 ガイドラインを作成する上でいかにシステマティックレビューが重要か.看護研究,54(3),224-230.
38. 小林成光,池原弘展,友滝愛,賢見卓也(編)(2021).がんと暮らしの白書 2019 年度版. NPO 法人がんと暮らしを考える会,<https://www.gankura.org/aboutus/data/>
39. 小林成光(2021).乳がん患者のための看護師主導のグループによる情報提供:個別による情報提供との比較研究.日本緩和医療学会ニューズレター,91.
40. 小林成光(2021).研究を活かしケアにつなぐ看取りのエビデンス—口渇,喘鳴,身の置き所のなさ—.がん看護,26(8),672-677.
41. 酒井郁子(2021).ウィズ・アフターコロナ時代の高齢社会の展望 with/after コロナ社会の高齢者施設での新たなケア提供と協働.日本老年医学会雑誌,58 (Supple), (一社)日本老年医学会,31.
42. 酒井郁子(2021).長期ケア施設の看護管理入門(第6回)(最終回) 長期ケア施設における危機管理.臨床老年看護,日総研出版,28(3),96-102.
43. 酒井郁子(2021).看護師のギモンに答える!エビデンスの使い方・広め方 第4回慣習を見直し EBP につなげるリーダーシップ.週刊医学界新聞,3430,5.
44. 酒井郁子(2021).看護師のギモンに答える!エビデンスの使い方・広め方 第5回コロナ禍の ICU で実践する多職種との EBP.週刊医学界新聞,3434,5.
45. 酒井郁子,佐伯昌俊,西宮岳(2022):特定行為研修修了者活用のためのビジョン構築と看護管理者の役割——急性期病院における活動モデルの検討から,看護管理.32(3):184-190.
46. 酒井郁子,佐伯昌俊,西宮岳(2022):特定行為研修修了者の活用と支援に関する Q&A——看護管理者からの疑問や困り事に答えて,看護管理.32(3):191-195.
47. 酒井郁子,伊藤彰一,箭内博子,大島拓,新井加代子,竹内純子(2022):【座談会】特定行為研修修了者の活躍を支える構想・育成・配置・活用と看護管理者の役割——千葉大学医学部附属病院における組織的支援,看護管理.32(3):218-226.
48. 酒井郁子(2022):特定行為研修修了看護師,特集 多職種連携のためのタスクシフティングを考える—効率的な医療提供のために,月刊カレントセラピー,40(4):42-47.

〔報告書〕

49. 酒井郁子:特定行為研修修了者の複数配置に関する実態把握及び有効活用に影響する要因の調査.令和2年度~令和3年度 厚生労働科学研究費補助金 健康安全確保総合研究分野 地域医療基盤開発推進研究 中間報告書,2021.
50. 酒井郁子,井出成美,臼井いづみ,孫佳茹,馬場由美子,富永嘉子,長谷川容佳:千葉大学大学院看護学研究大学院附属専門職連携教育研究センター令和3年度事業報告書,2022.

〔単行書〕

51. 岡田忍:微生物学・感染看護学—微生物から感染防止を考える—第2版.岡田忍,小池和子,白澤浩(編),医歯薬出版,1-4,11-25,32-33,41-43,57-73,2021.
52. 増島麻里子:スキンケア・生活指導,監修 辻哲也,広瀬真奈美,リンパ浮腫に悩んだらすぐに読みたい本.81-94,女子栄養大学出版部,2021.
53. 酒井郁子:特集 リハビリテーション医療における新人教育 4.新人教育・研修の実際—看護職員,総合リハビリテーション,医学書院,49(6),555-562,2021.
54. 中村伸枝:小児期から成人への成長をふまえてセルフケアを捉える.看護診断のための気づきとアセスメント セルフケア支援.初版,中央法規出版株式会社,200-211,2022.
55. Eklund, W., Konishi, M., Nakai, A., Nakamura, N., Shimizu, A., & Uehara, K.: Chapter 12. Asia (Japan) . Petty J, Jones T, Hoogen A van den, Walker K, Kenner C, Neonatal Nursing: A Global Perspective, Springer Publishing, 2022 (in press).
56. 佐野元洋:在宅の慢性心不全患者への看護から.黒田久美子,清水安子,内海香子(編),セルフケア支援(看護判断のための気づきとアセスメント).初版,中央法規,241-250,2022.
57. Sano, M., & Majima, T.: A Home-Based Heart Failure Nursing Intervention Supporting Self-Management and Lives. IntechOpen, 2022. <https://doi.org/10.5772/intechopen.102509>
58. 酒井郁子:多職種連携と専門職連携実践(IPW).日本プライマリ・ケア連合学会(編),日本プライマリ・ケア連合学会 基本研修ハンドブック.第3版,南山堂,213-220,2021.
59. 酒井郁子:生活機能障害のある人への看護(リハビリテーション看護).林直子,鈴木久美,酒井郁子,梅田恵(編),成人看護学 成人看護学概論 社会に生き世代をつなぐ成人の健康を支える,改訂第4版,267-275,2022.
60. 飯田貴映子,酒井郁子:専門職間の連携と協働.林直子,鈴木久美,酒井郁子,梅田恵(編),成人看護学 成人看護学概論 社会に生き世代をつなぐ成人の健康を支える,改訂第4版,304-309,2022.

〔学会発表抄録〕

61. 岡田忍,伊藤眞知子,西尾淳子,横山裕子(2021).介護支援専門員の口腔アセスメントの現状と関連要因.第26回日本在宅ケア学会学術集会抄録集,111.
62. Nyamadzawo, A., Nishio, J., & Okada, S. (2021). *Determining the influence of oxidative stress on wound healing in a diabetic animal model*. The 9th Asia Pacific Enterostomal Therapy Nurse Association Conference. 229.
63. 前田ひとみ,岡田忍,岡田淳子,加藤木真史,佐伯由香,塚越みどり,長坂猛,橋口暢子,若村智子(2021).臨床における看護研究の種に花を咲かせよう!～臨床看護師の気づきを論文にするために～ 交流セッション3,日本看護技術学会第19回学術集会講演抄録集,78.
64. 永田亜希子,石丸美奈,岡田忍,石橋みゆき,飯野理恵,坂上明子,佐藤奈保,眞嶋朋子,辻村真由子(2021).地域で暮らす人の支援に関する動画教材の領域横断的活用の実際と学生の学び:多年次積み上げ式教材への課題.第41回日本看護科学学会学術集会.
65. 仁尾かおり,水野芳子,山崎啓子,森貞敦子,栗田直央子,黒田光恵,内海加奈子,桧垣高史,西村葵,中村伸枝(2021).成人期の小児慢性疾患患者にかかわる小児科及び小児病棟看護師の困難感とケアの工夫.第68回日本小児保健協会学術集会講演,188.
66. 福本千英*,中村伸枝,佐藤奈保(2021).思春期にがんを発症した患者の妊孕性に向けた意思決定と周囲の関わり.日本小児看護学会第31回学術集会.(オンライン)
*博士前期課程修了
67. 高橋麻美,中村伸枝,佐藤奈保(2021).造血幹細胞移植後の合併症を抱える思春期患者と家族の認識.日本小児看護学会第31回学術集会.(オンライン)
68. 尾高大輔,小泉恵子,中村伸枝(2021).小児看護における高度実践看護師(APN)の役割と活動を共有しよう.日本小児看護学会第31回学術集会.(オンライン)
69. 高橋麻美,佐藤奈保(2021).造血幹細胞移植後の合併症が思春期患者の日常生活に与える影響.日本小児血液・がん学会雑誌,58(4),332.
70. 井藤千英*,秋山政晴,佐藤奈保(2021).思春期にがんを発症した患者の妊孕性に関する医療者の認

識と関わり.日本小児血液・がん学会雑誌,58(4),335.

*博士前期課程修了

71. Nakazuru, A. (2021, Jul 15-18). *A literature review on intervention-based studies for children with congenital heart disease and their families.* The 8th Congress of the Asia-Pacific Pediatric Cardiac Society, Virtual Congress.
72. 中村伸枝,水野芳子,奥朋子,瀬尾智美,眞嶋朋子,仲井あや(2021).10年以上の活動経験をもつ専門看護師の認定から5年目までの活動の広がり.千葉看護学会第27回学術集会,31.
73. 中水流彩,仲井あや,中村伸枝,高橋麻美(2021).新型コロナウイルス感染症の世界的大流行下で実施した小児看護学学内代替実習の報告—第1報—.千葉看護学会第27回学術集会,32.
74. 仲井あや,中水流彩,中村伸枝,長橋由実香(2021).新型コロナウイルス感染症の世界的大流行下で実施した小児看護学学内代替実習の報告—第2報—.千葉看護学会第27回学術集会,33.
75. 佐藤沙也佳**,中水流彩,中村伸枝(2021).保育所に通う幼児の感染症対策における保育所看護師の支援とその困難感.千葉看護学会第27回学術集会,35.
**看護学部卒業
76. 鯉江真帆**,中水流彩,中村伸枝(2021).学童後期から青年期までの患児の院内学級を支えるための看護援助.千葉看護学会第27回学術集会,41.
**看護学部卒業
77. 黒坂さち**,仲井あや,中村伸枝(2021).長期入院中の患児に付き添う母親が経験する困難と前向きな気持ちに関する文献研究.千葉看護学会第27回学術集会,42.
**看護学部卒業
78. 中村伸枝,水野芳子,奥朋子,瀬尾智美,眞嶋朋子,仲井あや(2021).10年以上の活動経験をもつ専門看護師の活動・役割の変化の様相.第41回日本看護科学学会学術集会.(オンライン)
79. 水野芳子,中村伸枝,奥朋子,瀬尾智美,眞嶋朋子,仲井あや(2021).10年以上の活動経験をもつ専門看護師の自己教育.第41回日本看護科学学会学術集会.(オンライン)
80. 松澤明美,佐藤奈保,中水流彩(2021).障がいのあるわが子をケアする向老期・高齢期の親の健康と生活の質:スコーピング・レビュー.第41回日本看護科学学会学術集会,143.
81. 石橋みゆき,佐藤奈保,坂上明子,雨宮有子,高橋良幸,岩崎寛,黒田久美子,拝田一真(2021).自然災害の回復・備えに関する住民と看護研究者のパートナーシップの様相:2事例の計量テキスト分析.第41回日本看護科学学会学術集会,145.
82. Takahashi, A., Nakamura, N., Sato, N., & Nakazuru, A. (2021, Oct 21-24). *Daily Lives of Adolescent Survivors with Severe Chronic GVHD.* 53rd International Congress of the Pediatric Oncology, Virtual Congress.
83. Kusunoki, J., Ikezaki, S., & Majima, T. (2021, December 8-9). *A cross-sectional survey on nursing practice for cancer patient using complementary and alternative medicine in Japan.* The 11th Hong Kong International Nursing Forum, Hong Kong. (online)
84. Ono, K., Koike, R., Miyazaki, Y., Masujima, M., Ogawa-Ochiai, K., & Tsumura, N. (2021, Oct 31 - Nov 4). *A circumference-measurement method using a model of a Leg and a 3D camera.* 2021 43rd Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine & Biology Society (EMBC), 1376-1379, 2021 43rd Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine & Biology Society (EMBC). (online)
85. Higashitsuji, A., Okada, S., Fujisawa, Y., Sano, M., Taguchi, N., Majima, T., & Kobayashi, Y. (2021). *Development and effectiveness of advance care planning protocol for heart failure outpatients.* European Journal of Cardiovascular Nursing 20 Issue Supplement_1, July 2021, zvb060.037, doi: 10.1093/eurjcn/zvb060.037. (online)
86. Higashitsuji, A., & Majima, T. (December 8-9, 2021). *Characteristics and needs regarding End-of-life care among hospital and visiting nurses.* The 11th Hong Kong International Nursing Forum. (online)
87. Yoda, S., Tashiro, R., Konishi, M., Sato, M., & Masujima, M. (2021, November 13-14). *Trends in research on end-of-life care in the field of emergency and intensive care in Japan: a mapping*

- review. 14th Asia Pacific Hospice Palliative Care Conference, Japan. (online)
88. Matsuyama, N., & Masujima, M. (2021). *Desirable way of life for patients with relapsed or refractory hematologic malignancies: Comparison of inpatients and outpatients*, The 14th Asia Pacific Hospice Palliative Care Conference. (online)
 89. 岡田将,梅野福太郎,山崎恵一,岩花東吾,加藤央隼,佐野元洋,東辻朝彦,眞嶋朋子,小林欣夫(2021).地域を含めた心不全のチーム医療:急性期病院と地域のネットワーク(Chiba Heart Failure Network Helps Patients to Live Better with Heart Failure through Cooperation among Hospital-based and Home Medical Care).第 85 回日本循環器学会学術集会,SY24-5.(オンライン)
 90. 渡邊美和,眞嶋朋子,増島麻里子,長坂育代,坂口幸弘,宮下光令(2021).がんで近親者を亡くした遺族の遺族ケア利用の実態.Palliative Care Research.16 卷 Suppl. S298.
 91. 佐野元洋,眞嶋朋子(2021).心不全患者によるインターネットベースの心不全セルフケア支援ツールの活用に関する研究.第 18 回日本循環器看護学会学術集会,30.(オンライン)
 92. 金城芽里,眞嶋朋子,佐野元洋(2021).慢性心不全看護認定看護師の心不全患者のエンド・オブ・ライフに向けた家族の意思決定のための関わり.第 18 回日本循環器看護学会学術集会,32.(オンライン)
 93. 佐野元洋(2021).心不全外来における在宅心不全アプリの効果と有用性.第 28 回ファイザーヘルスリサーチフォーラム抄録集,7.(オンライン)
 94. 依田智美,楠潤子,増島麻里子(2021).集中治療室にて終末期を過ごした患者の尊厳を重視する集中治療室看護師の実践知.第 41 回日本看護科学学会学術集会.(オンライン)
 95. 富岡靖友,東辻朝彦(2021).心血管術後の看護師提案型鎮痛・鎮静プロトコールによる薬剤投与量と合併症の変化.第 18 回日本循環器看護学会学術集会.
 96. 佐野元洋,岡田将,眞嶋朋子,小林欣夫(2022).健康管理アプリケーションを使用した心不全患者の健康関連 QOL.第 86 回日本循環器学会学術集会,CP05-5.(オンライン)
 97. Uehara, T.*, Sakai, I., Usui, I., Ishii, I., & Asahina, M. (2021).臨床的 IPE は卒業時における医学生の IP 能力の自己評価を向上させるのか (Does the clinical IPE enhance students' self-assessment of their IP competency at graduation?).医学教育,52(Supple),86.
 98. 酒井郁子,深堀浩樹,山川みやえ,金盛琢也,正木治恵,塩田美佐代,大野直子,呑香美佳子,滝口美重,石川容子,森山祐美(2021).急性期病院における認知症ケア加算によるケア改善プロセスの検討.日本老年看護学会第 26 回学術集会,98.
 99. 金盛琢也,山川みやえ,深堀浩樹,石川容子,森山祐美,正木治恵,平尾美佳,酒井郁子(2021).認知症疾患医療センターにおける地域包括ケア推進に向けた支援の実施状況.日本老年看護学会第 26 回学術集会,106.
 100. 檜木野桃子***,酒井郁子(2021).高齢者専門病院における根拠に基づいたケア改善システムの構築.日本老年看護学会第 26 回学術集会,150.
***修士課程修了
 101. 岩本由美子***,酒井郁子(2021).有床診療所における療養支援のためのシステム構築.日本老年看護学会第 26 回学術集会,151.
***修士課程修了
 102. 友滝愛,酒井郁子,津田泰伸,深堀浩樹(2021).専門看護師の「根拠に基づく実践」のための文献の批判的吟味に関する教育プログラムの評価.第 41 回日本看護科学学会学術集会,41.
 103. 馬場由美子,臼井いづみ,井出成美,孫佳茹,朝比奈真由美,石川雅之,酒井郁子(2021).大学病院における臨床参加型 IPE に対する学生評価から得られた課題.第 14 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会,31.
 104. 臼井いづみ,井出成美,馬場由美子,孫佳茹,近藤昭彦,岩崎寛,濱侃,酒井郁子(2021).オンライン同時双方向で実施した災害時専門職連携シミュレーション教育の実際と課題.第 14 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会,32.
 105. 井出成美,臼井いづみ,馬場由美子,孫佳茹,飯野理恵,関根祐子,中口俊哉,朝比奈真由美,酒井郁子(2021).同時双方向メディアツールによる協働学習の学習成果の対面授業との比較.第 14 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会,33.
 106. 孫佳茹,酒井郁子,井出成美,臼井いづみ,馬場由美子,飯野理恵,朝比奈真由美,関根祐子,中口俊哉

(2021).同時双方向型授業でのグループワークにおけるオンライン上のコミュニケーションの課題. 第14回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会,38.

〔シンポジウム・招聘講演〕

107. 文化看護学会第13回学術集会

岡田忍(2021).鼎談 身体性についてー「入浴」を通して身体性に配慮したケアを考えるー.文化看護学会誌,13(1),73-76.

108. Xinghai International Conference on Cardiology

Majima, T. (2021, October 24). *Importance of psychological and social support in cardiac rehabilitation*. Xinghai International Conference on Cardiology. (online)

109. 日本機械学会 2021 年度年次大会

増島麻里子(2021年9月6日).リンパ浮腫ケアにおける医看工連携の糸口ー医療看護の現場のニーズ, [バイオエンジニアリング部門企画] からだの流れを視る.日本機械学会 2021 年度年次大会 全体プログラム.(オンライン)

110. 第5回日本リンパ浮腫治療学会学術

増島麻里子(2021).基調講演 Advance Care Planning をふまえた浮腫/リンパ浮腫患者に対する End-of-Life Care,パネルディスカッション「終末期患者のむくみ、リンパ浮腫のケア」.第5回日本リンパ浮腫治療学会学術総会抄録集.(オンライン)

111. 第52回日本看護学会学術集会

東辻朝彦(2021).看護の未来を創る～「Nursing Now ニッポン宣言」と私の目指す看護～.第52回日本看護学会学術集会抄録集.(オンライン)

112. 日本老年看護学会第26回学術集会 合同同シンポジウム 13

飯島勝矢,澤岡詩野,錦見昭彦,戸原玄,相田里香,酒井郁子,橋本衛(2021).ウィズ・アフターコロナ時代の高齢社会の展望.日本老年看護学会,東京.

113. 第5回中国看護品質会議 基調講演セッション

酒井郁子(2021).高齢者医療の品質管理のための指標に基づくモニタリング,The 5th China Nursing Quality Conference,中国(山東省青島).

114. 第25回日本看護管理学会学術集会 インフォメーション・エクステンション 24

酒井郁子,山本武志,山本則子,北川裕利,中井智子,山下祐貴,鈴木靖子,西宮岳,小松亮,習田由美子(2021).特定行為研修修了者を組織的に導入し、効果的な診療・ケアを可能にするためのビジョンの創造と看護官理実践の共有.第25回日本看護管理学会学術集会,194.

115. 第25回日本看護管理学会学術集会 インフォメーション・エクステンション 4

小野田舞,山田雅子,宇都宮明美,餘目千史,酒井郁子,田母神裕美,長江弘子,吉川久美子,渡邊千登(2021).簡保連における令和4年度診療報酬改定に向けた取り組みの報告と令和6年度改定に向けた検討.第25回日本看護管理学会学術集会,184.

116. 酒井郁子(2021).講演 千葉県回復期リハビリテーション連携の会 第10回全県大会看護師部会.

117. 日本ルーラルナース学会第16回学術集会 交流集会 1

酒井郁子,山本武志,山本則子,北川裕利,中井智子,山下祐貴,藤谷茂樹,鈴木靖子,習田由美子,佐伯昌俊,西宮岳,小松亮,本田和也(2021).地域医療における特定行為研修修了者の活用を考える.日本ルーラルナース学会第16回学術集会,24.

118. 第41回日本看護科学学会学術集会 交流集会 K21

西宮岳,山本則子,山本武志,北川裕利,鈴木靖子,中井智子,酒井郁子,山下祐貴,佐伯昌俊,小松亮(2021).組織的に特定行為研修修了者の活躍を支えるための活用モデルと指針.第41回日本看護科学学会学術集会,50.

119. 第41回日本看護科学学会学術集会 交流集会 K25

深堀浩樹,五十嵐歩,大江真琴,大久保暢子,小池智子,酒井郁子,新福洋子,武村雪絵,廣岡佳代,福井小紀子(2021).若手研究者を巻き込んだ大型研究費の獲得を目指して 研究・学術推進委員会の活動報告と今後の課題.第41回日本看護科学学会学術集会,51.

120. 特定行為研修修了者の育成配置活用に関する WEB シンポジウム

中村美鈴,酒井郁子,佐伯昌俊,西宮岳,北川裕利,鈴木靖子,菊田直美,伊藤彰一(2022). 特定行為は治療とケアをつなぐ看護であるー修了者の活用モデルの提示ー.

121. 第 72 回日本救急医学会関東地方会学術集会 教育講演 4
酒井郁子(2022).救急領域のタスクシフト指針.第 72 回日本救急医学会関東地方会学術集会抄録集,4.(オンライン)
122. 第 6 回滋賀医科大学特定行為フォーラム
酒井郁子(2022).特定行為研修修了者の複数配置に関する実態把握及び有効活用に影響する要因の調査研究 1 研究結果報告(総括).
123. 第 6 回滋賀医科大学特定行為フォーラム
菊田直美,西宮岳(2022).特定行為研修修了者の複数配置に関する実態把握及び有効活用に影響する要因の調査研究 2 実践報告 修了者の複数配置がもたらすもの.

〔その他〕

124. 葛城建史,岡田忍,小川俊子,西尾淳子:疾患の予防・治療としての口腔ケアにおけるゴマ油の有用性.地域ケアリング,23(1),39-42,2021.
125. 葛城建史,岡田忍,小川俊子,西尾淳子:研究者の最新動向 疾患の予防・治療としての口腔ケアにおけるゴマ油の有用性.Precision Medicine,4(7),696-699,2021.
126. 及川郁子,荒木暁子,来生奈巳子,佐藤奈保,沢口恵,西田みゆき:[テーマセッション]成人との混合病棟における子どもの療養環境について考える.日本小児看護学会第 31 回学術集会,2021.
127. 加藤令子,小室佳文,沼口知恵子,佐藤奈保,大橋敦,原朱美:[テーマセッション]障害のある子どもが災害に備えるセルフケアの獲得・定着を目指すーこどもセルフケア看護理論を基盤としてー.日本小児看護学会第 31 回学術集会,2021.
128. 増島麻里子:文部科学省「就職・転職支援のための大学リカレント教育推進事業」.患者が主体的に将来の医療及びケアについて考える ACP について学ぶ.
129. 増島麻里子:一般財団法人ライフプランニングセンターリンパ浮腫研修.入院中および外来でのリンパ浮腫指導管理.
130. 増島麻里子:NPO 法人がんセンターネットジャパン第 17 期 BEC 乳がん体験者コーディネーター養成講座.アドバンス・ケア・プランニング.
131. 佐野元洋:特定非営利活動法人 千葉医師研修支援ネットワーク主催.第 12 回 在宅心不全看護セミナー,2021 年 9 月 25 日.
132. 酒井郁子:2021 カリキュラム編成セミナー カリキュラム編成準備セミナー第 3 回 「専門職連携教育の理解と導入」の振り返りとご質問から 専門職連携教育(IPE)の実践 千葉大学亥鼻 IPE での内容を中心に ①亥鼻 IPE の学習目標と学習内容および評価,②亥鼻 IPE 実施体制,③学生の声・反応、協力施設との連携方法,④IPE のマネジメント,⑤コスト面の工夫,医学書院.受付 5/17~全 5 回 2022 年 3 月 31 日 23:59 まで配信.(オンライン受講)
133. 酒井郁子:東京慈恵会医科大学 FD・SD 研修会.回復期リハビリテーション病棟における EBP(Evidence-Based Practice)実装研究の実際.(オンライン),2021.
134. 酒井郁子:群馬大学 西太平洋地域を中心とした途上国での多職種連携教育のカリキュラムの策定並びに改善を目的とした教育者向け IPE トレーニングコース(オンライン).Development, Operation, and Future Expectation of Inohana IPE, 2021.
135. 酒井郁子:千葉県看護協会 第 20 回認定看護管理者教育課程セカンドレベル.総合演習 II,2021.
136. 酒井郁子:千葉中央メディカルセンター 第 14 回 M&M.せん妄ケアチームの先進的知識,2021.
137. 酒井郁子:青森県八戸北高等学校 大学の先生による出張講義.専門分野に関する模擬講義.(オンライン),2021.
138. 酒井郁子:東京都看護協会 看護師職能委員会 II 企画研修 在宅・高齢者ケア施設の看護管理者研修会・交流会.看護管理者のサービスの質管理,2021.
139. 酒井郁子:東京都看護協会 認定看護管理者教育課程ファーストレベル第 1 回・第 2 回,質管理 I (オンライン),2021.
140. 酒井郁子:神奈川県看護協会 令和 3 年度介護保険施設等看護研修Ⅲ.介護保険施設の看護管理者の

役割と責務.(オンライン),2021.

141. 酒井郁子:東京都看護協会 認定看護管理者教育課程ファーストレベル第 3 回,質管理 I.(オンライン),2021.
142. 佐藤奈保:災害復興期にある被災地域における子育て支援活動の一例.第 46 回千葉県小児保健協会学術集会,2022.
143. Konishi, M., Nakai, A., Uehara, K., & Eklund, W. (2022): *A Special feature from Japan. Japan Academy of Neonatal Nurses Launched a Successful World Premature Day 2021 Campaign! Council of International Neonatal Nurses (COINN) News page.* Journal of Neonatal Nursing, 28, 72-77. <https://doi.org/10.1016/j.jnn.2021.11.002>
144. 佐野元洋:特定非営利活動法人 千葉医師研修支援ネットワーク主催.第 13 回在宅心不全看護セミナー,2022 年 1 月 29 日.

高齢社会実践看護学

〔原著〕

1. 深澤友里,山崎由利亜,山下裕紀,正木治恵(2021).介護老人福祉施設における慢性心不全を併存する認知症高齢者のセルフケア—オレムのセルフケア理論を活用して—.千葉看護学会会誌,26(2), 33-42.
2. Cai, Y-J., Masaki, H., & Shi, T-Y. (2021). Supportive care needs of Chinese women with newly diagnosed breast cancer prior to adjuvant chemotherapy. *Oncology Nursing Forum*, 48(3),341-349.
3. 佐々木ちひろ,石橋みゆき,大原裕子,正木治恵(2021).急性期病院のプライマリーナースが行う退院支援に関わる看護援助.千葉看護学会会誌,27(1),71-79.
4. 拝田一真,石橋みゆき,中原美穂,正木治恵(2021).慢性疾患を有しながら独居生活を送っている男性高齢者の老いの体験.千葉看護学会会誌,27(1),103-110.
5. 楊 惠晴,田所良之,正木治恵(2021).集中治療室における終末期高齢患者の治療の差し控えや中止の意思決定に関する看護師の関わり:千葉看護学会会誌,27(1),111-120.
6. Saito, T., Yamada, T., Miyauchi, Y., Emoto, N., & Okajima, F. (2021). Analysis of cognitive aging estimated by the Japanese version of the Montreal Cognitive Assessment in patients aged 75 years or older with and without type 2 diabetes mellitus. *Journal of Nippon Medical School*, Article ID: JNMS.2022_89-215. https://doi.org/10.1272/jnms.JNMS.2022_89-215
7. 坂本明子,正木治恵,大原裕子,黒田久美子(2021).高齢者ケアの継続に向けた急性期病院看護師のコーディネート機能(第 2 報:看護師と協働する医療職の視点から),日本看護科学学会誌,41,737-742,DOI: 10.5630/jans.41.733

〔論文等(査読あり)〕

8. 石井優香,深澤友里,大澤侑一,鳥海幸恵,正木治恵(2021).身体疾患のために入院した認知症のある人の経験 国内外の文献検討の結果から.老年看護学,25(2),80-88.

〔論文等(査読なし)〕

9. 石橋みゆき(2021).「地域・在宅看護論」の学習目標、順序性、教えるべき内容について 特集 地域看護学の卒業時到達目標と内容・方法から考える「地域・在宅看護論」の新たな授業づくり.看護展望,46(6),27-32.

〔報告書〕

10. 黒田久美子:千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・共創センター:令和 3 年度看護学教育ワークショップ報告書,
https://www.n.chiba-u.jp/center/static/pdf/training/workshop_hokoku_r3.pdf

11. 黒田久美子:千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・共創センター:看護実践研究指導センター年報_No.38(合併号)
https://www.n.chiba-u.jp/center/static/pdf/network/annual_report_r1_r2.pdf
12. 石橋みゆき,春山早苗:新型コロナウイルス感染症対応に関わる保健所体制整備のための外部委託・非常勤職員等の効果的な活用等に関する本庁におけるマネジメント.春山早苗(研究代表者),新型コロナウイルス感染症対応に関わる保健所業務における外部委託、非常勤職員等の効果的な活用のための研究 分担研究報告書,厚生労働行政推進調査事業補助金厚生労働科学特別研究事業報告書,49-57,2021.
13. 春山早苗,吉川悦子,石橋みゆき,雨宮有子:新型コロナウイルス感染症対応に関わる保健所体制整備のための外部委託及び非常勤職員等の活用等に関するガイドライン.春山早苗(研究代表者),新型コロナウイルス感染症対応に関わる保健所業務における外部委託、非常勤職員等の効果的な活用のための研究 分担研究報告書,厚生労働行政推進調査事業補助金厚生労働科学特別研究事業報告書,58-96,2021.

〔単行書〕

14. 石橋みゆき:COLUMN④高齢がん患者の退院時に気をつけるポイント.滝口裕一,磯部威,津端由佳里(編),高齢者がん治療エビデンス&プラクティス.南江堂,118-119,2021.
15. 黒田久美子:Ⅲ.リハビリテーション看護の展開に必要な概念と理論 1.リハビリテーションを必要とする人への看護の目的を定めるために C.セルフケア:酒井郁子,金城利雄,深堀浩樹編,リハビリテーション看護(改訂第3版):障害のある人の可能性とともに歩む(看護学テキスト NiCE),南江堂,72-78,2021.
16. 黒田久美子:第1部セルフケア支援の本質をつかむ 1.セルフケア理論や概念から捉える:黒田久美子,清水安子,内海香編,セルフケア支援(看護判断のための気づきとアセスメント),中央法規,2-7,2021.
17. 黒田久美子:第1部セルフケア支援の本質をつかむ 2.支援者の態度・考え方・アプローチのコアを知る:黒田久美子,清水安子,内海香編,セルフケア支援(看護判断のための気づきとアセスメント),中央法規,8-12,2021.
18. 黒田久美子:第1部セルフケア支援の本質をつかむ 3.チームでの支援の在り方を知る:黒田久美子,清水安子,内海香編,セルフケア支援(看護判断のための気づきとアセスメント),中央法規,13-17,2021.
19. 黒田久美子:第1部セルフケア支援の本質をつかむ 4.セルフケアと家族の関係から支援の在り方を知る:黒田久美子,清水安子,内海香編,セルフケア支援(看護判断のための気づきとアセスメント),中央法規,18-22,2021.
20. 黒田久美子:第2部疾病・障害とともに生きる人を支援する 3.新たなセルフケアが必要な人を支援する黒田久美子,清水安子,内海香編,セルフケア支援(看護判断のための気づきとアセスメント),中央法規,75-80,2021.

〔学会発表抄録〕

21. Szczepura, A., Wild, D., Nomura, T., Russell, E., Masaki, H., Bayliss-Pratt, L., & Daly, G. (2021, June 24-26). *Care - What next in an ageing society? The view from England and Japan*. Transforming Care Conference 2021, Cà Foscari University of Venice, Italy. (online)
22. 酒井郁子,深堀浩樹,山川みやえ,金盛琢也,正木治恵,塩田美佐代,大野直子,呑香美佳子,滝口美重,石川容子,森山祐美(2021).急性期病院における認知症ケア加算によるケア改善プロセスの検討.日本老年看護学会第26回学術集会抄録集,98.(オンライン)
23. 金盛琢也,山川みやえ,深堀浩樹,石川容子,森山祐美,正木治恵,平尾美佳,酒井郁子(2021).認知症疾患医療センターにおける地域包括ケア推進に向けた支援の実施状況.日本老年看護学会第26回学術集会抄録集,106.(オンライン)
24. 正木治恵,中島麻紀,佐々木久美子,外菌由紀,田村由美,天野薫,石橋佳子(2021).“新型コロナウイルス感染症拡大状況下で教育を受ける看護学生の声”調査報告,第31回日本看護教育学会.(オンライン)

25. 近藤絵美,正木治恵(2021).一般病棟における「豊かな存在としての高齢者のあり様」に着目したりフレクションシートの有用性の検討.千葉看護学会第 27 回学術集会講演集,25.
26. 栞田一真,清水なつ美,石橋みゆき,正木治恵(2021).日本の看護基礎教育における災害看護教育の目標の分析－看護系大学のシラバス調査から－.千葉看護学会第 27 回学術集会講演集,31.
27. 小野(田中)あゆ,石橋みゆき,正木治恵(2021).震災を経験し日常で感じるここのない恐怖や衝撃を受けた高齢者の想いについての文献研究.千葉看護学会第 27 回学術集会講演集,34.
28. 本田香穂里,石橋みゆき,正木治恵(2021).高齢夫婦のみ世帯で認知症を患う夫や妻を在宅介護する配偶者の体験－2000 年から 2015 年の国内文献より－.千葉看護学会第 27 回学術集会講演集,43.
29. 長嶺眞生,石橋みゆき,正木治恵(2021).終末期がん患者とその家族のつらい思い.千葉看護学会第 27 回学術集会講演集,44.
30. 曾根祐子,正木治恵,石井優香(2021).認知症を有する高齢者が訪問看護師との相互作用を通して表出する自我発達の様相.第 41 回日本看護科学学会.(オンライン)
31. 石橋みゆき,佐藤奈保,坂上明子,雨宮有子,高橋良幸,岩崎寛,黒田久美子,栞田一真(2021).自然災害の回復・備えに関する住民と看護学研究者のパートナーシップの様相:2 事例の計量テキスト分析.第 41 回日本看護科学学会学術集会プログラム集,145.
32. Duan, X., Yamasaki, Y., & Masaki, H. (2021, Dec. 8-9). *Development and content appropriateness verification of end-of-life care quality indicators for older people in hospitals in Japan*. The 11th Hong Kong International Nursing Forum. (online)
33. 雨宮有子,吉川悦子,島田裕子,井口理,江角伸吾,石橋みゆき,奥田博子,春山早苗(2022).COVID-19 対応に関わる保健所業務における外部委託・非常勤職員等の効果的な活用 1－保健所での活用方法と留意点－.第 10 回日本公衆衛生看護学会学術集会プログラム集,5-3-4.
34. 石橋みゆき,春山早苗,奥田博子,吉川悦子,雨宮有子,井口理,島田裕子,江角伸吾(2022).COVID-19 対応に関わる保健所業務における外部委託・非常勤職員等の効果的な活用 2－本庁でのマネジメント－.第 10 回日本公衆衛生看護学会学術集会プログラム集,5-3-5.
35. 春山早苗,吉川悦子,石橋みゆき,雨宮有子,奥田博子,井口理,島田裕子,江角伸吾(2022).COVID-19 対応に関わる保健所業務における外部委託・非常勤職員等の効果的な活用 3－外部委託等活用ガイドライン－.第 10 回日本公衆衛生看護学会学術集会プログラム集,5-3-6.
36. 姚利,正木治恵(2022).中国人高齢者の施設での療養生活に関する認識－文献検討を通して－,文化看護学会第 14 回学術集会(オンライン).

〔シンポジウム・招聘講演〕

37. 正木治恵(2021).特別講演:健やかに老いることを支える,第 22 回日本認知症ケア学会大会プログラム・抄録集,16.(オンライン)
38. 正木治恵(2022).特別講演:看護研究法としての質的統合法(KJ 法),看護質的統合法(KJ 法)第 14 回研究集会(オンライン).

〔受賞(国内・国外)〕

39. 令和 3 年千葉看護学会優秀論文賞
石橋みゆき,雨宮有子,伊藤隆子,林弥生,吉田千文,諏訪部高江,平野和恵,木暮みどり,丸谷美紀,神谷明美(2021).療養の場の移行支援方法論構築に向けた退院支援に係る看護技術の体系化.千葉看護学会会誌,26(2),83-94.(国内)
40. 第 41 回日本看護科学学会優秀演題抄録賞
曾根祐子,正木治恵,石井優香(2021).認知症を有する高齢者が訪問看護師との相互作用を通して表出する自我発達の様相.第 41 回日本看護科学学会,2021.(国内)

〔その他〕

41. 正木治恵(2021):鼎談 日本文化型看護学の序章から第一章へ:関係性について.文化看護学会誌,13(1),77-79.
42. 石橋みゆき:公益社団法人日本看護科学学会 看護ケア開発・標準化委員会(編):看護ケアのための

摂食嚥下時の誤嚥・咽頭残留アセスメントに関する診療ガイドライン.南江堂,2021.

43. 黒田久美子:千葉県看護協会第20回認定看護管理者教育課程(セカンドレベル).組織管理論Ⅱ 組織マネジメントの実際4.
44. 黒田久美子:東京都看護協会研修.看護にいかすりフレクシオンーリフレクシオンで看護の質を向上させるー.

健康増進看護学

〔原著〕

1. Maehara, K., Iwata, H., Kimura, K., & Mori, E. (2021). Experiences of transition to motherhood among pregnant women following assisted reproductive technology: a qualitative systematic review. *JBIE Evidence Synthesis*, 19(0), 1-40. (Online ahead of print)
<https://doi.org/10.11124/JBIES-20-00545>
2. Kase, R., Tanaka, Y.L., Amemiya, A., Sugawara, H., Saito, M., Oouchi, A., Matsushima, E., Yorozu, H., & Komiyama, M. (2021). Dehydration of nurses working in the day shift and its factors: A multicenter cross-sectional observational study. *Journal of International Nursing Research*, 1(1), e2021-0007.
3. Fukui, S., Otsuki, N., Ikezaki, S., Fukahori, H., & Irie, S. (2021). Provision and related factors of end-of-life care in elderly housing with care services in collaboration with home-visiting nurse agencies: a nationwide survey. *BMC Palliative Care*, 30; 20(1), 151.
4. Sakamoto, N., Miyaso, H., Komiyama, M., Sugata, Y., Mori, C., Shimizu, E., & Matsuno, Y. (2021). Differences in the interest in human body structures among paramedics from various specialized fields: Development of an effective anatomical instruction. *Structure and Function*, 20(1), 19-32.
5. 前原邦江,岩田裕子,森恵美(2021).高年初産婦に特化した看護ガイドラインの産後のケアへの実装における効果:準実験介入研究(EFFECTIVENESS OF NURSING GUIDELINES WHEN IMPLEMENTING POSTPARTUM CARE FOR OLDER PRIMIPARAS: A QUASI-EXPERIMENTAL INTERVENTION STUDY).千葉看護学会誌,27(1),43-50.
6. 中村伸枝,雨宮歩,中島由紀子,仲井あや,下屋聡平(2022).持続皮下インスリン注入療法を行う1型糖尿病のある小児・青年の皮膚トラブルとスキンケア.千葉看護学会誌,27(2),21-29.
7. 関まりか,森恵美,岩田裕子(2022).妊婦の日常生活における身体活動の体験.千葉看護学会誌(in press).
8. 北ありさ,森恵美,岩田裕子(2021).日本の父親は母乳育児の支援者となり得るのかー妊娠中の妻を持つ夫の母乳育児の認識に関する質的研究ー.日本母性看護学会誌,22(1),1-8.

〔論文等(査読あり)〕

9. Amemiya, A., Matsumura, A., Kase, R., Sugawara Y., Minowa T., & Ichida, M. (2021). Examination of a contact detection sensor to prevent self-removal of peripheral intravenous catheters. *43rd Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society (EMBC)*, 4965-4968.
10. Shinkawa, M.*, Kitagawa, Y., & Amemiya, A. (2021). Gait due to difference in Intravenous poleposition on the healthy participants. *43rd Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society (EMBC)*, 5824-5827.
*看護学部卒業
11. 森田亜希子,森恵美,坂上明子(2021).初めて親となる男性の父親役割適応を促進するパタニティポートフォリオの開発.日本母性看護学会誌,21(2),53-59.
12. 谷井千恵**,森恵美,岩田裕子(2022).切迫早産で入院した妊婦の夫の父親となる経験.母性衛生(in

press).

**博士前期課程修了

〔論文等(査読なし)〕

13. 木村佳代子(2021). 【後期早産児を産んだお母さんへの適切な支援とは】 後期早産児を出産した女性の母親役割獲得を促す看護.助産雑誌,75(7),506-510.
14. 武村雪絵,井上真帆,市川奈央子,木田亮平,小柳礼恵,池崎澄江,池田真理(2021). 「新型コロナウイルス感染症に対応する看護職員の確保及び最適なマネジメント検討に向けた実態調査研究」より.看護,73(13),64-68.

〔報告書〕

15. 雨宮歩, 松村彩:ICT で身体拘束を減らす -医療用カテーテル自己抜去防止システムの開発-.公益財団法人 三井住友海上福祉財団 研究結果報告書, 2022 (in press).

〔単行書〕

16. 前原邦江:第1章 母性看護概論.看護学入門 12巻 母子看護,第6版,メジカルフレンド社,2-6,14-36,2021.
17. 岩田裕子:第3章 妊婦,産婦,褥婦および新生児の看護,第5章 妊婦,産婦,褥婦および新生児の異常と看護.看護学入門 12巻 母子看護,第6版,メジカルフレンド社,76-99,135-145,2021.
18. 田中裕二:2章 病態症候論,40節 発熱・低体温.山内豊明(編),ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ちと回復の促進① 病態生理学,第6版,メディカ出版(大阪),294-306,2022.
19. 田中裕二:第2章 II.生きる・生活するためのからだの仕組み,C.恒常性維持のための調節機構,1.ひとにとって調節機構とは.IV.おとなのからだ:日常生活行動のからだの仕組み,A.目覚める,思考する,1.ひとにとって「目覚める,思考する」とは,H.休息する,眠る,1.ひとにとって「休息する,眠る」とは.新体系看護学全書『形態機能学』.大久保暢子(編),新体系看護学全書 人体の構造と機能③ 形態機能学,第1版,メジカルフレンド社(東京),in press.
20. 雨宮歩:CSII・CGMを行う糖尿病をもつ小児の皮膚トラブルの実態.小児看護,44(10),1278-1284,2021.

〔学会発表抄録〕

21. Mori, E., Maehara, K., Iwata, H., Kimura, K., Kosaka, M., Ina, K., & Sakajo, A. (2021, June). *Development of a prenatal educational booklet for expectant older primiparous mothers and their partners: Focusing on promoting postpartum adaptation*. The 32nd International Confederation of Midwives Virtual Triennial Congress.(online)
22. Iwata, H., Mori, E., Maehara, K., Kimura, K., Toyama, F., Kakehashi, A., Kosaka, M., & Tamakoshi, K. (2021, December 8-9). *Antenatal parenting education regarding postpartum well-being specifically developed for older primiparous couples: study protocol for parallel group randomized controlled trial*. The 11th Hong Kong International Nursing Forum.(online)
23. Akuta, Y., Ikezaki, S., & Kitaike, T. (2021, April 15-16). *Roles of advanced practice nurses working in hospitals in Japan: Supporting home nurse*. 24th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference (EAFONS), Philippines.
24. Himeno, Y.*, Kitaike, T., & Ikezaki, S. (2021, April 15-16). *Effectiveness of perioperative outpatient care guide focusing on patients' preoperative anxiety*. 24th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference (EAFONS), Philippines.
*博士前期課程修了
25. Kitagawa, Y., Amemiya, A., Ogata, H., Koshizaka, M., Shoji, M., Maezawa, Y., Akita, S., Mitsukawa, N., & Yokote, K. (2021, July 3-5). *Subjective foot/ankle symptoms linked to low quality of life in Werner syndrome: A cross-sectional survey*. The 9th Asia Pacific Enterostomal Therapy Nurse Association Conference, 25(2), 389.

26. Kitagawa, Y., & Amemiya, A. (2021, July 3-5). *Ulcers in Werner syndrome frequently occur in the Achilles tendon: A cross-sectional survey using case report images.* The 9th Asia Pacific Enterostomal Therapy Nurse Association Conference, 25(2), 433.
27. Matsumura, A., & Amemiya, A. (2021, July 3-5). *Voltage measurement for the development of a catheter self-removal prevention system. A preliminary study.* The 9th Asia Pacific Enterostomal Therapy Nurse Association Conference, 107. (online)
28. Matsumoto, M., Fujioka, M., Okada, T., Naka, Y., Amemiya, A., Matsushima, E., Tamai, N., Miura, Y., Nakagami, G., Sanada, H. (2021, July 3-5). *Evaluation of bowel preparation before colonoscopy by ultrasonographic monitoring of colonic fecal retention.* The 9th Asia Pacific Enterostomal Therapy Nurse Association Conference, 450.
29. Mukawa, M. (2022, March 31 - April 1). *Research trends on abuse prevention support from pregnancy in Japan: A literature review.* Sigma Theta Tau 2022 Creating Healthy Work Environments Conference.
30. 池崎澄江, 武村雪絵, 井上真帆, 木田亮平, 市川奈央子, 小柳礼恵, 池田真理(2021). COVID-19 クラスターが発生した福祉施設における対応と派遣された看護職の実践—半構造化面接を用いた質的研究—.第 25 回日本看護管理学会学術集会, 神奈川.
31. 池崎澄江, 坂上明子, 黒河内仙奈, 岡田忍(2021).看護カリキュラムにおける専門基礎教育の運営と課題(交流集会).千葉看護学会第 27 回学術集会講演集,47.
32. 前原邦江,岩田裕子,森恵美(2021).生殖補助医療によって妊娠した女性とかかわる看護職者に向けた研修プログラムの開発:モニター調査.第 19 回日本生殖看護学会学術集会プログラム・講演集,52.
33. 遠山房絵,木村佳代子,岩田裕子,森恵美(2021).母性看護学実習におけるシミュレーション教育の実践報告.第 39 回千葉県母性衛生学会学術集会抄録集,5.(オンライン)
34. 木村佳代子,遠山房絵,岩田裕子,森恵美(2021).COVID-19 感染症予防対策における分娩介助シミュレーション教育の実践報告.第 39 回千葉県母性衛生学会学術集会抄録集,5.(オンライン)
35. 田中裕二(2021).味覚刺激による生体反応が意識障害患者の看護ケア技術として確立するための文献的考察.千葉看護学会第 27 回学術集会講演集,37.
36. 田中裕二(2021).背面開放座位におけるハンドマッサージが中枢神経活動に及ぼす影響.日本看護技術学会第 19 回学術集会講演抄録集,68.
37. 雨宮歩,川角千佳,北川柚香,小池黎明,長澤拓海,津村徳道(2021).雑談ロボットが独居大学生の自律神経に与える影響に関する予備的検討.看護理工学会学術集会,36.
38. 雨宮歩,横尾英孝,加瀬竜太郎,北川柚香,熊谷仁,小野啓,横手幸太郎(2021).専門外来通院中の糖尿病患者における潜在的糖尿病性足潰瘍リスクの検討(会議録).糖尿病,64(7),428.
39. 芥田ゆみ,池崎澄江(2021).病院に所属する専門・認定看護師による在宅看護への関わりに関する研究の動向と課題.日本看護科学学会第 41 回学術集会プログラム集,134.
40. 榊原のぞみ,池崎澄江(2021).脳神経内科病棟看護師における患者との意思疎通に関する看護実践と看護師の思い.日本看護科学学会第 41 回学術集会プログラム集,122.
41. 棧あさな,森恵美,岩田裕子(2021).妊娠期にバースプランを作成して出産をした女性の経験,第 23 回日本母性看護学会学術集会プログラム・抄録集,39.(オンライン)
42. 小坂麻衣,森恵美,(2021).オンラインによる子育て支援に関する文献レビュー.第 62 回日本母性衛生学会学術集会集,289.(オンライン)
43. 嶋田佳奈,木村佳代子,森恵美(2021).緊急帝王切開手術を経験した助成の出産体験の振り返りを支える看護.第 39 回千葉県母性衛生学会学術集会抄録集,4.(オンライン)
44. 玉内遥香*, 田中裕二(2021).心拍モニター音の生体への影響と音楽が与える効果の脳波学的解析.日本看護研究学会第 47 回学術集会講演集,214.
*看護学部卒業
45. 沢田佳志乃,田中裕二(2021).疼痛緩和における音楽療法・芳香療法の生理学的効果評価についての文献的検討.日本看護技術学会第 19 回学術集会講演抄録集, 93.
46. 大澤秋美*,田中裕二(2021).認知症高齢者における治療の効果を目的とした化粧に関する文献的考察.第 41 回日本看護科学学会学術集会プログラム集,104. [プログラム・抄録,563,2021.]

*看護学部卒業

47. 河中治樹,小栗宏次,雨宮歩(2021).トイレで健康モニタリングー排尿量計測・排便性状分類の画像処理ー.第11回健康福祉システム開発研究会.
48. 松村彩,雨宮歩,菅澤泰久,箕輪隆城,市田誠(2021).経鼻経管栄養胃チューブ自己抜去防止センサーの形状に関する検討.看護理工学会学術集会,26.
49. 中島由紀子,河野実桜,雨宮歩(2021).裸足と靴下着用時における足底にかかる外力の違い.看護理工学会学術集会,22.
50. 中村麻美,菅原久純,雨宮歩(2021).概日リズムを考慮した間接照明を用いた睡眠覚醒への影響.看護理工学会学術集会,39.
51. 金澤悠喜,川島拓也,雨宮歩,楠田佳緒,長江祐吾,吉田美香子,桑名健太(2021).看護、工学および企業のためのニーズ解釈体験型オンラインワークショップの実践報告.看護理工学会学術集会,23.
52. 楠田佳緒,雨宮歩,金澤悠喜,川島拓也,長江祐吾,吉田美香子,桑名健太(2021).看護工学のニーズ・シーズマッチングを目的とした次世代委員会の取り組み.看護理工学会学術集会,47.
53. 北川柚香,雨宮歩,緒方英之,越坂理也,正司真弓,前澤善朗,秋田新介,三川信之,横手幸太郎(2021).遺伝性早老症ウェルナー症候群の足部足関節評価質問票(SAFE-Q)を用いた足部・足関節のQOL評価.フットケア・足病医学会.
54. 北川柚香,雨宮歩,緒方英之,越坂理也,正司真弓,前澤善朗,秋田新介,三川信之,横手幸太郎(2021).遺伝性早老症ウェルナー症候群の足部足関節評価質問票(SAFE-Q)を用いた足部・足関節のQOL評価.第2回日本フットケア・足病医学会年次学術集会抄録集,129.
55. 松村彩,雨宮歩,箕輪隆城,市田誠(2021, 10月22~23日).経鼻経管栄養胃チューブ自己抜去防止センサーの形状に関する検討.第9回看護理工学会学術集会,13.(オンライン)
56. 市川奈央子,武村雪絵,井上真帆,木田亮平,小柳礼恵,池崎澄江,池田真理(2021).COVID-19受入れ施設およびクラスター発生施設での看護職へのサポート体制ー半構造化面接を用いた質的研究ー.第25回日本看護管理学会学術集会,神奈川.
57. 井上真帆,武村雪絵,木田亮平,市川奈央子,小柳礼恵,池崎澄江,池田真理(2021).COVID-19に対応した宿泊療養施設での看護業務および求められる人材ー半構造化面接を用いた質的研究ー.第25回日本看護管理学会学術集会,神奈川.
58. 武村雪絵,市川奈央子,井上真帆,木田亮平,小柳礼恵,池崎澄江,池田真理(2021).COVID-19受入れ施設およびクラスター発生施設での看護職員確保と配置ー半構造化面接を用いた質的研究ー.第25回日本看護管理学会学術集会,神奈川.
59. 畑中愛,武川美樹(2022).外国人妊産褥婦の対応に困難さを感じる助産師の体験.第36回日本助産学会学術集会プログラム集,279.

〔受賞(国内・国外)〕

60. 第19回日本生殖看護学会学術集会優秀賞(研究)
前原邦江,岩田裕子,森恵美(2021).生殖補助医療によって妊娠した女性とかかわる看護職者に向けた研修プログラムの開発:モニター調査.第19回日本生殖看護学会学術集会プログラム・講演集,52.(国内)

〔その他〕

61. 池崎澄江:重層的支援体制整備事業と医療.巻頭言.日本医療・病院管理学会誌,58(4),95.
62. 池崎澄江,伊東美緒,木村哲之:高齢者を支える看護の形:最期の瞬間まで特養で暮らす.対談・座談会.週刊医学界新聞(看護号),第3434号,2021.
https://www.igaku-shoin.co.jp/paper/archive/y2021/3434_01
63. 池崎澄江:千葉県看護協会 認定看護管理者教育課程 フェーストレベル.ヘルスケアシステム論Ⅰ.
64. 池崎澄江:東京都看護協会 看護師職能委員会Ⅱ企画.質を向上する手段:LIFEの利活用.
65. 石丸美奈,増島麻里子,辻村真由子*,岩田裕子,田代理沙(2021).EBPに向けたシステムティックレビューの重要性 2-2 3大学の取り組みから考える 千葉大学の取り組み.看護研究,54,207-212.
*本研究院教員

〔特許〕

66. 山下(雨宮)歩,菅原久純,市田誠,箕輪隆城,菅澤泰久:生体接触検知センサ及びこれを用いた生体接触検知装置.国際公開番号 WO2022/009941.

地域創成看護学

〔原著〕

1. Ide, H., Kodate, N., Suwa, S., Tsujimura, M.*, Shimamura, A., Ishimaru, M., & Yu, W. (2021). The ageing 'care crisis' in Japan: is there a role for robotics-based solutions? *International Journal of Care and Caring*, 5(1) 165-171.
*元本研究科教員
2. Kodate, N., Donnelly, S., Suwa, S., Tsujimura, M.*, Kitinoja, H., Hallila, J., Toivonen, M., Ide, H., & Yu, W. (2021). Home-care robots – Attitudes and perceptions among older people, carers and care professionals in Ireland: A questionnaire study. *Health Soc Care Community*, 2021; 00: 1-11. <https://doi.org/10.1111/hsc.1332>
*元本研究科教員
3. Kodate, N., Taneda, K., Yumoto, A., Kawakami, N. (2022). How do healthcare practitioners use incident data to improve patient safety in Japan? A qualitative study. *BMC Health Services Research*, <https://doi.org/10.1186/s12913-019-4265-0>
4. Suwa, S., Yumoto, A., Ueno, M., Yamabe, T., Hoshishiba, Y., & Sato, M. (2021). Practitioners' identification of informal caregivers' difficulties with activities of daily living interventions for older people with dementia in Japan. *Psychogeriatrics*, 21(4), 466-477.
<https://doi.org/10.1111/psyg.12689>
5. Suwa, S., Tsujimura, T.*, Yumoto, A., Iwata, N., & Shimamura, A. (2021). Multidisciplinary pharmacotherapy collaboration for home-based older adults with dementia: a study focusing on physicians, pharmacists, and nursing professionals. *Psychogeriatrics*, 21(5), 749-762.
<https://doi.org/10.1111/psyg.12735>
*元本研究科教員
6. Suzuki, S., Sato, N., & Miyazaki M. (2021). Resilience of pregnant and postpartum women affected by the 2016 Kumamoto earthquake: A qualitative study. *Health Emergency and Disaster Nursing*. <https://doi.org/10.24298/hedn.2020-0012>
7. 井口紗織,石丸美奈(2021)。“自然災害により被災した市町村保健師の外傷後成長”の概念分析.千葉看護学会会誌,27(1),51-60.
8. 岩田尚子,諏訪さゆり(2021).訪問看護導入の必要がある外来化学療法を受ける高齢がん患者の特徴.日本がん看護学会誌,35,206-215.
9. 岡本聡美,小山幸代(2022).一般病棟における認知症患者の攻撃的行動を未然に防ぐ支援の検討(第2報).日本早期認知症学会誌,14(3),22-31.
10. 佐藤真奈美,佐藤奈保,宮崎美砂子(2021).平成28年熊本地震で被災した女性が体験した生活上の困難への対応.日本災害看護学会誌,22(3),16-28.
11. 鈴木久美子*,石丸美奈(2022).独居認知症高齢者のコミュニティでの生活継続を目指した地域包括支援センター看護職の支援方針.千葉看護学会会誌,27(2),1-10.
*研究生
12. 堀田かおり,石丸美奈(2021).ボランティア活動における高齢者グループの学習と学習による変化－実践コミュニティの視点－:質的システムティックレビュー.千葉看護学会会誌,27(1),61-70.
13. 山下由香,諏訪さゆり(2021).高齢者の不動による痛みの特徴 ケア提供者の語りから.千葉看護学会誌,27(1),121-130.
14. 湯浅美千代,島田広美,杉山智子,諏訪さゆり,辻村真由子*,永井優子(2021).急性期治療を行う病院の

看護師に求められる認知症看護の能力ー認知症高齢者を地域で支える看護職の視点からー.医療看護研究会誌,18(1),24-31.

*元本研究科教員

15. 渡邊章子*, 諏訪さゆり(2021).配偶者と死別後1年以内のアルツハイマー病高齢者における喪の過程ー環境要因と夫婦の関係性に着目してー.文化看護学会誌,13(1),28-37.

*元本研究科特任教員

[論文等(査読あり)]

16. 堀田かおり, 石丸美奈(2022).ボランティア活動における高齢者グループの学習の様相と学習による高齢者個人・グループの変化.千葉看護学会会誌,27(2),69-78.
17. 山下由香, 諏訪さゆり(2021).早く死にたいと訴える認知症高齢者のスピリチュアルペインとそのケア.認知症ケア事例ジャーナル,14(2),115-125.
18. 田上美千佳(2021).精神科救急入院料病棟に入院した患者の家族へのケア.家族の困りごと・支援ニーズ.病院・地域精神医学,63(2),108-109.

[論文等(査読なし)]

19. 鈴木美央(2021).「退院支援マップ」で患者さんのセルフモニタリング力を高めよう！精神科急性期病棟で看護師・作業療法士が協働 1.看護師はこう考え、こう動いた.精神看護,24(6),538-547.
20. 田上美千佳(2021).COVID-19の中で看護大学生に精神保健看護学を学んでもらうということ.病院・地域精神医学,63(3),237-240.
21. 村田涼子(2021).コロナ禍での看取りを経験した看護師へのメンタルサポート.看護管理,31(11),1008-1012.

[報告書]

22. 宮崎美砂子, 奥田博子, 雨宮有子, 時田礼子, 相馬幸恵, 山田祐子, 藤原真里, 井口紗織:災害時保健活動の体制整備に関わる保健師の連携強化に向けた研究.厚生労働科学研究費補助金(健康安全・危機管理対策総合研究事業)令和3年度総括・分担研究報告書(研究代表者 宮崎美砂子),2022.
23. 渡邊章子*:長期ケア施設における遺族となったアルツハイマー型認知症高齢者への支援.明治安田こころの健康財団研究助成論文集,55,2021.

*元本研究科特任教員

[単行書]

24. Kodate, N., Taneda, K., Yumoto, A., & Sugiyama, Y.: The Role of Incident-Reporting Systems in Improving Patient Safety in Japanese Hospitals: A Comparative Perspective, Brucksch S & Sasaki K (Eds.), Humans and Devices in Medical Contexts Case Studies from Japan. Springer, 167-196, 2021. https://doi.org/10.1007/978-981-33-6280-2_7
25. 石丸美奈:第1章発達段階の特性に応じた活動論 II 成人・高齢者保健福祉活動 1.健康づくり活動 2.生活習慣病予防活動.宮崎美砂子他(編),最新公衆衛生看護学.第3版(2022年版)各論1,日本看護協会出版会,83-129,2022.
26. 佐藤太一:第1章公衆衛生看護学概論 I 公衆衛生看護とは何か 4.公衆衛生看護の活動目標事例1生活保護を受ける親子の社会生活を豊かにするための保健師の取り組み.宮崎美砂子他(編),最新公衆衛生看護学.第3版(2022年版)総論,日本看護協会出版会,10,2022.
27. 鈴木久美子*:第1章公衆衛生看護学概論 II 公衆衛生看護の歴史 1.保健婦規則制定以前の地域における看護活動.宮崎美砂子他(編),最新公衆衛生看護学.第3版(2022年版)総論,日本看護協会出版会,25-32,2022.

*研究生

28. 鈴木美央, 中島亮子, 遠竹華子:序章 精神看護のとらえ方.榎本哲郎(編),看護学入門 13 精神看護.第5版,メヂカルフレンド社,2-5,2021.
29. 鈴木美央, 中島亮子, 遠竹華子:第5章 精神障害者の看護.榎本哲郎(編),看護学入門 13 精神看護.第

- 5 版,メヂカルフレンド社,121-175,2021.
30. 宮崎美砂子:第 3 章地域の健康危機管理を担う公衆衛生看護活動 1.災害保健、自然災害の平治・有事・事後対応.岡本玲子責任編集,公衆衛生看護学テキスト 公衆衛生看護活動 I .第 2 版,医歯薬出版,107-121,2022.
 31. 宮崎美砂子:第 1 章公衆衛生看護学概論.宮崎美砂子,北山三津子他(編),最新公衆衛生看護学総論.第 3 版 2022 年版,日本看護協会出版会,2-24,2022.
 32. 宮崎美砂子:第 2 章地区活動論.宮崎美砂子,北山三津子他(編),最新公衆衛生看護学総論.第 3 版 2022 年版,日本看護協会出版会,122-145,2022.
 33. 宮崎美砂子:第 4 章公衆衛生看護学研究.宮崎美砂子,北山三津子他(編),最新公衆衛生看護学総論.第 3 版 2022 年版,日本看護協会出版会,322-358,2022.
 34. 宮崎美砂子:第 3 章公衆衛生看護管理活動論.宮崎美砂子,北山三津子他(編),最新公衆衛生看護学各論 2.第 3 版 2022 年版,日本看護協会出版会,194-217,2022.
 35. 宮崎美砂子:コミュニティ支援の実践方法(5)健康危機管理.木下由美子編集代表,Essentials 地域看護学.第 2 版,医歯薬出版,116-121,2022.
 36. 山下由香:Q3.家を出たがるけどいつも同行できません。どうすればいいのでしょうか?千葉京子,高野朋美(編),認知症かもしれない家族のためにできること.弘文堂,24-28,2021.
 37. 山下由香:Q7.物忘れが増えてきたことを家族に指摘されるためか、活気がなくなってきました。どうすればよいのでしょうか?千葉京子,高野朋美(編),認知症かもしれない家族のためにできること.弘文堂,44-47,2021.
 38. 山下由香:Q12.私(娘)がお見舞いに行くと、父は 3 年前に亡くなった母と勘違いしているようです。どのように接したらよいのでしょうか?千葉京子,高野朋美(編),認知症かもしれない家族のためにできること.弘文堂,68-70,2021.
 39. 山下由香:Q14.旅行好きであった認知症の父を連れて、家族旅行に行きたいと思いますが、大丈夫でしょうか?千葉京子,高野朋美(編),認知症かもしれない家族のためにできること.弘文堂,77-80,2021.
 40. 山下由香:Q15.災害により認知症の家族と一緒に避難することになったときはどうすればよいのでしょうか?千葉京子,高野朋美(編),認知症かもしれない家族のためにできること.弘文堂,81-86,2021.

[学会発表抄録]

41. Suzuki, S., Sato, N., & Miyazaki, M. (2021, April 15-16). *The life experiences of pregnant women affected by natural disasters:review of the literature*. 24th EAFONS conference 2021, Manila, Philippine.
42. Terada, T., Sato, N., & Miyazaki, M. (2021, April 15-16). *Disaster experience of family members of the elderly with dementia*. 24th EAFONS conference 2021, Manila, Philippine.
43. 岡本聡美,小山幸代 (2021.5.29-30,オンデマンド配信期間:6.3-6.30).一般病院における認知症患者の攻撃的行動を未然に防ぐ支援の検討(第 2 報).第 21 回日本早期認知症学会学術大会,浜松(ハイブリット開催).
44. 小林信,服部克彦,神澤尚利,寺岡征太郎,葛島慎吾,寺田美樹,須藤公裕,本武敏弘,田上美千佳,細谷真由(2021 年 6 月 5-6 日).精神力動の視点で事例を読み解く!事例検討会のすゝめ~衝動コントロールを支援する看護ケア~.日本精神保健看護学会第 31 回学術集会プログラム・抄録集,56.(オンライン)
45. 鈴木美央,菅谷晶子,浅川理恵,尾山理紗,浪久悠,川越大輔(2021 年 6 月 5-6 日).入院から退院まで、患者さんと一緒にステップアップしよう!—患者さんのセルフモニタリングと対処行動獲得に向けた「退院支援マップ」の取り組み—.日本精神保健看護学会第 31 回学術集会プログラム・抄録集,47.(オンライン)
46. Ishimaru, M., & Kodate, N. (2021, November 20). *Can Geographic Information System aid care professionals and older people living in communities? Exploration of ideas for a research project*, Workshop Technology & Society in Japan and Beyond. (online)

47. 渡邊章子*(2021年6月25日-26日).認知症者の死別に関する文献検討～包括的なエンド・オブ・ライフ・ケアを目指して～.日本老年看護学会第26回学術集会.(オンライン)
*元本研究科特任教員
48. Kodate, N., Maeda, Y., Hauray, B., Tsujimura, M.*, Chan, C. W., Mannan, H., Dalgalarrrondo, S., Cheung, M., Yumoto, A., Suwa, S., Yu W., Donnelly, S., Sakata, N., O'Shea, D., Obayashi, K., & Masuyama, S. (2021, July7-9). *A vision for the future? Shifting portrayals of care robots in newspaper articles in Asia and Europe*. 50th Anniversary Annual Conference of the British Society of Gerontology 'Ageing Past, Present and Future: Innovation and Change'. (online)
*元本研究科教員
49. Tsujimura, M.*, Suwa, S., Kodate, N., Donnelly, S., Kitinoja, H., Hallila, J., Toivonen, M., Bergman-Kärpijoki, C., Takahashi, E., Ide, H., Ishimaru, M., Shimamura, A., & Yu W. (2021, August 24-28). *Exploring perceptions toward home-care robots for older people in Japan: a comparative study*. Panel Session, 16th International Conference of the European Association for Japanese Studies, Whova. (online)
*元本研究科教員
50. 石坂晴奈,諏訪さゆり(2021年8月28, 29日).在宅認知症高齢者の排泄に関する生活障害と家族介護者によるケア.第26回日本在宅ケア学会学術集会抄録集,140.(広島会場・オンライン)
51. 佐藤愛*,諏訪さゆり(2021年9月4日).中途障害児と家族の経験する家族発達課題の特徴ー訪問看護ステーションスタッフへの面接調査をとおしてー,千葉看護学会第27回講演集,40.(オンライン)
*博士後期課程修了
52. 西原真結子*,石丸美奈,佐藤太一,鈴木悟子,岩瀬靖子(2021年9月4日,オンライン).高齢者による健康づくり自主グループ活動の継続要因についての二次分析.千葉看護学会第27回学術集会講演集,33.
*看護学部卒業
53. 松浦めぐみ,石丸美奈,鈴木悟子,岩瀬靖子(2021年9月4日).在宅で生活する医療的ケア児者の意思決定に関する文献検討.千葉看護学会第27回学術集会講演集,41.(オンライン)
54. 菊地浩美*,佐藤太一,石丸美奈,鈴木悟子,岩瀬靖子(2021年9月4日).乳幼児期の医療的ケア児をもつ母親の利用するサポートと思いー小児等在宅医療連携拠点事業実施前後の比較ー.千葉看護学会第27回学術集会講演集,42.(オンライン)*看護学部卒業
55. 村田涼子(2021年9月11-12日).コロナ禍の看護師のメンタルヘルスー文献検討から見えてきた傾向ー.第19回日本臨床医学リスクマネジメント学会プログラム・抄録集,37.(オンライン)
56. 飯野理恵,宮崎美砂子,石丸美奈,佐藤紀子,時田礼子,鈴木悟子,杉田由加里,佐藤太一,栗栖千幸,土屋裕子(2021年9月11-12日).予防活動の持続・発展のための地域看護実践ワークブックのOJTへの活用 第2報ー多様職場における活用の実際と影響ー.日本地域看護学会第24回学術集会講演集,134.(オンライン)
57. 石丸美奈,岩瀬靖子,鈴木悟子,佐藤太一(2021年9月11-12日).社会資源の創出力向上に資するシナリオ映像教材を用いたオンライン授業とその評価1ー学習状況に着目してー.日本地域看護学会第24回学術集会講演集,144.(オンライン)
58. 鈴木悟子,石丸美奈,佐藤太一,岩瀬靖子(2021年9月11-12日).社会資源の創出力向上に資するシナリオ映像教材を用いたオンライン授業とその評価2ー教育効果に着目してー.日本地域看護学会第24回学術集会講演集,145.(オンライン)
59. 飯野理恵,宮崎美砂子,石丸美奈,佐藤紀子,時田礼子,鈴木悟子,杉田由加里,佐藤太一,栗栖千幸,土屋裕子(2021年9月11-12日).予防活動の地蔵・発展のための地域看護実践ワークブックのOJTへの活用 第2報.日本地域看護学会第24回学術集会講演集,134.
60. 石坂晴奈,諏訪さゆり,西村拓一,押山千秋(2021年9月16~18日).認知症者の排泄の生活障害とケアに関する知識の構造化ー人工知能による介護者支援を目指してー.第36回日本老年精神医学会プログラム・抄録集,262.(オンライン)
61. 湯浅美千代,島田広美,杉山智子,諏訪さゆり,辻村真由子*,永井優子(2021年10月).急性期治療を行

- う病院の看護師に求められる認知症看護の能力ー認知症高齢者を地域で支える看護職の視点からー.医療看護研究会誌,18(1), 24-31.
- *元本研究科教員
62. Watanabe, A.* (2021, October). *A support for older people with Alzheimer's disease who have bereaved of their spouse: Focusing on the effects of rituals*. 21st WPA World Congress of Psychiatry, Colombia. (on-line)
- *元本研究科特任教員
63. 永田亜希子,石丸美奈,岡田忍,石橋みゆき,飯野理恵,坂上明子,佐藤奈保,眞嶋朋子,辻村真由子*(2021年 11 月).地域で暮らす人の支援に関する動画教材の領域横断的活用の実際と学生の学び:多年次積み上げ教材への課題.第 41 回日本看護科学学会学術集会プログラム集.
- *元本研究科教員
64. Inuyama, A., & Suwa, S. (2021, December 8-9). *Eye movements and behavior of older people with dementia when reading text – Comparison of cases by severity–*. The 11th Hong Kong International Nursing Forum, Hong Kong, China. (online)
65. Kawakami, N., & Suwa, S. (2021, December 8-9). *Perception of social rehabilitation support for long-term inpatients with schizophrenia private psychiatric hospital nurses in Japan*. The 11th Hong Kong International Nursing Forum, Hong Kong, China. (online)
66. Sawada, S., & Suwa, S. (2021, December 8-9). *A literature review on delirium at home*. The 11th Hong Kong International Nursing Forum, Pokfulam, Hong Kong. (online)
67. Yamada, T., & Kawano, S. (2021, December 8-9). *Factors developing clinical judgment of home care nurses: A literature review in Japan*. The 11th Hong Kong International Nursing Forum 2021, Hong Kong, China. (online)
68. Yumoto, A., & Suwa, S. (2021, December 8-9). *Daily life changes in people with Lewy body dementia: Characteristic symptoms other than visual hallucinations*. The 11th Hong Kong International Nursing Forum. (online)
69. 鈴木美央,森千鶴(2021年 12月 11-12日).入院中の統合失調症者の対人機能の変化.日本精神障害者リハビリテーション学会第 28 回愛知大会抄録集,72.(オンライン)
70. 浪久悠,川越大輔,宮本葵,鈴木美央(2021年 12月 11-12日).コロナ禍における急性期病棟での精神科作業療法プログラムのリフォーム～外来の居場所から入院病棟での早期介入～.日本精神障害者リハビリテーション学会第 28 回愛知大会抄録集,89.(オンライン)
71. 川越大輔,浪久悠,鈴木美央,宮本葵(2021年 12月 11-12日).コロナ禍におけるデイケアでの作業療法士の在り方～入院から外来へのつながりを意識して～.日本精神障害者リハビリテーション学会第 28 回愛知大会抄録集,111.(オンライン)
72. 菊池敦子,佐藤紗代,牧野美駒,鈴木美央(2021年 12月 11-12日).服薬自己管理導入時のアセスメントの視点に関する文献レビュー.日本精神障害者リハビリテーション学会第 28 回愛知大会抄録集,135.(オンライン)
73. 鈴木美央,菅谷晶子,浅川理恵,尾山理紗,浪久悠,川越大輔(2021年 12月 11-12日).患者さんとの入院から退院までのプロセスの共有ー精神科急性期病棟での看護師・作業療法士の協働ー.日本精神障害者リハビリテーション学会第 28 回愛知大会抄録集,153.(オンライン)
74. 奥田博子,宮崎美砂子,雨宮有子,時田礼子,相馬幸恵,藤原真里,井口紗織(2021年 12月 21-23日).災害時における保健師間の連携と応援人材の確保 1ー都道府県本庁及び関係団体への調査.第 80 回日本公衆衛生学会総会講演集,449.(オンライン)
75. 雨宮有子,宮崎美砂子,奥田博子,時田礼子,相馬幸恵,藤原真里,井口紗織(2021年 12月 21-23日).災害時における保健師間の連携と応援人材の確保 2ー県型保健所及び関係団体への調査.第 80 回日本公衆衛生学会総会講演集,449.(オンライン)
76. 時田礼子,宮崎美砂子,奥田博子,雨宮有子,相馬幸恵,藤原真里,井口紗織(2021年 12月 21-23日).災害時における保健師間の連携と応援人材の確保 3ー市町村及び関係団体への調査.第 80 回日本公衆衛生学会総会講演集,450.(オンライン)
77. 宮崎美砂子,奥田博子,雨宮有子,時田礼子,相馬幸恵,藤原真里,井口紗織(2021年 12月 21-23日).災

害時における保健師間の連携と応援人材の確保 4—保健所設置市及び関係団体への調査.第 80 回日本公衆衛生学会総会講演集,450.(オンライン)

78. Miyazaki, M., Okuda, H., Amamiya, Y., Tokita, R., Soma, Y., Yamada, Y., Fujiwara, M., & Iguchi, S. (2022, January 8-9). *Cooperation among public health nurses belonging to different institutions during disasters: A case study in Japan*. 6th International Conference of Global Network Public Health Nursing Conference, Abstracts book, 274. (online)
79. Isomura, S., Sato, T., Ishimaru, M., Ushio, Y., Saito, M., Murakami, Y., Iwase, S., Suzuki, S., & Sakai, A. (2022, January8-9). *Japanese and international trends in the introduction of online learning resources in nursing education*. 6th International Conference of Global Network of Public Health Nursing Conference, Abstracts book, 283. (online)
80. Ishikawa, S., Fujita, M., Iwase, S., & Fukita, S. (2022, January8-9). *Multidisciplinary support for children with special healthcare needs and their families*. The 10th Anniversary Jointly held with 6th International Conference of Global Network of Public Health Nursing, 326.
81. 細谷紀子,佐藤紀子,雨宮有子,杉本健太郎,石丸美奈(2022年3月12日).発達障害児者のレジリエンスに関する研究動向(文献レビュー).第14回文化看護学会学術集会集.(オンライン)
82. Sato, T., & Ishimaru, M. (2022). *On-the-job training through case conferences: Nursing leadership and impact on work environment*. Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing's Creating Healthy Work Environments 2022 event, Washington, DC, USA. (online)
83. 渡邊章子*,橋本陽介,田上美千佳(2022)大切な方と死別された認知症高齢者への死別告知に関する在り方の検討.第14回文化看護学会学術集会抄録集,54.(オンライン)
*元本研究科特任教員

[シンポジウム・招聘講演]

84. 石丸美奈(2021年11月9日).地域で暮らす認知症の人とその家族を見守り支える地域ケア.第19回千葉大学医工学シンポジウム.(オンライン)
85. 石丸美奈(2022年1月27日).映像教材を用いた基礎教育での工夫とその評価について.2021年度全国保健師教育機関協議会関東・甲信越ブロック会議研究会 WEB,[招聘講演].
86. 大塚眞理子,久保田健太郎,村井早苗,村井克則,石丸美奈(2021年9月11日).「住民・大学・行政」の連携で取り組む住民主体のコミュニティづくり.宮城大学看護学群公開シンポジウム.(オンライン)
87. 諏訪さゆり(2021年6月12-13日)認知症ケアマネジメントとICFの考え方.教育講演.日本ケアマネジメント学会第20回研究大会.
88. Suwa, S., Tsujimura, M.*, Kodate, K., Donnelly, S., Kitinoja, H., Ide, H., Takahashi, E., Ishimaru, M., Shimamura, A., & Yu, W. (2021, September 9). *Exploring perceptions toward home-care robots for older people in Finland, Ireland, and Japan: A comparative questionnaire study*. SYMPOSIUM C-1 Older adults and modern technology: New technology for older adults. The 15th International Congress of the Asian Society Against Dementia, 71, Sendai.
*元本研究科教員
89. Suwa, S. (2022, February 3). *Care methods for daily life disabilities in dementia that respect autonomy and independence*. ジェトロ・ヘルスケアビジネス・フォーラム 2022 in 千葉 (JHBFC2022)WEB セミナー. Aging Pitch & Session 高齢者ケア Keynote Aging I.
90. 諏訪さゆり(2022年2月28日-3月30日).ケアを通じた成長—家族介護の発展過程.特別講演.認知症ケア学会関東地域部会.
91. 宮崎美砂子(2021年8月5日).コロナ禍における保健活動の展開.日本公衆衛生協会令和3年度近畿地区保健師ブロック別研修会,WEB,[招聘講演].
92. 宮崎美砂子(2021年9月12日).地域看護学の立場から.日本地域看護学会第24回学術集会シンポジウム4 看護基礎教育に必要な地域看護とは「地域・在宅看護論」の教育で目指す新たな地域看護,WEB,[シンポジウム].
93. 宮崎美砂子(2021年10月15日).災害時の保健活動を推進するための統括保健師の役割～「連携」

に焦点をあてて.厚生労働省令和 3 年度保健師中央会議及び健康危機における保健師活動推進会議,WEB,[招聘講演].

94. 宮崎美砂子(2021 年 10 月 23 日).保健師の人材育成と人材確保～コロナ禍での保健活動を経験して～.全国保健師長会令和 3 年度南関東・東京ブロック研修会,横浜市,[招聘講演].
95. 宮崎美砂子(2021 年 11 月 12 日).地域における健康危機管理と保健師の役割～新型コロナウイルス感染症への対応を通して～.日本公衆衛生協会令和 3 年度関東甲信越保健師ブロック別研修会,WEB,[招聘講演].
96. 宮崎美砂子(2021 年 11 月 20 日).保健師活動における健康危機管理への対応～新型コロナウイルス感染症の対応経験を踏まえて～.全国保健師長会令和 3 年度中国・四国ブロック研修会,WEB,[招聘講演].
97. 宮崎美砂子(2021 年 12 月 21 日).災害看護学の視点からの災害への備えと対応.第 80 回日本公衆衛生学会総会シンポジウム 22 健康危機管理とは?首都直下型地震対策を考える,東京,2021,[シンポジウム].
98. 宮崎美砂子(2021 年 12 月 24 日).健康危機発生時の保健活動のあり方～災害・コロナ禍における平時の備えと受援体制.日本公衆衛生協会令和 3 年度北海道・東北ブロック保健師等ブロック研修会,WEB,[招聘講演].

[受賞(国内・国外)]

99. 千葉看護学会第 27 回学術集会優秀ポスター賞
松浦めぐみ,石丸美奈,鈴木悟子,岩瀬靖子(2021).在宅で生活する医療的ケア児者の意思決定に関する文献検討.千葉看護学会第 27 回学術集会講演集,41.(国内)
100. 千葉看護学会第 27 回学術集会の優秀ポスター賞
佐藤愛*,諏訪さゆり(2021).中途障害児と家族の経験する家族発達課題の特徴ー訪問看護ステーションスタッフへの面接調査をとおしてー.千葉看護学会第 27 回学術集会(2021 年 9 月 4 日,オンライン)千葉看護学会第 27 回講演集,40.
*博士後期課程修了

[その他]

101. 荒木田美香子,石丸美奈,遠藤雅幸,岡本玲子,坂本真理子,臺有桂,高橋勇太,田中美帆,松田有子(2021).第 8 回及び第 9 回公衆衛生看護学会学術集会ワークショップ ～日本に在住する外国人への健康支援を考える.日本公衆衛生看護学会誌,10(2),84-86.
102. 石丸美奈(2021).千葉看護学会第 26 回学術集会「協働を通じて生み出す知」報告.調査研究ジャーナル,10(1),54.
103. 石丸美奈,小舘尚文,井出博生,兪文偉,辻村真由子,島村敦子(2021 年 9 月 4 日).生活支援技術の社会実装に関わる社会・文化・政策的課題 ～看護学・工学・社会政策の立場から意識すること～.千葉看護学会第 27 回学術集会講演集,48.(オンライン)
104. 山本利江,坂井文乃,植田満美子(2021 年 9 月 4 日).看護実践の事例分析をめぐる論理化と看護学研究における有用性の検討ー看護学への AI 導入に事例分析による知識基盤づくりをめざしてー.千葉看護学会第 27 回学術集会講演集,46.(オンライン)
105. 石丸美奈,牛尾裕子,磯村聡子,斎藤美矢子,村上祐里香,岩瀬靖子,鈴木悟子,坂井文乃,井口紗織,佐藤太一(2021 年 9 月 11-12 日).地域包括ケアの能力向上に資する映像教材の開発と活用・評価のしくみづくり.日本地域看護学会第 24 回学術集会講演集,107.(オンライン)
106. 井口紗織,堀田かおり,高橋秀治,佐藤太一,石丸美奈(2021 年 9 月 11-12 日).地域看護研究の知見を国際的に公表していくためにー若手研究者の取り組みからー.日本地域看護学会第 24 回学術集会講演集,108.(オンライン)
107. 石丸美奈,増島麻里子,辻村真由子,岩田裕子,田代理沙,森恵美,宮崎美砂子,酒井郁子(2021).【エビデンスを臨床実践に活かす挑戦-JBI を契機とする臨床実践と研究者の協働】EBP に向けたシステムティックレビューの重要性 3 大学の取り組みから考える 千葉大学の取り組み.看護研究,54(3),207-212.

108. 小林成光, 増島麻里子, 石丸美奈(2021). 【エビデンスを臨床実践に活かす挑戦ーJBI を契機とする臨床実践と研究者の協働】EBPに向けたシステマティックレビューの重要性 ガイドライン作成のために ガイドラインを作成する上でいかにシステマティックレビューが重要か. 看護研究, 54(3), 224-230.
109. 鈴木美央, 川越大輔: 学会会木村病院 第1回多職種支援を考える会.
110. 鈴木美央: 国立国際医療研究センター国府台病院 認知症ケア研修. 認知症ケアにおける倫理.
111. 鈴木美央: 日本精神科看護協会 第4回千葉県支部研修会. 精神科におけるセルフモニタリングを促す支援ー看護師と作業療法士の協働ー.
112. 鈴木美央: 大塚製薬株式会社 精神科における多職種連携の会ー退院支援の取り組みについてー. 退院に向けた目標を患者さんと共有する仕組みづくり.
113. 鈴木美央: 第2回クラブラネット研修会. 精神科急性期病棟におけるクライシスプラン作成の試み.
114. 辻村真由子*, 石丸美奈(2021). 【エビデンスを臨床実践に活かす挑戦ーJBI を契機とする臨床実践と研究者の協働】エビデンスを現場に実装していくために 研究と現場との協働の試み 臨床家にとってのEBPの意味とは. 看護研究, 54(3), 246-248.
*元本研究科教員
115. 村田涼子: 日本専門看護師協議会精神看護分野セミナー. コロナ禍における看護師の倫理的配慮にどうかかわるか.
116. 村田涼子: 医療安全 WEB 講演会ー睡眠薬適正使用を考えるー. 当院における精神科リエゾンの取り組みー当院におけるせん妄対策ー.
117. 山川みやえ, 石丸美奈, 西村直子, 植木慎悟, 増島麻里子, 辻村真由子, 木村聡子, 土谷僚太郎, 渡邊浩子, 牧本清子(2021). 【エビデンスを臨床実践に活かす挑戦ーJBI を契機とする臨床実践と研究者の協働】今後の展望 エビデンスを臨床現場で活用し浸透させるためのタスク・フォース 日本のJBIセンターの役割. 看護研究, 54(3), 254-257.
118. 湯本品代: 2021年度学研ナースングサポート中堅コース. 退院後の「暮らし」を支える訪問看護を知るー病院と地域をつなぐ看看連携ー.
119. Sato, T. (2021, July 14). *Characteristics of caring community*. 2nd Canada-Ireland- Japan Caring Community Meeting. (online)
120. Takahashi, S. (2021, July 14). *Suzu no Kai: The case of caring community in Japan*. 2nd Canada-Ireland-Japan Caring Community Meeting. (online)

文化看護学

〔原著〕

1. 飛世真理子, 山本利江, 斉藤しのぶ(2021). 臨地実習指導者の役割遂行下における看護実践. 千葉看護学会会誌, 27(2), 49-57.

〔学会発表抄録〕

2. Ikeda, Y. (2021, April 15). *Characteristics of Health in Different Nursing Theories*. 24th East Asian Forum of Nursing Scholars. (online)
3. Saito, S., Wazumi, Y., Tobise, M., Mineno, S., Chien, S. C., & Yamamoto, T. (2021, May 3-5). *Development and evaluation of new nursing technique education system through visualization of "vital power"*. The CASN Canadian Nursing Virtual Education Conference 2021. (online)
4. 嶺野将大, 斉藤しのぶ, 山本利江, 飛世真理子(2021). VR教材の生命力に関するアセスメントへの有用性の検討ーペーパー事例との比較ー. 千葉看護学会 第27回学術集会. (オンライン)
5. 矢花瑠理子, 橋内伸介, 坂本衣史(2021). 救命救急センターICUにおける手指衛生実施率向上への取り組み. 日本環境感染学会総会プログラム・抄録集, 36, 286.
6. Katagiri, T., Yamamoto, T., & Saito, S. (2021, September 23-27). *A true nursing practice at*

hospital in Japan, 1958 - from viewpoint of "Art and Science". 38th Annual Nursing & Health Care History Conference. (online)

7. Tobise, M. (2021, October 4). *A literature review on current state of clinical practicum instructors involved in clinical nursing practicum in Japan, and future research topics.* World Nursing Education Conference 2021, Barcelona, Spain. (online)
8. 山本利江(2021年11月28日).私とナイチンゲールーコロナパンデミック下の看護を中心にー.ナイチンゲール研究学会第41回研究懇談会.(オンライン)
9. 飛世真理子,斉藤しのぶ,山本利江(2022).看護技術修得段階における学生の感染予防に対する認識の変化ー微粒子可視化システム活用前後の比較ー.第3回日本看護シミュレーションラーニング学会学術集会プログラム・抄録集,75.(オンライン)

〔その他〕

10. 橋内伸介, 田村富美子(2021).呼吸管理のデバイス 気管チューブの固定法.日本呼吸療法医学会機関紙「人工呼吸」.38(1),61-68.

〔シンポジウム・招致講演〕

11. 山本利江,錢淑君(2021, June 17).コロナ禍の中で看護実習を代替する学内演習の教育戦略.台湾看護教育学会, [招待講演] .(オンライン)

専門職育成学

〔原著〕

1. 鹿島嘉佐音,舟島なをみ,中山登志子(2022).「職場の『働きやすさ』評価尺度ー病院スタッフ看護師用ー」を用いた評価活動の有効性検証.看護教育学研究,31(1).(印刷中)
2. 高橋吏才子*,中山登志子,植田満美子,舟島なをみ(2022).職務上の困難に起因し病院を退職した看護師の退職に至る経験病院を退職した看護師の経験.看護教育学研究,31(1).(印刷中)
*博士前期課程修了
3. Casenove, D. (2021). Cognitive and metacognitive awareness prompts as core components of a new English language curriculum for nursing students in Japan: A model. *Nursing English Nexus*, 5(1), 20-27.

〔論文等 (査読あり)〕

4. 伊藤裕佳,山本武志,井出成美,酒井郁子(2022).看護師等学校養成所における専門職連携教育の実装状況と課題,保健医療福祉連携,15(1),2-10,2022.

〔論文等 (査読なし)〕

5. 井出成美,臼井いづみ,孫佳茹,馬場由美子,飯野理恵,朝比奈真由美,関根祐子,中口俊哉,酒井郁子(2021).COVID-19感染拡大下の大規模オンライン IPE の実際.保健医療福祉,14(2),126-132.
6. 井出成美,酒井郁子(2022).「専門職連携教育」を発展させるためのポイント.看護教育に携わるみなさまへの情報誌 ラポール, No.10.
7. 孫佳茹(2022).IPEをはじめましょう、そして続けましょう 第2回「IPEで何を教えるのかーIPCを理解する」.看護教育のための情報サイト『NurSHARE』特集,(in press),南江堂,
<https://www.nurshare.jp/>
8. 井出成美(2022).IPEをはじめましょう、そして続けましょう 第3回「IPEのカリキュラム設計」.看護教育のための情報サイト『NurSHARE』特集,(in press),南江堂, <https://www.nurshare.jp/>
9. 井出成美,臼井いづみ(2022).IPEをはじめましょう、そして続けましょう 第4回「IPEの授業デザイン」.看護教育のための情報サイト『NurSHARE』特集,(in press), 南江堂,

<https://www.nurshare.jp/>

10. 馬場由美子,酒井郁子(2022).IPEをはじめましょう、そして続けましょう 第5回「IPEの実例報告」.看護教育のための情報サイト『NurSHARE』特集,(in press),南江堂, <https://www.nurshare.jp/>

〔報告書〕

11. 酒井郁子,井出成美,臼井いづみ,孫佳茹,馬場由美子,富永嘉子,長谷川容佳:千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター令和3年度事業報告書,2022.

〔単行書〕

12. 井出成美:地域住民の相互の助け合い強化によるまちづくり.宮崎美砂子,北山三津子,春山早苗,田村須賀子(編),最新公衆衛生看護学.第3版 2022年版,日本看護協会出版会,305-309,2022.
13. 井出成美:第Ⅲ章成人期にある人の健康 4 保健・医療・福祉政策と今日の健康課題 B 地域包括ケア.林直子,鈴木久美,酒井郁子,梅田恵(編),成人看護学概論 社会に生き世代をつなぐ成人の健康を考える.改訂第4版,南江堂,103-105,2022.
14. 井出成美:第Ⅲ章成人期にある人の健康 4 保健・医療・福祉政策と今日の健康課題 D 認知症対策.林直子,鈴木久美,酒井郁子,梅田恵(編),成人看護学概論 社会に生き世代をつなぐ成人の健康を考える.改訂第4版,南江堂,109-112,2022.

〔学会発表抄録〕

15. Casenove, D. (2021, April 16). *Impact of self-reflection prompts on graduate nursing students in an academic English course* [Conference presentation]. EAFONS 2021 Conference, Manila, Philippines.
16. Casenove, D. (2021, June 26). *Cognitive and metacognitive awareness as core concepts of new English language curricula for nursing students* [Conference presentation]. JANET2021 Online.
17. 伊勢根尚美,中山登志子,舟島なをみ(2021).「病棟看護師の実習指導役割自己評価尺度」を用いた自己評価の有効性の検証.看護教育学研究,30(2),第30回日本看護教育学学会学術集会講演集,12-13.
18. 植田満美子,舟島なをみ,中山登志子(2021).潜在看護師の離職から復職に至る過程—復職に至った潜在看護師の経験の二次分析を通して—.看護教育学研究,30(2),第30回日本看護教育学学会学術集会講演集,10-11.
19. 高橋吏才子*,中山登志子,植田満美子,舟島なをみ(2021).病院を退職した看護師の経験の概念化—2年以上就業を継続した看護師に焦点を当てて—.看護教育学研究,30(2),第30回日本看護教育学学会学術集会講演集,8-9.
*博士前期課程修了
20. 中山登志子,舟島なをみ(2021).手術室の看護に携わる看護師が講じている医療事故防止対策.第52回日本看護学会学術集会講演集,266.
21. 馬場由美子,臼井いづみ,井出成美,孫佳茹,朝比奈真由美,石川雅之,酒井郁子(2021).大学病院における臨床参加型 IPE に対する学生評価から得られた課題.第14回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会プログラム・抄録集,31.(オンライン)
22. 臼井いづみ,井出成美,馬場由美子,孫佳茹,近藤昭彦,岩崎寛,濱侃,酒井郁子(2021).オンライン同時双方向で実施した災害時専門職連携シミュレーション教育の実際と課題.第14回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会プログラム・抄録集,32.(オンライン)
23. 井出成美,臼井いづみ,馬場由美子,孫佳茹,飯野理恵,関根祐子,中口俊哉,朝比奈真由美,酒井郁子(2021).同時双方向メディアツールによる協働学習の学習成果の対面授業との比較.第14回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会プログラム・抄録集,33.(オンライン)
24. 孫佳茹,酒井郁子,井出成美,臼井いづみ,馬場由美子,飯野理恵,朝比奈真由美,関根祐子,中口俊哉(2021).同時双方向型授業でのグループワークにおけるオンライン上のコミュニケーションの課題.第14回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会プログラム・抄録集,38.(オンライン)
25. Nakayama, T., & Funashima, N. (2021). *Problems that nursing faculty in Japan encounter*

- when supervising master's theses -Differences by supervision experience-*. 46th Biennial Convention Sigma Theta Tau international , Indiana, USA. (online)
26. Casenove, D. (2021, November 14). *COIL for nursing: Integrating intercultural competence in the curriculum* [Conference presentation]. JALT2021. (online)
27. 中山登志子,舟島なをみ(2021).看護系大学院の修士論文指導に携わる教員の研究指導経験の解明.第41回日本看護科学学会学術集会プログラム集,60.
28. 村井佳美,中山登志子,植田満美子(2021).院内教育の提供者に焦点を当てた研究の動向,第41回日本看護科学学会学術集会プログラム集,90.
29. Casenove, D. (2022, March 27-31). *Learning experiences of nursing students in a US/Japan Coil Program* [Conference presentation]. APAIE 2022 Conference, Vancouver, Canada.

〔シンポジウム・招聘講演〕

30. 孫佳茹:中国の教育. 淑徳大学子ども学,2021.6.25(オンライン)
31. 臼井いづみ:シミュレーション教育とは その工夫と留意点.全国助産師教育協議会研修会,2022.1.30.(オンライン)

〔その他〕

32. Usui, I.: 2021 TMUN Online Exchange Program. Chiba University School of Nursing Curriculum and Clinical Practicum.
33. Ide, N.: 2021 TMUN Online Exchange Program. The Community-based Integrated Care Systems for the Older Person in Japan.
34. Sakai, I., Ide, N., Usui, I., Sun J., Baba, Y., & Casenove, D.: 群馬大学多職種連携教育研究研修センターThe 8th Gunma University IPE Training Course. Development, Operation, and Future Expectation of Inohana IPE.
35. 井出成美:静岡県看護協会教員講習会.専門職連携教育とは.
36. 井出成美:千葉県主催委託事業 認知症にかかわる専門職の多職種協働研修.多職種カンファレンスカンファレンスでの基本的動作.
37. 臼井いづみ:千葉県主催委託事業 認知症にかかわる専門職の多職種協働研修.仕事におけるコミュニケーションー効果的な情報伝達スキルー.
38. 馬場由美子:千葉県主催委託事業 認知症にかかわる専門職の多職種協働研修.アイスブレイクとは私の仕事紹介.
39. 井出成美:千葉大学医学部附属病院特定行為研修(チーム医療演習).カンファレンスの基本的動作.
40. 臼井いづみ:千葉大学医学部附属病院特定行為研修(チーム医療演習).情報伝達重視型コミュニケーション ISBAR を使って.
41. 井出成美:地域密着介護・医療 DX 人材育成プログラム.仕事におけるコミュニケーション効果的な情報伝達スキル.
42. 臼井いづみ:地域密着介護・医療 DX 人材育成プログラム.チームとチーム活動.
43. 孫佳茹:地域密着介護・医療 DX 人材育成プログラム.カンファレンスとは.
44. 馬場由美子:地域密着介護・医療 DX 人材育成プログラム.アイスブレイクとは.
45. 酒井郁子,井出成美,臼井いづみ,孫佳茹,馬場由美子:千葉市中央区葛城地区避難所運営委員会研修.避難所運営ゲーム HUG の実際(仮題).
46. 井出成美:IPERC 主催 IPW ベーシック研修&マネジメント研修理論編.対立と対立の解決を目指したアプローチ.
47. 井出成美:IPERC 主催 IPE カリキュラムマネジメント&授業開発研修.IPE 実装における教員の経験.
48. 井出成美:IPERC 主催 IPE カリキュラムマネジメント&授業開発研修.インストラクショナルデザインと授業設計.
49. 酒井郁子,井出成美,臼井いづみ,孫佳茹,馬場由美子:IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編①.職種間の理解.

50. 酒井郁子,井出成美,臼井いづみ,孫佳茹,馬場由美子:IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編②.チーム内の効果的なコミュニケーション.
51. 酒井郁子,井出成美,臼井いづみ,孫佳茹,馬場由美子:IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編③.チームワークの促進スキル.
52. 酒井郁子,井出成美,臼井いづみ,孫佳茹,馬場由美子:IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編④.対立の解決.
53. 酒井郁子,井出成美,臼井いづみ,孫佳茹,馬場由美子:IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編⑤.他職種カンファレンス.

看護政策・管理学

〔原著〕

1. 水野雅子,野地有子,増渕美恵子(2021).救命救急病棟で活用できる退院支援計画シートの開発ー退院困難リスクへの早期対応を可能にする退院支援内容の明確化ー.日本看護管理学会誌,25(1),46-54.
2. Tong, L., Tong, T., Wang, J., Li, Y., & Noji, A. (2021). Determinants of transcultural self-efficacy among nurses in China: A cross-sectional study (2021). Nursing and Health Sciences. <https://doi.org/10.1111/nhs.12876>
3. 遠又靖丈,高田健人,長瀬香織,榎裕美,高田和子,大原里子,浅見桃子,苅部康子,谷中景子,堤亮介,西宮弘之,和田涼子,野地有子,加藤昌彦,小山秀夫,田中和美,杉山みち子,三浦康嗣(2022).認知症グループホームの施設特性と栄養スクリーニング加算算定との関連:施設単位の横断研究.厚生の指標,(in press).
4. 佐々木菜名代,井部俊子,倉岡有美子,笠松由佳,澤邊綾子,武村雪絵,吉田千文,手島恵(2021)コンピテンシーを基盤とした看護管理者研修プログラムの評価(第二報):~看護管理実践において発揮されたコンピテンシーとその構造~ 日本看護管理学会誌 25 巻 1 号 225-235. https://doi.org/10.19012/janap.25.1_225

〔論文等(査読なし)〕

5. 井出成美,臼井いづみ,孫佳茹,馬場由美子,飯野理恵,朝比奈真由美,関根祐子,中口俊哉,酒井郁子(2021).COVID-19 感染拡大下の大規模オンライン IPE の実際.保健医療福祉連携,14(2),126-132.

〔報告書〕

6. 杉山みち子,小山秀夫,三浦康嗣,遠又靖丈,高田健人,長瀬香織,榎裕美,高田和子,大原里子,浅見桃子,苅部康子,谷中景子,堤亮介,西宮弘之,和田涼子,野地有子,加藤昌彦,小山秀夫,田中和美(2021).令和 3 年度老人保健健康推進事業(老人保健推進費等補助金)介護保険施設等における栄養ケア・マネジメントの実態に関する調査研究事業報告書,日本健康・栄養システム学会.
7. 和住淑子,野地有子,黒田久美子,錢淑君,高木夏恵.千葉大学看護学部研究科附属看護実践研究指導センター年報,2021.
8. 和住淑子,眞嶋朋子,野地有子,池崎澄江,黒田久美子,錢淑君,斎藤しのぶ,飯野理恵,高木夏恵,仲井あや:「多様な人々の理解・支援に向けた看護学教育の再考ー社会や人々の変化への視野を広げるーあらためて,無自覚にある自身の世界観の影響を考える」.看護学教育研究共同利用拠点 千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター 令和 3 年度看護学教育ワークショップ報告書,2021.
9. 野地有子:世界をリードするインバウンド医療展開に向けた看護国際化ガイドライン.平成 27 年度~令和 3 年度 科学研究費助成事業(基盤研究 A)研究成果報告書,2022.
10. 野地有子,飯島佐知子,大友英子,神島滋子,小粥美香,谷井真弓,小寺さやか,小林康司,近藤麻理,坂元真奈美,野崎章子,浜崎美子,別府佳代子,松岡光,水野雅子,溝部昌子,藤田さやか,宮越幸代,本杉樹子,若園尚美,藤田比左子,炭谷大輔,中山健夫:令和 3 年度共同研究 看護職の文化的能力の評価と能力

開発・臨床応用に関する実証研究 コンテンツ報告書 nGlobe セミナー.看護学教育研究共同利用拠点 千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター,1-101,2022.

11. 和住淑子,野地有子,黒田久美子,銭淑君,高木夏恵:千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター,令和3年度看護学教育ワークショップ報告書,2022.

〔単行書〕

12. 野地有子:米国と英国の公衆衛生の発達と公衆衛生看護活動の歴史:公衆衛生看護学概論 1,標準保健師講座.医学書院,2021.
13. 野地有子:(監修)クエスチョンバンク保健師国家試験問題解説 2022.第14版,メディックメディア,2021.
14. 野地有子:(監修)保健師国家試験のためのレビューブック 2022.第22版,メディックメディア,2021.
15. 手島恵,荒木暁子,真田弘美,ゲスト・ティム,マックゴワン・カレン,シン・ギョンリム,バエザ・レヴェコ・マリア・アンジェリカ,アブディ・アブドゥラ・ドゥーミット・ミルナ,ダッフィールド・クリスティーン.分科会1 トリプル・インパクトと政策(特集 Nursing Now フォーラム・イン・ジャパン:看護の力で未来を創る).看護=Journal of the Japanese Nursing Association:日本看護協会機関誌 73 巻 5 号 48-52.
16. 手島恵.人材管理論.日本看護協会出版会(2021).
17. 手島恵.看護職の基本的責務:定義・概念/基本法/倫理 日本看護協会出版会(2021).
18. 手島恵,長谷川美栄子,平原優美,堀内成子.座談会「看護職の倫理綱領」の活用:臨床・地域・教育等さまざまな場における活用の実際について(特集 改訂「看護職の倫理綱領」).看護=Journal of the Japanese Nursing Association:日本看護協会機関誌 73 巻 9 号 62-67.
19. 手島恵.これからの倫理と看護.日本看護協会出版会(2021).
20. 手島恵,臺有桂(2021).書籍『これからの倫理と看護』刊行記念対談 SDGs と看護.看護=Journal of the Japanese Nursing Association:日本看護協会機関誌 73 巻 13 号 3-7.

〔学会発表抄録〕

21. Yahagi, A., & Noji, A. (2021, April 15-16). *Patient empowerment process and nursing practice - From database narratives of those living with the disease.* EAFONS 2021, Manila, Philippines.
22. 野地有子,須永美幸,野本尚子,藤田比左子,炭谷大輔,成田徹郎(2021年6月19~20日).オンラインによる学会参加の経験とその影響要因—COVID-19 流行初期における学術大会の開催から—.第21回日本健康・栄養システム学会学術大会.
23. Haraikawa, K., Yoshinaga, K., & Noji, A. (2021, July 3-5). *Effects of skin problems caused by wearing personal protective equipment on mental health.* The 9th Asia Pacific Enterostomal Therapy Nurse Association Conference (APETNA), Tokyo.
24. Katagiri, T., Chin, S. C., Maruyama, K., Wazumi, Y., & Yamamoto T. (2021, July 22-26). *Developing an evaluation standard for an integrated practicum for fourth-year nursing student.* The 32nd Conference of Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing, Singapore.
25. Kotera, S., Ueno, S., Noji, A., Kondo, M., Iijima, S., Mizobe, A., Fujita, H., Otomo, E., & Hamasaki, Y. (2021, August 29-31). *The difficulties experienced by foreign patients in accessing to the healthcare in Japan.* 3rd Technological Competency as Caring in the Health Sciences.
26. 野地有子,飯島佐知子,溝部昌子,小寺さやか,近藤麻理,野崎章子,小林康司,浜崎美子,大友英子,別府佳代子(2021年8月28-29日).医療安全と看護管理に活かす看護国際化ガイドラインの創出:国際標準と看護職の経験知の集約から.第25回日本看護管理学会学術集会,204.
27. 尾形智美,青井久江,野地有子(2021年8月28-29日).慢性期病院における看護師のインシデントレポートを活用した有害事象防止対策のしくみづくり.第25回日本看護管理学会学術集会.
28. 矢野綾子,増渕美恵子,野地有子,水野雅子,岩井智美(2021年8月28-29日).急性期地域中核病院における「安全で良質な医療の実践」を推進する看護医療安全教育—教育プログラムと教育方法の

- 開発一.第25回日本看護管理学会学術集会.
29. 須藤郁子*,杉田由加里,飯野理恵(2021年8月28-29日).効果的な経口抗がん剤治療の継続に向けたA病院外来における患者支援のしくみづくり.第25回日本看護管理学会学術集会抄録集,216.
*修士課程修了
 30. 杉田由加里,米増直美,田中美延里,彦根倫子,渡部恵子,石田美由紀(2021年9月11-12日).管理期保健師の人材育成の実態と課題ー組織マネジメントに焦点を当ててー.日本地域看護学会第24回学術集会講演集,105.
 31. 飯野理恵,宮崎美砂子,石丸美奈,佐藤紀子,時田礼子,鈴木悟子,杉田由加里,佐藤太一,栗栖千幸,土屋裕子(2021年9月11-12日).予防活動の持続・発展のための地域看護実践ワークブックのOJTへの活用第2報ー多様職場における活用の実際と影響ー.日本地域看護学会第24回学術集会講演集,134.
 32. 滝澤里紗*,杉田由加里,飯野理恵(2021年9月11-12日).生活習慣病予防事業として市町村が実施する若年期対象の健康診査の実態.日本地域看護学会第24回学術集会講演集,140.
*看護学部卒業
 33. Katagiri, T., Yamamoto, T., Wazumi, Y., Saitou, S., Chien, S. C., & Maruyama, K. (2021, September 23-27). *A true nursing practice at hospital in Japan, 1958: From viewpoint of "Art and Science"*. American Association for the History of Nursing 38th Annual Conference, Kentucky, United States of America.
 34. Noji, A., Kondo, M., Mizobe, A., Iijima, S., Kotera, S., Nosaki, A., Otomo, E., Hamasaki, Y., Kamishima, S., & Fujita, H. (2021, October 21-22). *Nursing strategies in a multicultural environment ongoing Japan-Germany online case study*. The 13th INC 2021, Korea.
 35. Noji, A., Fujita, H., Kondo, M., Iijima, S., Kotera, S., Mizobe, A., & nGlobe (2021, November 2-4). *Nightingale challenge on international collaborative education for the development of young nurse global human resources: Initiative of Chiba University and Charité Medical University*. ICN Congress Nursing Around the World.
 36. 野崎章子,野地有子(2021年11月12-13日).保健医療サービス領域における文化の取り扱いに関するscoping review protocol:精神医学領域と看護学領域での文化に関する記述の比較.第28回多文化間精神医学会学術総会.
 37. 飯島佐知子,野地有子(2021年12月4-5日).個別性のある看護の尺度日本語版(J-ICS)の信頼性と妥当性の検討.第41回日本看護科学学会学術集会.
 38. 鮎澤ひとみ*,和住淑子,錢淑君,高木夏恵(2021年12月4-5日).患者の生きていく力を軸に看護の情報処理がなされる看護記録システムの構築.第41回日本看護科学学会学術集会.(オンライン)
*修士課程修了
 39. 野地有子,溝部昌子,飯島佐知子,野崎章子,近藤麻理,小寺さやか,大友英子,浜崎美子(2021年12月11日).看護管理に活かす看護国際化ガイドラインの開発と活用への課題.第6回国際臨床医学学会学術集会,国立研究開発法人国立国際医療研究センター.
 40. 井出成美,臼井いづみ,馬場由美子,孫佳茹,飯野理恵,関根祐子,中口俊哉,朝比奈真由美,酒井郁子(2021).同時双方向メディアツールによる協働学習の学習成果の対面授業との比較.第14回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会プログラム・抄録集,33.
 41. 孫佳茹,酒井郁子,井出成美,臼井いづみ,馬場由美子,飯野理恵,朝比奈真由美,関根祐子,中口俊哉(2021).同時双方向型授業でのグループワークにおけるオンライン上のコミュニケーションの課題.第14回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会プログラム・抄録集,38.
 42. 前田由希子*,飯野理恵,杉田由加里(2022).自治体で行うがん検診において保健師と事務職員が役割を発揮する仕組みづくり.第10回日本公衆衛生看護学会学術集会プログラム・講演集,154.
*修士課程修了
 43. Sugita, Y., Ishikawa, M., Ide, N. (2022). *Recognition and behavior related to health promotion of community-dwelling elderly people: A literature review*. 6th International Conference of Global Network of Public Health Nursing, 316.
 44. 片岡美樹,大倉美紀,田村雅子,手島恵(2021).特定機能病院における地域連携の再構築.第25回日本

看護管理学会学術集会抄録集,211.

45. 渡邊美香,川上潤子,手島恵(2021).急性期医療施設における看護師と看護助手の協働に向けた職場環境の再構築.第25回日本看護管理学会学術集会抄録集,217.

〔シンポジウム・招致講演〕

46. 和住淑子:千葉大学看護学部創設の経緯より,我が国の看護学教育の将来像を考える.交流セッション 看護学教育における自校史教育の意義ー建学の精神を未来へつなぐー.第35回日本看護歴史学会学術集会講演集,30-31, 2021.(オンライン)
47. 山本利江, 錢淑君 (2021, June 17). コロナ禍の中で看護実習を代替する学内演習の教育戦略.台湾看護教育学学会, [招待講演].(オンライン)

〔国際セミナー開催〕

48. 野地有子,近藤麻理,小寺さやか,飯島佐知子,溝部昌子,野崎章子,藤田比左子,炭谷大輔(2021年6月19日).nGlobe 交流スタディ 2021「多文化環境と看護ケア～ドイツとの交流セミナー～」.(オンライン)
49. 野地有子,近藤麻理,小寺さやか,飯島佐知子,溝部昌子,野崎章子,藤田比左子,炭谷大輔(2021年7月17日).nGlobe 交流スタディ 2021「多文化環境と看護ケア～ドイツとの交流セミナー～」.(オンライン)
50. 野地有子,近藤麻理,小寺さやか,飯島佐知子,溝部昌子,野崎章子,藤田比左子,炭谷大輔(2021年9月18日).nGlobe 交流スタディ 2021「多文化環境と看護ケア～ドイツとの交流セミナー～」.(オンライン)

〔国内セミナー〕

51. 野地有子,近藤麻理,小寺さやか,飯島佐知子,溝部昌子,野崎章子,藤田比左子,炭谷大輔(2021年1月8日).看護職の多文化対応能力研修.日本の医療における異文化理解,第2回.
52. 野地有子,野崎章子,藤田比左子,近藤麻理,小寺さやか,飯島佐知子,溝部昌子,炭谷大輔(2021年11月20日).異文化の環境で医療を受ける人の体験と多様な文化に配慮した看護ケアーあなたならどうしますかー.千葉大学看護学部公開講座 × nGlobe 科研.(オンライン)
53. 野地有子,近藤麻理,小寺さやか,飯島佐知子,溝部昌子,野崎章子,藤田比左子,炭谷大輔(2022年2月12日).看護職の多文化対応能力研修.DX 推進社会における臨床での個人情報取り扱いに対する考え方.

〔その他〕

54. 野地有子:日本国際看護学会__東日本研修会.外国につながる人たちへの看護ケアードイツ多文化対応能力研修 IPIKA との交流を通して.2021年7月4日.(オンライン)
55. 野地有子:令和3年度臨床栄養師認定講座「地域栄養活動」.2021年10月2日.
56. 野地有子,正木治恵,諏訪さゆり,森恵美:2021年度 千葉大学大学院看護学研究院__大型・国際研究推進ナースサイエンティスト・クロストーク.2021年11月22日,25日,26日.
57. 和住淑子:「“Society5.0 看護”創出拠点」プロジェクトについて.看護展望,47(1),21-26,2022.
58. 野地有子:看護国際化ガイドラインしおり.2022年.
59. 杉田由加里:令和3年度千葉県特定健診・特定保健指導リーダー専門職研修.特定保健指導事業の運営ー保健指導の質向上に向けた保健事業を目指してー.
60. 杉田由加里:令和3年度千葉県特定健診・特定保健指導運営責任者(事務担当等)研修.特定健診・特定保健指導事業の運営ーPDCA サイクルを回した適切な保健事業運営を目指してー.
61. 杉田由加里:令和3年度栃木県第1回保健事業専門研修(データヘルス計画研修会).データヘルス計画の中間評価の意義と方策ー中間評価を効果的に活用し成果の見える個別保健事業にするー.

看護学研究院附属専門職連携教育研究センター

〔原著〕

1. Yamamoto, T., Yamamoto, M., Abe, H., & Sakai, I. (2021). Exploring barriers and benefits of implementing interprofessional education at higher education institutions in Japan. *Journal of Allied Health*, 50(2), 97-103.

〔論文等(査読あり)〕

2. Hasegawa, T., Seo, T., Kubota, Y., Sudo, T., Yokota, K., Miyazaki, N., Muranaka, A., Hirano, S., Yamauchi, A., Nagashima, K., Iyo, M., & Sakai, I. (2022). Reliability and validity of the Japanese version of the 4A's Test for delirium screening in the elderly patient. *Asian J Psychiatr*, 67. <https://doi.org/10.1016/j.ajp.2021.102918>
3. 伊藤裕佳,山本武志,井出成美,酒井郁子(2022).看護師等学校養成所における専門職連携教育の実装状況と課題,保健医療福祉連携,15(1),2-10,2022.

〔論文等(査読なし)〕

4. 酒井郁子(2021).長期ケア施設の看護管理入門(第6回)(最終回)長期ケア施設における危機管理.臨床老年看護,日総研出版,28(3),96-102.
5. 酒井郁子(2021).特集 リハビリテーション医療における新人教育 新人教育・研修の実際—看護職員.総合リハビリテーション,医学書院,49(6),555-562.
6. 石丸美奈,増島麻里子,辻村真由子,岩田裕子,田代理沙,森恵美,宮崎美砂子,酒井郁子(2021).【エビデンスを臨床実践に活かす挑戦—JBIを契機とする臨床実践と研究者の協働】EBPに向けたシステマティックレビューの重要性 3 大学の取り組みから考える 千葉大学の取り組み.看護研究,54(3), 207-212.
7. 酒井郁子(2021).看護師のギモンに答える!エビデンスの使い方・広め方 第4回慣習を見直しEBPにつなげるリーダーシップ.週刊医学界新聞,3430,5,2021.
8. 酒井郁子(2021).看護師のギモンに答える!エビデンスの使い方・広め方 第5回コロナ禍のICUで実践する多職種とのEBP.週刊医学界新聞,3434,5,2021.
9. 井出成美,臼井いづみ,孫佳茹,馬場由美子,飯野理恵,朝比奈真由美,関根祐子,中口俊哉,酒井郁子(2021).COVID-19感染拡大下の大規模オンラインIPEの実際.保健医療福祉,14(2),126-132.
10. 井出成美,酒井郁子(2022).「専門職連携教育」を発展させるためのポイント.看護教育に携わるみなさまへの情報誌 ラポール, No.10.
11. 酒井郁子(2022).IPEをはじめましょう、そして続けましょう 第1回「イントロダクション」.看護教育のための情報サイト『NurSHARE』特集,(in press),南江堂, <https://www.nurshare.jp/>
12. 孫佳茹(2022).IPEをはじめましょう、そして続けましょう 第2回「IPEで何を教えるのか—IPCを理解する」.看護教育のための情報サイト『NurSHARE』特集,(in press),南江堂, <https://www.nurshare.jp/>
13. 井出成美(2022).IPEをはじめましょう、そして続けましょう 第3回「IPEのカリキュラム設計」.看護教育のための情報サイト『NurSHARE』特集,(in press),南江堂, <https://www.nurshare.jp/>
14. 井出成美,臼井いづみ(2022).IPEをはじめましょう、そして続けましょう 第4回「IPEの授業デザイン」.看護教育のための情報サイト『NurSHARE』特集,(in press),南江堂, <https://www.nurshare.jp/>
15. 馬場由美子,酒井郁子(2022).IPEをはじめましょう、そして続けましょう 第5回「IPEの実例報告」.看護教育のための情報サイト『NurSHARE』特集,(in press),南江堂, <https://www.nurshare.jp/>
16. 酒井郁子,佐伯昌俊,西宮岳(2022):特定行為研修修了者活用のためのビジョン構築と看護管理者の役割—急性期病院における活動モデルの検討から,看護管理.32(3):184-190.
17. 酒井郁子,佐伯昌俊,西宮岳(2022):特定行為研修修了者の活用と支援に関するQ&A—看護管理者からの疑問や困り事に答えて,看護管理.32(3):191-195.
18. 酒井郁子,伊藤彰一,箭内博子,大島拓,新井加代子,竹内純子(2022):【座談会】特定行為研修修了者の

活躍を支える構想・育成・配置・活用と看護管理者の役割——千葉大学医学部附属病院における組織的支援,看護管理.32(3):218-226.

〔報告書〕

19. 酒井郁子,井出成美,臼井いづみ,孫佳茹,馬場由美子,富永嘉子,長谷川容佳,佐野朋子:千葉大学大学院看護学研究院附属専門職連携教育研究センター令和3年度事業報告書,2022.

〔単行書〕

20. 井出成美:地域住民の相互の助け合い強化によるまちづくり.宮崎美砂子,北山三津子,春山早苗,田村須賀子(編),最新公衆衛生看護学,第3版2022年版,日本看護協会出版会,305-309,2022.
21. 井出成美:第Ⅲ章成人期にある人の健康 4 保健・医療・福祉政策と今日の健康課題 B 地域包括ケア.林直子,鈴木久美,酒井郁子,梅田恵(編),成人看護学概論 社会に生き世代をつなぐ成人の健康を考える.改訂第4版,南江堂,103-105,2022.
22. 井出成美:第Ⅲ章成人期にある人の健康 4 保健・医療・福祉政策と今日の健康課題 D 認知症対策.林直子,鈴木久美,酒井郁子,梅田恵(編),成人看護学概論 社会に生き世代をつなぐ成人の健康を考える.改訂第4版,南江堂,109-112,2022.
23. 酒井郁子:多職種連携と専門職連携実践(IPW).日本プライマリ・ケア連合学会(編),日本プライマリ・ケア連合学会 基本研修ハンドブック.第3版,南山堂,213-220,2021.

〔学会発表抄録〕

24. 酒井郁子(2021).ウィズ・アフターコロナ時代の高齢社会の展望 with/after コロナ社会の高齢者施設での新たなケア提供と協働.日本老年医学会雑誌,58(Supple),(一社)日本老年医学会,31.
25. 酒井郁子,深堀浩樹,山川みやえ,金盛琢也,正木治恵,塩田美佐代,大野直子,呑香美佳子,滝口美重,石川容子,森山祐美(2021).急性期病院における認知症ケア加算によるケア改善プロセスの検討.日本老年看護学会第26回学術集会抄録集,98.(オンライン)
26. 金盛琢也,山川みやえ,深堀浩樹,石川容子,森山祐美,正木治恵,平尾美佳,酒井郁子(2021).認知症疾患医療センターにおける地域包括ケア推進に向けた支援の実施状況.日本老年看護学会第26回学術集会抄録集,106.(オンライン)
27. 檜木野桃子*,酒井郁子(2021).高齢者専門病院における根拠に基づいたケア改善システムの構築.日本老年看護学会第26回学術集会抄録集,150.(オンライン)
*2020年3月修士課程修了
28. 岩本由美子*,酒井郁子(2021).有床診療所における療養支援のためのシステム構築.日本老年看護学会第26回学術集会抄録集,151.
*2020年3月修士課程修了
29. Uehara, T., Sakai, I., Usui, I., Ishii, I., & Asahina, M. (2021). 臨床的 IPE は卒業時における医学生 IP 能力の自己評価を向上させるのか(Does the clinical IPE enhance students' self-assessment of their IP competency at graduation?).医学教育, 52(Supple), 86.(オンライン)
30. 馬場由美子,臼井いづみ,井出成美,孫佳茹,朝比奈真由美,石川雅之,酒井郁子(2021).大学病院における臨床参加型 IPE に対する学生評価から得られた課題.第14回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会プログラム・抄録集,31.(オンライン)
31. 臼井いづみ,井出成美,馬場由美子,孫佳茹,近藤昭彦,岩崎寛,濱侃,酒井郁子(2021).オンライン同時双方向で実施した災害時専門職連携シミュレーション教育の実際と課題.第14回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会プログラム・抄録集,32.(オンライン)
32. 井出成美,臼井いづみ,馬場由美子,孫佳茹,飯野理恵,関根祐子,中口俊哉,朝比奈真由美,酒井郁子(2021).同時双方向メディアツールによる協働学習の学習成果の対面授業との比較.第14回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会プログラム・抄録集,33.(オンライン)
33. 孫佳茹,酒井郁子,井出成美,臼井いづみ,馬場由美子,飯野理恵,朝比奈真由美,関根祐子,中口俊哉(2021).同時双方向型授業でのグループワークにおけるオンライン上のコミュニケーションの課題.第14回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会プログラム・抄録集,38.(オンライン)

〔シンポジウム・招聘講演〕

34. 飯島勝矢,澤岡詩野,錦見昭彦,戸原玄,相田里香,酒井郁子,橋本衛(2021).ウィズ・アフターコロナ時代の高齢社会の展望.日本老年看護学会,東京.(オンライン)
35. 酒井郁子(2021).高齢者医療の品質管理のための指標に基づくモニタリング.The 5th China Nursing Quality Conference,中国(山東省青島).(オンライン)
36. 酒井郁子,山本武志,山本則子,北川裕利,中井智子,山下祐貴,鈴木靖子,西宮岳,小松亮,習田由美子(2021).特定行為研修修了者を組織的に導入し、効果的な診療・ケアを可能にするためのビジョンの創造と看護官理実践の共有.第25回日本看護管理学会学術集会抄録集,194.(オンライン)
37. 小野田舞,山田雅子,宇都宮明美,餘目千史,酒井郁子,田母神裕美,長江弘子,吉川久美子,渡邊千登世(2021).簡保連における令和4年度診療報酬改定に向けた取り組みの報告と令和6年度改定に向けた検討.第25回日本看護管理学会学術集会抄録集,184.
38. 酒井郁子(2021).講演 千葉県回復期リハビリテーション連携の会 第10回全県大会看護師部会.(オンデマンド)
39. 酒井郁子,山本武志,山本則子,北川裕利,中井智子,山下祐貴,藤谷茂樹,鈴木靖子,習田由美子,佐伯昌俊,西宮岳,小松亮,本田和也(2021).地域医療における特定行為研修修了者の活用を考える.日本ルーラルナーシング学会第16回学術集会抄録集,24.(オンライン)
40. 西宮岳,山本則子,山本武志,北川裕利,鈴木靖子,中井智子,酒井郁子,山下祐貴,佐伯昌俊,小松亮(2021).組織的に特定行為研修修了者の活躍を支えるための活用モデルと指針.第41回日本看護科学学会学術集会抄録集,50.(オンライン)
41. 深堀浩樹,五十嵐歩,大江真琴,大久保暢子,小池智子,酒井郁子,新福洋子,武村雪絵,廣岡佳代,福井小紀子(2021).若手研究者を巻き込んだ大型研究費の獲得を目指して 研究・学術推進委員会の活動報告と今後の課題.第41回日本看護科学学会学術集会抄録集,51.(オンライン)
42. 酒井郁子(2022).特定行為研修の実際:研究結果からみる日本の動向 特定行為は治療とケアをつなぐ看護である.千葉大学病院特定行為研修修了者の育成配置活用に関する WEB シンポジウム.(オンライン)
43. 臼井いづみ(2022).シミュレーション教育とは その工夫と留意点.全国助産師教育協議会研修会.(オンライン)
44. 酒井郁子(2022).救急領域のタスクシフト指針.第72回日本救急医学会関東地方会学術集会抄録集,4.(オンライン)

〔その他〕

45. 酒井郁子:2021 カリキュラム編成セミナー カリキュラム編成準備セミナー第3回 「専門職連携教育の理解と導入」の振り返りとご質問から 専門職連携教育(IPE)の実践 千葉大学亥鼻 IPE での内容を中心に ①亥鼻 IPE の学習目標と学習内容および評価、②亥鼻 IPE 実施体制、③学生の声・反応、協力施設との連携方法、④IPE のマネジメント、⑤コスト面の工夫,医学書院.受付 5/17~全5回 2022年3月31日 23:59 まで配信.(オンライン)
46. 酒井郁子:東京慈恵会医科大学 FD・SD 研修会.回復期リハビリテーション病棟における EBP(Evidence-Based Practice)実装研究の実際.(オンライン)
47. Usui, I.: 2021 TMUN Online Exchange Program. Chiba University School of Nursing Curriculum and Clinical Practicum.
48. Ide, N.: 2021 TMUN Online Exchange Program. The Community-based Integrated Care Systems for the older person in Japan.
49. Sakai, I.: 2021 TMUN Online Exchange Program. The Education System of the Nursing Profession in Japan and an introduction of the Chiba University School of Nursing and Graduate School of Nursing.
50. 孫佳茹:中国の教育. 淑徳大学子ども学,2021.6.25.(オンライン)
51. Sakai, I., Ide, N., Usui, I., Sun J., Baba, Y., & Casenov, D.:群馬大学多職種連携教育研究研修センター-The 8th Gunma University IPE Training Course. Development, Operation, and Future Expectation of Inohana IPE.

52. 井出成美:静岡県看護協会教員講習会.専門職連携教育とは.
53. 酒井郁子:千葉県看護協会 第 20 回認定看護管理者教育課程セカンドレベル.総合演習Ⅱ.0913-2021.
54. 酒井郁子:千葉中央メディカルセンター 第 14 回 M&M.織毛ケアチームの先進的知識.
55. 酒井郁子:青森県八戸北高等学校 大学の先生による出張講義.専門分野に関する模擬講義.(オンライン)
56. 酒井郁子:東京都看護協会 看護師職能委員会Ⅱ企画研修 在宅・高齢者ケア施設の看護管理者研修会・交流会.看護管理者のサービスの質管理.
57. 酒井郁子:東京都看護協会 認定看護管理者教育課程ファーストレベル第 1 回、第 2 回、質管理Ⅰ.(オンライン)
58. 井出成美:千葉県主催委託事業 認知症にかかわる専門職の多職種協働研修.多職種カンファレンスカンファレンスでの基本的動作.
59. 臼井いづみ:千葉県主催委託事業 認知症にかかわる専門職の多職種協働研修.仕事におけるコミュニケーションー効果的な情報伝達スキルー.
60. 馬場由美子:千葉県主催委託事業 認知症にかかわる専門職の多職種協働研修.アイスブレイクとは私の仕事紹介.
61. 酒井郁子:千葉県主催委託事業 認知症にかかわる専門職の多職種協働研修.多職種連携に必要な考え方と基礎的知識.
62. 井出成美:千葉大学医学部附属病院特定行為研修(チーム医療演習).カンファレンスの基本的動作.
63. 臼井いづみ:千葉大学医学部附属病院特定行為研修(チーム医療演習).情報伝達重視型コミュニケーション ISBAR を使って.
64. 酒井郁子:千葉大学医学部附属病院特定行為研修(チーム医療演習).2 職種間の協働意思決定.
65. 酒井郁子:神奈川県看護協会 令和 3 年度介護保険施設等看護研修Ⅲ.介護保険施設の看護管理者の役割と責務.(オンライン)
66. 酒井郁子:東京都看護協会 認定看護管理者教育課程ファーストレベル第 3 回、質管理Ⅰ.(オンライン)
67. 井出成美:地域密着介護・医療 DX 人材育成プログラム.仕事におけるコミュニケーション効果的な情報伝達スキル.
68. 臼井いづみ:地域密着介護・医療 DX 人材育成プログラム.チームとチーム活動.
69. 孫佳茹:地域密着介護・医療 DX 人材育成プログラム.カンファレンスとは.
70. 馬場由美子:地域密着介護・医療 DX 人材育成プログラム.アイスブレイクとは.
71. 酒井郁子:地域密着介護・医療 DX 人材育成プログラム.専門職連携に必要な考え方と基礎的知識.
72. 酒井郁子,井出成美,臼井いづみ,孫佳茹,馬場由美子:千葉市中央区葛城地区避難所運営委員会研修.避難所運営ゲーム HUG の実際(仮題).
73. 酒井郁子:IPERC 主催 IPW ベーシック研修&マネジメント研修理論編.専門職連携の基礎的知識.
74. 酒井郁子:IPERC 主催 IPW ベーシック研修&マネジメント研修理論編.チームについて.
75. 井出成美:IPERC 主催 IPW ベーシック研修&マネジメント研修理論編.対立と対立の解決を目指したアプローチ.
76. 酒井郁子:IPERC 主催 IPE カリキュラムマネジメント&授業開発研修.専門職連携の基礎知識.
77. 酒井郁子:IPERC 主催 IPE カリキュラムマネジメント&授業開発研修.IPE カリキュラムマネジメント基礎編.
78. 酒井郁子:IPERC 主催 IPE カリキュラムマネジメント&授業開発研修.IPE と組織改革.
79. 井出成美:IPERC 主催 IPE カリキュラムマネジメント&授業開発研修.IPE 実装における教員の経験.
80. 井出成美:IPERC 主催 IPE カリキュラムマネジメント&授業開発研修.インストラクショナルデザインと授業設計.
81. 酒井郁子:IPERC 主催 IPW マネジメント研修実践編.プロジェクトの基本的知識と進捗管理.
82. 酒井郁子,井出成美,臼井いづみ,孫佳茹,馬場由美子:IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編①.職種間の理解.

83. 酒井郁子,井出成美,臼井いづみ,孫佳茹,馬場由美子:IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編②.チーム内の効果的なコミュニケーション.
84. 酒井郁子,井出成美,臼井いづみ,孫佳茹,馬場由美子:IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編③.チームワークの促進スキル.
85. 酒井郁子,井出成美,臼井いづみ,孫佳茹,馬場由美子:IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編④.対立の解決.
86. 酒井郁子,井出成美,臼井いづみ,孫佳茹,馬場由美子:IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編⑤.他職種カンファレンス.

2. 科研費・競争的資金取得一覧

※千葉大学看護学研究科に所属する教員等（*は大学院生）が研究代表者となっているものに限りません。
研究種目・代表者氏名による五十音順です。

1) 文科科研・厚労科研

【新規】

研究代表者	研究助成金の名称または科研費の研究種目	研究題目
正木 治恵	文科科研 基盤研究(A)	リアルタイム生活情報の AI 解析による革新的高齢者ケア改善システムの確立
森 恵美	文科科研 基盤研究(A)	妊娠期から産後 1 か月にわたる初産婦夫婦へのオンライン子育て支援方法の開発と検証
池崎 澄江	文科科研 基盤研究(B)	特別養護老人ホームにおける看取り介護の定着を目指した組織学習プログラム
石丸 美奈	文科科研 基盤研究(B)	認知症を有する人中心のケアリング・コミュニティ協働デザインのツール作成と検証
岩瀬 靖子	文科科研 基盤研究(C)	災害時の公衆衛生看護実践における倫理的意思決定能力育成の教育手法モデルの検証
楠 潤子	文科科研 基盤研究(C)	がん患者への効果的な補完・代替療法利用支援に向けた看護継続教育プログラムの開発
小宮山政敏	文科科研 基盤研究(C)	前腕における皮神経の位置を体表から推定する方法の開発－安全な点滴注射のために
佐々木ちひろ	文科科研 基盤研究(C)	急性期病院のプライマリナースによる退院支援に内在する臨床知識
遠山 房絵	文科科研 基盤研究(C)	第2子誕生を迎える第1子のレディネスを高める夫婦協働型子育て支援プログラムの開発
中村 絵里*	文科科研 基盤研究(C)	医療系学部・大学院の全員留学による学びの包括的評価に関する実証研究
鈴木 悟子	文科科研 若手研究	30 歳代男性の生活習慣予防のための主体的な健康学習を促す学習教材の開発
諏訪さゆり	文科科研 挑戦的研究（開拓）	近未来の介護ロボットの開発と社会実装のための Ethical Platform 構築
増島麻里子	文科科研 挑戦的研究（萌芽）	死生観涵養に向けてよりよく生きることを考えるシティズンサイエンスの創発

【継続】 期間延長による継続を含みます。

研究代表者	研究助成金の名称または科研費の研究種目	研究題目
野地 有子	文科科研 基盤研究(A)	世界をリードするインバウンド医療展開に向けた看護国際化ガイドライン
石橋みゆき	文科科研 基盤研究(B)	Transitional ケアコンピテンシーを基盤とした地域連携教育プログラム開発
斉藤しのぶ	文科科研 基盤研究(B)	看護実践のリアリティを追求するシミュレーション教育プログラムの開発
酒井 郁子	文科科研 基盤研究(B)	回復期リハビリテーション病棟における EBP 実装プログラムの検証
諏訪さゆり	文科科研 基盤研究(B)	認知症の人とのコミュニケーション・チャネルの開発による研究倫理の創成
増島麻里子	文科科研 基盤研究(B)	慢性疾患高齢者の終生期の充実に向けた市民・医療をつなぐ対話支援プログラムの検証
宮崎美砂子	文科科研 基盤研究(B)	予防活動の持続・発展のための地域看護実践の OJT 実用化研究
飯野 理恵	文科科研 基盤研究(C)	住民との共働による生活習慣病予防活動のための教材開発と普及に関する研究
井出 成美	文科科研 基盤研究(C)	学生の専門職間連携能力の発展を促進する IPE プログラムの実装に有用な学習理論開発
岩田 裕子	文科科研 基盤研究(C)	妊娠期から産後6か月までのアクティグラフを用いた父親の睡眠と産後うつ縦断的研究
植田満美子	文科科研 基盤研究(C)	潜在看護師の離職後の経験の解明ー個別の状況に応じた復職支援提供に向けてー
臼井いづみ	文科科研 基盤研究(C)	災害対策本部で必要なリーダーシップを育成するシミュレーション教育プログラムの開発
岡田 忍	文科科研 基盤研究(C)	介護支援専門員が活用可能な口腔アセスメントアルゴリズムの作成と評価
カズノブ ダビッド	文科科研 基盤研究(C)	Assessment of a new nursing English curriculum focusing on intercultural competence
木村佳代子	文科科研 基盤研究(C)	後期早産児とその母親の母子相互作用を促進する看護介入の開発
佐藤 奈保	文科科研 基盤研究(C)	重症心身障がい児を養育する家族への地域ケアロードマップとケアモデルの開発
銭 淑君	文科科研 基盤研究(C)	健康生成論を応用した青壮年期女性の生活クローンモデル及び健康支援アプリ開発
田上美千佳	文科科研 基盤研究(C)	精神疾患患者の家族へのエンパワメントと希望につながる支援の構築
手島 恵	文科科研 基盤研究(C)	看護業務基準の基礎教育における活用

研究代表者	研究助成金の名称または科研費の研究種目	研究題目
中村 伸枝	文科科研 基盤研究(C)	地域包括ケア時代に専門看護師に求められる役割と評価指標
中山登志子	文科科研 基盤研究(C)	「研究指導能力自己評価尺度－看護系大学院修士論文指導用－」の開発と有効性の検証
野崎 章子	文科科研 基盤研究(C)	特定機能病院精神科病棟・外来・在宅支援の主軸となる高難度看護実践教育
雨宮 歩	文科科研 若手研究	ウェルナー症候群患者の下肢実態調査と潰瘍予防フットウェアの開発
坂井 文乃	文科科研 若手研究	育児を対象としたヘルスリテラシー概念の解明とその発展を促す支援指針の開発
仲井 あや	文科科研 若手研究	早産児の呼吸の安定と自己調整機能の成熟を支える看護援助モデルの構築
中水流 彩	文科科研 若手研究	先天性心疾患手術を受ける幼児のレディネス発達を促進する看護支援プログラムの開発
山崎由利亜	文科科研 若手研究	暮らしの場における dementia-friendly な環境評価ツール日本版の作成
湯本 晶代	文科科研 若手研究	レビー小体型認知症療養者の日常生活上の困難を改善する訪問看護ケアモデルの開発
雨宮 歩	文科科研 若手研究(B)	歩容評価システムの開発とせん断応力圧力比を考慮した胼胝予防介入効果の検証
鈴木 悟子	文科科研 若手研究(B)	30 歳代男性の生活習慣病予防のための対話型健康学習支援ツールの開発
石橋みゆき	文科科研 挑戦的研究 (萌芽)	災害シチズンサイエンス研究手法の開発
宮崎美砂子	文科科研 挑戦的研究 (萌芽)	原発被災地域住民の安心・生きがい・尊厳を支える超学際的地域包括ケアシステムの構築
佐野 元洋	文科科研 研究活動スタート支援	Web ベースの心不全管理ツールを使用した生活支援に関する研究
杉田由加里	文科科研 研究活動スタート支援	保健師の組織マネジメント役割行動指針を活用したピア・ラーニング・プログラムの作成
酒井 郁子	厚生労働行政推進調査事業費	特定行為研修修了者の複数配置に関する実態把握及び有効活用に影響する要因の調査
宮崎美砂子	厚生労働科学研究費補助金	災害時保健活動の体制整備に関わる保健師の連携強化に向けた研究

2) その他研究助成金

研究代表者	研究助成金の名称または科研費の研究種目	研究題目（助成期間）
雨宮 歩	共同研究費	医療用カテーテルの自己抜去予防システムの開発と効果検証 (2021年4月1日から7か月)
雨宮 歩	SGH 財団助成	外来科学療法を受ける消化器がん患者の身体活動に対する認識とその実態 (2021年12月1日から12か月)
石丸 美奈	公益財団法人科学技術融合振興財団調査研究助成	認知症との地域共生を実現するケアリング・コミュニティを協働デザインするためのツール作成と検証：地域活動プランニング・ゲーム (2021年2月～2023年3月)
木村佳代子	科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)」	早期正期産児とその母親の母子相互作用およびその影響要因 (2021年12月1日から5か月)
遠山 房絵	2021年度研究費獲得促進プログラム	新型コロナ禍におけるリモートでの夫および家族立ち会い出産の可能性の検討 (2021年4月1日から12か月)
和住 淑子	国公立大学病院医療技術関係職員研修	看護職員研修 (2021年4月から1年)
和住 淑子	特別運営経費(文部科学省)	Society5.0 看護 (2021年4月から1年)
関 まりか*	JST次世代研究者挑戦的研究プログラム JPMJSP2109	妊娠末期の日常生活における身体活動を促す看護介入プログラムの開発 (2021年10月から6か月)
長山莉久里*	2021年度千葉看護学会研究支援金支給事業	第一子を育てる母親のエンパワメントに影響した地域子育て支援活動参加の経験 (2021年9月から3年)
姚 利*	2022年度文化看護学会研究助成事業	ビデオカンファレンスを活用した在留中国人高齢者の老いへの準備教育プログラム原案の作成および妥当性の検討 (2022年1月から2024年12月)

3. 共同研究

1) 国際共同研究

【地域創成看護学講座】

(1) 研究プロジェクト名：高齢者の在宅見守りロボットの開発研究と社会実装における倫理的課題

① 本学における研究代表者

諏訪さゆり（千葉大学大学院看護学研究科）

② 海外におけるパートナー

フィンランド／セイナヨキ応用科学大学／Helli Kitinoja、Jaakko Hallila、Marika Toivonen
フィンランド／パルガス市／Camilla Bergman-Kärpijoki
アイルランド／アイルランド国立大学ダブリン校／小舘尚文、Sarah Donnelly

③ 開始年度 2016 年度（アイルランド）、2017 年度（フィンランド）

④ プロジェクトの概要

本研究は、認知症対策に熱心な日本、アイルランド、フィンランドの要介護高齢者、家族介護者、在宅ケア専門職を対象とした質問紙調査を実施し、在宅高齢者の見守りのためのロボットやセンサーに関する倫理的課題をどのように認識しているかを明らかにすることを目的としている。以下に示す学際的研究チームで取り組んだ。

辻村真由子、石丸美奈、兪文偉、高橋絵里香、井出博生、島村敦子

⑤ 資金・助成等

公益財団法人ファイザーヘルスリサーチ振興財団第 26 回（2017 年度）国際共同研究助成

⑥ 主な成果

日本、アイルランド、フィンランドにて収集したデータの分析を行い、国際ジャーナルに論文が掲載された。

1) Kodate N., Donnelly S., Suwa S., Tsujimura M., Kitinoja H., Hallila J., Toivonen M., Ide H., Yu W. (2021). Home-care robots - attitudes and perceptions among older people, carers and care professionals in Ireland: A questionnaire study. *Health & Social Care in the Community*.

(2) 研究プロジェクト名：介護ロボットの社会実装モデルに関する国際共同研究～人・ロボット共創型医療・介護包括システムの構築に向けて～（HARP:RoCS）

① 本学における研究代表者

諏訪さゆり（千葉大学大学院看護学研究科）

② 海外におけるパートナー

アイルランド／アイルランド国立大学ダブリン校／小舘尚文、Sarah Donnelly、Hasheem Mannan

アイルランド／アイルランド王立内科医協会、学務長／Diarmuid O'Shea

フランス／フランス国立保健医学研究所／Boris Hauray

フランス／フランス国立科学研究センター／Sébastien Dalgalarondo

フランス／フランス国立社会科学高等研究院パリ日仏財団、所長／Sébastien Lechevalier

香港／香港中文大学／陳智豪、張美珍

③ 開始年度：2019 年度

④ プロジェクトの概要

介護ロボットと人間の共創にむけて、日本発の社会実装モデルの実現・輸出を目指す第一歩として、日本・アイルランド（愛）を核とする国際研究チームを作り、各国の新聞記事の分析、政策実務家他へのヒヤリング調査、そして実証実験を行っている。以下に示す学際的研究チームで取り組んでいる。

辻村真由子、湯本晶代、兪文偉、尾林和子、増山茂、坂田伸裕、田島誠一、鈴木豊太郎

⑤資金・助成等

公益財団法人トヨタ財団 2018 年度研究助成プログラム特定課題「先端技術と共創する人間社会」

【看護政策・管理学講座】

(1) 研究プロジェクト名：「ドイツと日本における看護職の文化対応能力」

①本学における研究代表者：看護学研究科／教授／野地有子

②海外におけるパートナー：ドイツ／シャリテ医科大学病院／Judith Heepe 看護部長

③開始年度：2018 年度

④プロジェクトの概要：ドイツと日本における看護職の文化対応能力に関する国際比較研究。

ドイツは政策として移民を受け入れ、シャリテ医科大学病院では外国籍看護師を含めた多文化・多職種トレーニングを開発実施したところである。臨床課題について相互訪問およびインターネットによる事例検討を展開している。

⑤資金・助成等：文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（A））

⑥主な成果：ドイツと日本における看護職の文化対応能力に関する事例検討からコンテンツの創出を進めている。また、看護国際化ガイドラインの国際標準の検討を実施した。

(2) 研究プロジェクト名：「シャリテ IPIKA-CHIBA プロジェクト：シャリテ医科大学と千葉大学の協働による国際化に能力を発揮できる若手リーダーの育成」

①本学における研究代表者：看護学研究科／教授／野地有子

②海外におけるパートナー

ドイツ／シャリテ医科大学病院／Judith Heepe 看護部長

ドイツ／シャリテ医科大学病院／Ute Siebert 博士

ドイツ／シャリテ医科大学病院／Volkan Aykac 博士

③開始年度：2019 年度

④プロジェクトの概要：シャリテ医科大学と千葉大学の協働による国際化に能力を発揮できる若手リーダーの育成のために、大学院博士後期課程院生、修士課程院生、若手教員に渡航費援助およびオリジナルの研修プログラムを創出し継続的に実施している。COVID-19 パンデミック以降は、オンライン活用により交流を展開している。

⑤資金・助成等：小高根美那子看護教育研究奨学金

⑥主な成果：大学院生においては、各自の研究テーマの国際的位置づけおよび共同研究者としてのカウンターパート候補を得ている。若手リーダー育成の視点から、オンラインによる Webinar 開催スキルのトレーニングを行い、自立して国際活動が展開できる基礎力を身につけている。2021 年度 ICN 大会において、ナイチンゲールチャレンジのプロジェクトとして成果報告を実施した。

(3) 研究プロジェクト名：「E.A.G.L.E.プログラム JAPAN：博士後期課程の学修支援」

—Excellence Accelerator for Grounded Learning Environment—

①本学における研究代表者：看護学研究科／教授／野地有子

②海外におけるパートナー：マレーシア／University Putra Malaysia／Professor Dr. Ibrahim, Dr. Nomura

③開始年度：2021 年度

④プロジェクトの概要：Professor Dr. Ibrahim が開発し、Dr. Nomura が日本での展開を勧めている、EACLE プログラム JAPAN：博士後期課程の学修支援を、本研究科の国際プログラムに導入して、その実施可能性と効果評価を行っている。

- ⑤資金・助成等：小高根美那子看護教育研究奨学金
- ⑥主な成果：博士後期課程の留学生が、第1ステップを終了し、第2ステップに進んでいる。日本への導入および、実施可能性と効果評価を行い、教員のトレーニングの検討段階まで進めている。

2) 民間共同研究

【高度実践看護学講座】

- (1) コミュニケーションロボットを用いた慢性心不全患者サポートシステム構築のためのユーザーテスト
 - ①助教／佐野元洋
 - ②アステラス製薬株式会社
 - ③令和3年7月16日～令和4年3月31日
 - ④慢性心不全患者の在宅自己管理のために生体情報のモニタリングを促し、そのデータを解析することで適切なタイミングでの医療介入へとつなげる、ロボティクス技術を活用したサポートシステムの構築を検討する。ロボティクス技術はユカイ工学株式会社が開発したコミュニケーションロボット（BOCCO emo）をベースとして活用し、患者が継続的にバイタルデータを自己測定しやすくするシステムとなるよう、ユーザーテストを実施し、システムの改善を図る
 - ⑤受託研究、配分予算 230,000 円

【健康増進看護学講座】

- (1) 研究プロジェクト名：Enriched Environment の概念化とそれに基づく看護ケアの検討
 - ①本研究院における研究代表者：田中裕二
 - ②パートナー：大久保暢子、青山泉、小林由紀恵、佐々木杏子、佐竹澄子
 - ③実施期間：2021年4月1日～2022年3月31日
 - ④プロジェクトの概要：看護における「Enriched Environment（豊かな環境）」の概念を Judith J. Sadler のハイブリッド概念分析手法を用いて、先行研究で明らかとなった概念、先行要件、属性、帰結をもとに、臨床看護師のインタビューおよび看護実践の参加観察によるデータ収集を行い、看護における「EE」の概念を定義する。
 - ⑤資金・助成等：一般社団法人日本看護技術学会研究助成
- (2) 研究プロジェクト名：医療用カテーテルの自己抜去予防システムの開発と効果検証
 - ①本研究院における研究代表者：雨宮歩
 - ②パートナー：株式会社アイ・メデックス
 - ③実施期間：2021年4月1日～2022年10月31日
 - ④プロジェクトの概要：認知機能低下のある高齢者の身体拘束最小化に向けて、接触センサシステムとその活用方法を開発すること。末梢点滴用システムは開発済みであったが、経鼻経管栄養チューブ用システムを開発している。プロトタイプ2号機を作製、今後臨床調査を予定している。
 - ⑤資金・助成等：千葉県産業振興財団助成金

IV. 社会貢献活動

1. 学協会等への貢献

学協会の役員等について、就任した教員（教授、准教授、講師、助教、助手）ならびに特定雇用教員（技術専門職員・技術職員を含む）の延べ数。

(延べ数)

	件 数			
	学術団体役員 (理事、評議員)	学術集会長	学術団体等委員会 委員	計
2021 年度	119	3	147	269

2. 国及び地方公共団体等への貢献

国及び地方公共団体等の機関等が設置する審議会委員・科研費審査委員などに学識経験者として参加した教員（教授、准教授、講師、助教、助手、特定雇用教員）の延べ数。審議会については名称を記載。

1) 国の機関等

(延べ数)

	件 数			計
	審議会委員	科研費審査委員	その他	
2021 年度	4 件 (★)	10	6	20

★（50音順）

- ・医道審議会保健師助産師看護師分科会
- ・政策評価に関する有識者会議
- ・保健師助産師看護師国家試験 KV 部会
- ・文科省職業実践力育成プログラム（BP）認定審査委員会

2) 地方公共団体等の機関等

(延べ数)

	件 数				計
	審議会委員	医療保険等の 審査委員	財団等の役職 (理事、評議員)	その他	
2021 年度	9 件 (★)	0	6	12	27

★（50音順）

- ・印西市予防接種健康被調査委員会
- ・児童福祉専門部会
- ・世田谷区障害者施策推進協議会
- ・千葉県医療審議会
- ・千葉県男女共同参画苦情処理委員
- ・千葉県地方精神保健福祉審議会
- ・千葉市社会福祉審議会委員

- ・東京都精神医療審査会
- ・習志野市健康なまちづくり審議会

3. メディア・報道等を通じた貢献

一般メディア及び報道機関等に取り上げられた件数。

	件 数					計
	全国紙 (ネット上含む)	地方紙等 (ネット上含む)	テレビ	ラジオ	その他	
2021 年度	3	0	0	0	5	8

4. 公開講座

日 程：令和3年11月20日（土）13:00-15:30

場 所：Web 開催（Zoom）

テーマ：異文化の環境で医療を受ける人の体験と多様な文化に配慮した看護ケア
ーあなたならどうしますかー

訪日外国人だけでなく、地域で暮らす外国とつながりのある人々が増え、病院などにおいても外国人患者と出会う機会が増加している。そこで、異文化の環境で医療を受ける人の体験と多様な文化に配慮したケアについて、参加者の体験やイメージトレーニングを交えながら理解を深めていく講座内容を企画した。また、新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から、本学部公開講座として初めてのオンライン開催とした。

講演者：1. 野地 有子教授（千葉大学大学院看護学研究院）

「海外で病気になったら、あなたならどうしますか」

2. アルジュン・タパ国際医療担当室長（社会医療法人大成会福岡記念病院）

「日本の医療における異文化理解」

3. 野崎 章子講師（千葉大学大学院看護学研究院）

「外国人患者を受け入れる看護師と病院」

参加者人数・感想：

看護や健康に関心のある高校生、市民の方が全国各地から約80名参加し、同時双方向型での聴講と質疑応答、グループワークでの意見交換を行った。グループワークでは、参加者から海外で病気になったときの実際の体験、渡航時の受診に関して不安に感じていることなどが具体的に共有され、和やかに交流していた。

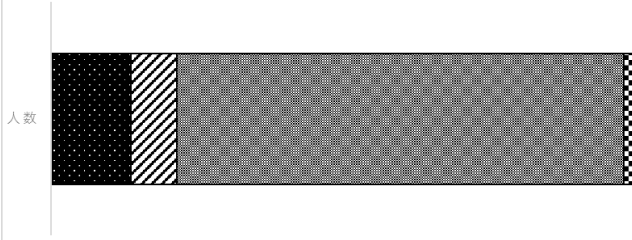
事後アンケートには51名から回答を得られた。回答者の年代は10代～60歳以上と幅広く、本学公開講座へ初めて参加したと回答した者が約8割を占めていた。グループワークでの意見交換の時間が有意義だったかという質問に対しては、19名が「とてもそう思う」、25名が「そう思う」と回答しており、オンライン開催ながらも参加者間での交流が活発に行っていたことがうかがえた。

自由記載欄にあった主な感想は、以下のとおりである。

- ・グループワークで様々な職種や環境、年齢の方の話を聞けたことが印象的だった
- ・外国人患者が日本の医療にとってすでに身近な存在であるとわかった
- ・文化の違いの捉え方と対応の実際がわかり、勉強になった

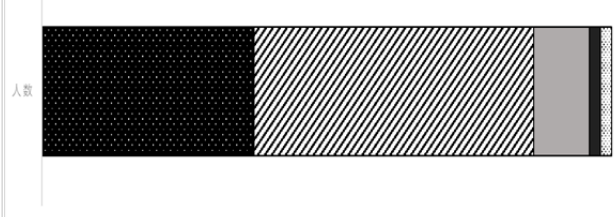
本学公開講座への参加回数

■ 2回目 ■ 3回以上 ■ 初めて参加 ■ 無回答



グループワークの意見交換の時間は有意義でしたか

■ とてもそう思う ■ そう思う ■ あまり思わない ■ 思わない ■ 無回答



V. 国際交流

1. 海外への渡航者数

教員		大学院生	
研究・研修等	学会参加	研究・研修等	学会参加
なし			

2. 海外からの来訪者数

国名	所属機関名	来学目的	人数	受入日数
なし				

3. 海外の大学との協定

1) 大学間協定

2020年4月現在で約250の大学間協定があり、そのうち看護学研究科が締結に関係した協定を掲載する。

国	大学	締結年
韓国	ソウル国立大学 (ソウル市)	2011
タイ	コンケン大学 (コンケン)	2017
タイ	プリンス オブ ソンクラ大学 (ソンクラ)	1996
台湾	台北医学大学 (台北市)	2017
中国	安徽医科大学 (安徽省合肥市)	2010
中国	大連医科大学 (遼寧省大連市)	2015
中国	中国医科大学 (遼寧省瀋陽市)	2013
アメリカ	アラバマ大学タスカルーサ校 (アラバマ州タスカルーサ)	1984
カナダ	プリンスエドワードアイランド大学 (プリンスエドワードアイランド州 シャーロットタウン)	2016
フィンランド	セイナヨキ応用科学大学 (セイナヨキ)	2000

2) 部局間協定

(1) 現在の協定大学

国	大学（場所）	締結年
韓国	ソウル国立大学看護学部 （ソウル市）	2016
タイ	コンケン大学看護学部 （コンケン）	2015
中国	大連医科大学看護学部 （大連市）	2016
中国	大連医科大学附属第一医院 （大連市）	2019
中国	復旦大学看護学院 （上海市）	2017
中国	香港大学看護学部 （香港）	2018
アメリカ	アラバマ大学バーミングハム校看護学部 （アラバマ州バーミングハム）	1990
アメリカ	サンディエゴ大学看護学部 （カリフォルニア州サンディエゴ市）	2011
イギリス	アルスター大学看護学部 （北アイルランド）	2019

(2) 過去に協定があった大学

国	大学（場所）	協定期間
中国	北京大学看護学院 （北京市）	2007-2012
中国	天津医科大学看護学院 （天津市）	2007-2017
アメリカ	ミシガン大学看護学部 （ミシガン州アナーバー）	1996-2018

編集後記

千葉大学大学院看護学研究院年報 2021 を刊行いたしました。この年報は、千葉大学大学院看護学研究院の教育・研究ならびに社会貢献等の活動内容を発信し、さらにデータベースとしての位置付けを強化していくことを目的としています。

本年報は、千葉大学看護学部紀要第 1 号（昭和 54 年 3 月発行）～第 32 号（平成 22 年 3 月発行）、千葉大学大学院看護学研究科紀要第 33 号（平成 23 年 3 月発行）～第 41 号（平成 31 年 3 月発行）の後継となるもので、令和元（2019）年度に紀要から年報へと変更しました。

本看護学研究院では、令和 3（2021）年度に諏訪さゆり研究院長体制となり、同時に改組を行い研究部門と講座が変わりました。この年報では新たな研究組織に沿った業績を掲載しています。

令和 2（2020）年度からの COVID-19 による影響は教育・研究・社会貢献活動にも大きな影響を及ぼしており、教職員や大学院生をはじめとする学生たちも十分な活動推進のできない状況が続いています。しかし、私達看護学研究院では、この困難な時であるからこそ、一人ひとりを尊重して支援する姿勢を大切にして、人々が健康かつ安寧な生活を送ることに貢献していくために、さらなる発展をめざしていきたいと願っています。この年報から、このような千葉大学大学院看護学研究院の歩みと教職員の姿勢を読み取っていただけることを期待しています。

発行までの事務を円滑に調整いただきました菊本係員をはじめ、事務部の皆様に御礼申し上げます。

図書・年報委員会 委員長 田上美千佳

図書・年報委員会委員

井出 成美、小宮山政敏、鈴木 悟子、遠山 房絵、正木 治恵（五十音順）

千葉大学大学院看護学研究院年報 2021

2022（令和 4）年 3 月発行

発行者 千葉市中央区亥鼻 1 丁目 8 番 1 号

千葉大学大学院看護学研究院

Tel : 043-222-7171（代）

ホームページ <https://www.n.chiba-u.jp/>

